朝　味噌汁、香物
晝　魚類、鯖鮮、佃煮類
夜　肉類、青菜、香物

○大阪曉明館更生訓練所

(イ) 炊事制度

炊事婦を置きて之に當らしめたるも食堂への運搬、食後の取片付は四班交代に之を手傳ひ食事の出し入れ共敏速に濟ませた。

(ロ) 食事の獻立

食事は十分に摂らせる方針にて飯は制限せず副食物も事情の許す限り豐富に與ふることゝした。同時に榮養價をも留意した。

朝は必ず味噌汁（身は豆腐又は揚げ又は野菜）を付け辨當の副食物は煮豆、乾魚、佃煮、鹽魚等を交互につけ、又漬物は本人の希望の儘に持たせた。

夕は野菜に魚の煮付、燒魚に酢の物、魚に海草類等を交互に付け又時々「すし」「五目飯」等を作らせた。

○大阪市勞働訓練所

(イ) 炊事制度

炊事制度は現場作業及通勤距離並炊事時間の關係上主として、當所雜役夫二名を以て司厨に當らしめ訓練生よりは炊事當番を定め作業出發前並歸所後交替にて其の補助を爲さしむるに止めたり。但し配膳、食器洗滌、食堂掃除等は訓練生の炊事當番これを爲すものとした。

(ロ) 食事の獻立

訓練生の年齢、體格、就業時間、勞働狀況等軍隊生活に相似せる點少くないので、最もカロリーに富むと稱せられる軍隊の獻立を參考とし、之に加ふるに市立衞生試驗所の指導により、榮養價を少くも二、五〇〇―二、七〇〇カロリー勞働激しきときは、三、〇〇〇カロリーを與へ得るやう獻立を爲す方針としたり。

而して一週間を一期とし週毎に之を更新し、安價にして新鮮、美味且榮養に富む食事の作成に腐心した。而して材料は附近の市設小賣市場と契約し特別安價にして新鮮なるものゝ供給を仰ぎたれば、大體一日一人三十五錢程度を以て十分右の目的を達した。

獻立の一例を示せば次の如し。

獻立豫定表

日別	朝食 名稱	朝食 材料	朝食 數量	朝食 金額	晝食 名稱	晝食 材料	晝食 數量	晝食 金額	夕食 名稱	夕食 材料	夕食 數量	夕食 金額
二日	大根味噌汁	大根	五〇〇	二〇	鹽昆布	鹽昆布	四〇〇	八〇	牛肉、野菜カレー揚	牛肉	四〇〇	一・八〇
		味噌	五〇〇	二五						馬鈴薯	一、〇〇〇	二・〇〇
		出汁	一〇〇	一五						ラードメリケン粉	三〇〇	二・〇〇
	漬物	漬物	二〇〇	八	漬物	漬物	二〇〇	八	カレー	カレー	一〇〇	二・〇〇
	計			六八	計			八八	計	計		三・八六
三日	白菜の味噌汁	白菜	一、〇〇〇	一九	鰯開き	鰯開き	五〇〇	六〇	野菜のケンチン	野菜のケンチン		
		味噌	五〇〇	二五						揚豆腐	四〇〇	二・〇〇
		出汁	一〇〇	一五						醬油	一〇〇	一・〇〇
	漬物	漬物	二〇〇	八	漬物	漬物	二〇〇	八		砂糖	五〇	二・三〇
	計			六七	計			六八	合計	合計		三・七〇

日別	朝食 名別	朝食 材料	朝食 數量	朝食 金額	晝食 名稱	晝食 材料	晝食 數量	晝食 金額	夕食 名稱	夕食 材料	夕食 數量	夕食 金額
四日	豆腐の味噌汁	豆腐	五丁	二五	鮭	鮭	五〇〇	一・〇〇	鰯天麩羅浸物	菠薐草	一、〇〇〇	七〇〇
		味噌	五〇〇	二五						胡麻油	五〇〇	二〇〇
		出汁	一〇〇	一五						パンケ粉	二袋	二〇〇
		漬物	二〇〇	八		漬物	二〇〇	八		醤油	〇・七	一五
		計		円 一・三五		計		円 一・七五		計		円 三・五六
五日	菜葉揚味噌汁	揚子菜	一、〇〇〇	二〇	味淋干	味淋干	五〇〇	七〇	野菜煮込	大根	一、〇〇〇	二五
		味噌	五〇〇	二五						天麩羅		
		出汁	一〇〇	一五						里芋		
		漬物	二〇〇	八		漬物	二〇〇	八		醤油	〇・七	一五
		計		二・二五		計		円 二・一五		砂糖	〇・五	一〇
										漬物	二〇〇	八
										計		円 二・六八
六日	馬鈴薯味噌汁	馬鈴薯	五〇〇	二五	花鰹	花鰹	四〇〇	五六	野菜、豚いため煮	人参	五〇〇	二五
		味噌	五〇〇	二五						牛蒡	一〇〇	四〇
		出汁	一〇〇	一五						正肉	四〇〇	一〇
		漬物	二〇〇	八		漬物	二〇〇	八		豚油	〇・七	一五
		計		円 二・三		計		円 二・八五		醤油	二〇〇	二
										漬物		
										計		円 四・二三
七日	若布味噌汁	若布	五〇〇	二〇	丸干	丸干	七〇〇	六〇	野菜煮込	牛蒡	一〇〇	七五
		味噌	一〇〇	二五		漬物				人参	一〇〇	一五
		出汁								馬鈴薯	一〇〇	一五
		漬物								醤油	〇・七	一〇
		計		円 二・五				円 八		合計		円 二・三五
八日	そうめん	そうめん	一九	二五	ひすご佃煮	ひすご	四〇〇	四九	牛肉すき焼	玉葱	三〇〇	二五
		味噌	五〇〇	二五						馬鈴薯	一〇〇	一五
		出汁	一〇〇	一五						蒟蒻	一〇〇	一〇
		漬物	二〇〇	八		漬物	二〇〇	八		焼豆腐	一〇〇	一五
		計		円 六七		計		円 五七		砂糖	〇・五	一〇
										漬物	二〇〇	八
										合計		円 二・七六
										總計		円 二四・四九

○神奈川縣勞働訓練所

(イ) 炊事制度

1. 當訓練所は炊事夫又は雑役夫等を使用せず、悉く訓練生の手になる所の訓練生共同自炊交替當番制ともいふべき制度によつて賄つた。即ち指導員指導の下に訓練生の手にて一切の買出しより煮焚き配膳、後仕末に當らしめ、只右に關する金錢の取扱ひは指導員之に當つた。
2. 炊事當番は二名宛二日間、配膳當番は一名毎日交替とす。但しこの兩當番共普通に就勞作業すること他と同じである。
3. 當番は炊事の方針に適合する樣に献立を作るは勿論一本の薪、一粒の米、一片の野菜の取扱と雖も、疎かにせざる樣注意し尚一定の材料を以て能ふ限り美味ならしむる樣工夫させ、出來上れる料理そのものゝ中に自己を發揮せしむる樣指導した。

共同自炊交替當番制はかなり苦勞ではあるが一面確かに愉快であり且明朗であり而も耐苦的であつて、炊事を通じての訓練と

いふ意味からして相當良結果を來すものゝ樣に認められた。

(ロ) 食事の獻立

1. 食事獻立方針

食事獻立の根本方針は安く甘く而も滋養分を多く攝ることにあり、而して日本國民高等學校酒井章平氏の指導に依る食物成分に於ては蛋白質と脂肪を省し炭水化物を減ずる樣にし、獻立には副食物を增加する樣にしたその結果主食物量の減少を來した。

獻立を作る者は炊事當番にして各々自由に而も充分にその創意を發揮せしむる樣に指導した。但し指導員は常に「安く而も滋養分を」をモットーにつまり經濟、嗜好、榮養の三點に注意した。その爲時には獻立の變更を命じたこともあつた。

別莊地鎌倉の物價高の所に於て一人一日大體三十五錢程度にて賄ひ、而も「甘い」「甘い」と腹一杯に喰べしめ五ケ月間に約一貫目前後も肥へたと報告する者の多いのを見ても、右方針の三點が事實に適合せる樣認められた。

2. 獻立の例

日別	朝	晝	夕
三月六日	味噌汁(わかめ、油揚)、漬物	煮豆、漬物	がんもどき二枚、ほうれん草(浸物)、漬物
三月七日	味噌汁(ほうれん草、豆腐)、漬物	切昆布煮付、鐵火味噌、漬物	目ざし(五本)、漬物
三月八日	味噌汁(葱、油揚)、漬物	鹽鮭、漬物	豚肉(十匁)、人參、馬鈴薯、葱、漬物

飯は五分搗米とし、鐵火味噌、胡麻鹽及煮豆の三品は常に食卓上に備ふ。

○横濱市勞働訓練道場

(イ) 炊事制度

使丁兼炊事夫を置き訓練生は毎日炊事當番として交替之が手傳に當つた。

(ロ) 食事の獻立

毎週間分獻立を主任指導員之を立て、時價にして一日三十錢乃至三十二錢程度にて賄ふことゝし、之に薪炭代を加へ大體三十五錢以内にて賄ひ得た。

獻立表

月日	曜	朝	晝(辨當)	夜
十二月十四日	月	味噌汁(大根100、黄粉10)、油揚10、味噌8、漬物	ポテト粉吹煮100、鐵火味噌30、漬物	野菜そぼろ煮(魚五、片栗3、大根五)、砂糖三、生姜三、漬物
十二月十五日	火	味噌汁(葱100、味噌8)、納豆30、大根おろし	がんもどき8、鹽昆布10、漬物	精進汁(ポテト一〇、小麥粉三八、味噌一五)、葱五、醤油二〇、漬物
十二月十六日	水	味噌汁(小松菜100、味噌8、鐵火味噌一五)、漬物	鹽鮭8、煮豆20、漬物	煮〆(牛蒡五五、里芋二〇、削節三)、砂糖一三、油揚一〇、干瓢八、漬物
十二月十七日	本	味噌汁(豆腐100、葱8)、煮豆20、味噌8、漬物	馬肉味噌煮(肉六〇、油・味噌一五)、漬物	呉汁(卵の花五五、葱三五)、味噌六〇、油揚一〇、だし粉三、漬物
十二月十八日	金	味噌汁(里芋100、味噌8、黄粉10)、漬物	刻するめ(するめ三〇、砂糖一〇、醤油一五)、漬物	鮭めし(鮭五〇、人參一〇、牛蒡五〇、葱四〇)、白砂糖五、青豆二〇、だし粉三、醤油三五、漬物
十二月十九日	土	味噌汁(大根100、味噌8、納豆30)、大根おろし	煮豆(金時豆五、昆布七、生姜三)、鹽三、赤砂糖二〇、醤油一〇、漬物	葛煮(豆腐二〇、大根100、生姜四、醤油二〇)、片栗四、油一〇、砂糖四、だし粉三、漬物

月日	曜	朝	晝（辨當）	夜
十二月二十日	日	味噌汁 味噌（油揚 煮豆）小松菜100 二10 二10 漬物	干鰯七0 黄粉二0 漬物	卯の花炒 卯の花三0 鰯四0 人參 砂糖三 牛蒡 醤油二0 漬物

一、食品下の數字は瓦、醤油はccとす　二、黄粉には等分の白砂糖と鹽微量を入る　三、夜は漬物又はおひたしを用ゆ　四、米は一回二合弱とし玄米又は三分搗米を用ゆ　五、代價三十二錢以内とす

○名古屋市自彊會道場

(イ) 炊事制度

共同炊事若くは交替當番制は勞働時間の都合上完全なる實施不可能なるを以て、補助指導員として一燈園より派遣せられたる炊事夫をして擔當せしめた。但し配膳跡片附等は道場生をして當番を設け之に從事せしめた。

(ロ) 食事の獻立

献立に關しては市立衛生試驗所黒田榮養技師の指導に依り、成人男子勞働者一日の榮養所要量約二、八〇〇カロリーを標準として献立を作成した。

實施献立の二、三を例示すれば左の如し。

朝食	晝食（辨當）	夕食
味噌汁（味噌、煮干粉、大豆、大根、若布）	竹輪甘煮	さつま汁（豚肉、人參、油揚、味噌）
味噌汁（味噌、煮干粉、白菜）	燒豆腐、馬鈴薯	五目飯（削節、油揚、牛蒡、人參）

○神戸市傳給生活者訓練所

(イ) 炊事制度

炊事は訓練生相互の交替當番制による共同炊事制度とす、即ち訓練生二十名を四班に分ち、各班に班長を置き班長を中心として交替制により、自主的に共同炊事を行はしめた。

團體的規律訓練と責任觀念の養成とは更生訓練の主要なる目的の一である。共同炊事制度は訓練所生活の大家族制に自づと親和力を增進したばかりでなく、之により統制された最も緊張せる規律と獨創的な責任觀念の涵養に役立つものと思はれた。

(ロ) 食事の獻立

古來生命は食にありと云はれた如く榮養の健康に及ぼす關係は重大である。當訓練所の食事献立方針は經濟的方面と榮養的見地より考慮し、「三十五錢以内に於てビタミン及五大榮養素を含み且バランスの好く取れた榮養食」の献立を方針とした。之が爲市公設食堂より專門家を招き訓練生に「榮養食に關する基礎的知識」を聽講せしめ、更に公設食堂と緊密なる連絡をとり、榮養素の全部に亘つて攝取し得る食事を献立することに努めた。但し二月の訓練生中風邪に冒かされた者多かつた場合の如きはカロリーを多分に攝取せしめる爲一日三十五錢の標準を多少超過したこともあつた。

献立の例左の通り。

献立表

日割	曜	朝食	晝食	夕食
二月二十一日	月曜	飯（味噌汁、漬物、煮豆）	飯（漬物、ヒロース煮付）	飯（漬物、鰯フライ）
二月二十二日	火曜	飯（味噌汁、漬物、佃煮）	飯（漬物、野菜揚物）	飯（漬物、豚肉コマ切寄煮）

日割	曜	朝食	晝食	夕食
二月二十三日	水曜	飯(味噌汁、漬物、鹽昆布)	飯(漬物、燒魚)	飯(漬物、玉子卷燒)
二月二十四日	木曜	飯(味噌汁、漬物、煮豆)	飯(漬物、魚、野菜、寄煮)	ライスカレー、ほうれん草浸しもの
二月二十五日	金曜	飯(味噌汁、漬物、佃煮)	飯(漬物、梅干、ヒジキ)	飯(漬物、烏賊、燒豆腐寄煮)
二月二十六日	土曜	飯(味噌汁、漬物、鹽昆布)	飯(漬物、煮魚)	飯(漬物、野菜寄煮)
二月二十七日	日曜	飯(味噌汁、漬物、福神漬)	飯(漬物、がんもどき關東煮)	飯(漬物、薩摩汁)

○神戸市勞働者訓練所

(イ) 炊事制度

訓練生を五班に分ち班別交替當番制に依る自炊を行ふ、當番班は班長の指揮により午前四時に起床炊事一切に從事した、夕食も亦終業後前と同じ。夕食點呼後當番班長は指導員立會の上翌番班長に一切の引繼をなす。

(ロ) 食事の獻立

食料品諸材料は努めて廉價にして榮養價あり且新鮮なる物の選定購入方法を講じた。副食物は一人に付朝食二錢、晝食(辨當)一錢五厘、夕食五錢位の豫算にて獻立した。

獻立の例左の通。

獻立表

日割	員數	朝食	晝食	夕食
二十三日	一二人	味噌汁(ダシ、麩、野菜)、漬物	梅干	鯖煮付(センギリ)、漬物
二十四日	一二	味噌汁(わかめ、ダシ)、漬物	鹽魚、漬物	牛蒡、竹輪、人參、煮ダシ、漬物
二十五日	一二	味噌汁(ダシ、葱、麩)、漬物	梅干、漬物	牛肉煮(玉葱、馬鈴薯)、漬物
二十六日	一二	味噌汁(わかめ)、漬物	梅干、漬物	燒魚、青菜、漬物
二十七日	一二	味噌汁(葱、麩、ダシ)、漬物	乾魚、漬物	野菜煮(青菜、油揚、ダシ)、漬物
二十八日	一二	味噌汁(わかめ)、漬物	梅干	魚煮付(大根)、漬物
二十九日	但壹一二人	味噌汁、青菜、漬物	梅干	カレーライス、(牛肉、カレー粉、馬鈴薯、玉葱)、漬物

○鶴岡驛勞働訓練所

(イ) 炊事制度

炊事は階下の八幡市勞働宿泊所に一日一人三十錢見當を以て委託した。食前、食後に於ける食堂飯臺の整頓清掃は訓練生當番制に依りこれに當つた。

—食前の感謝合掌—　（福岡縣）

（ロ）食事の献立

前記の通り勞働宿泊所に委託し委託費額の範圍にて榮養に富むものを献立する樣指導に努めた。

献立の例

朝食

米飯（盛り切一杯）約一・八合——二合、味噌汁（和布入り）一杯約二合、香の物

晝食（辨當）

米飯（約二合）、ソボロ、香の物

夕食

米飯（盛切一杯）約二合、鰯（大二尾）煮附一皿、香の物

（八）勤勞訓練及貯金

勤勞訓練は精神訓練と併せ本施設に於て最も重視する事項である。勤勞事業は別項認可計畫に示す通神戸市俸給生活者訓練所の小額給料生活者失業應急事業（調査統計等の智的勞務事務）を除いては何れも一般勞働者失業應急事業其の他公

營、民間等の土木事業である。訓練生は之に依り一面身體を鍛錬すると共に他面その賃銀に依りて生活資料を得又その一部を貯金して他日の就職資金に備ふるのである。毎朝指導員引率の下にカーキ色のユニーホームに喇叭を吹奏して隊伍堂々現場に出向き、終日一同力を協せて精一杯働き一日の作業終れば又朝同樣隊伍を組んで整然として歸所する光景は想像するだに何となく愉快である。

各所合計の訓練日數一、九八一日中稼働日數は別表(三)の通一、六五三日にして此の延人員三六、九三三人、稼得賃銀額四六、八〇〇圓〇三錢なり、右稼働延人員三六、九三三人を訓練在所延人員四七、八一九人に對比し延一〇、八八六人其の割合二二・八%の休働人員あるも右は別表(四)に示す通雨天等の天候に因るもの五〇・四%（別表(五)天候表參照）病氣又は傷痍に因るもの一六・〇%、祝祭日其の他公休日一六・〇%を含み以上三者の合計のみにても八二・四%に達する次第に付已むを得ざる事情と認めらる。尚訓練在所延人員に對し稼働延人員の割合の最も高きは京

—朝露踏んで作業現場へ—　（大阪市）

—勤勞訓練—　（東京市）

都市の八七・七％にして最も低きは東京市の六八・四％なり、東京市の低きは同表備考說明の通炊事及事務當番者は當日稼働せず訓練所に於て當番仕事に專念し之に對しては他の稼働者に於てその收得賃銀を共同計算して分與する制度を採れる爲に因るものと認めらる。

總稼働延人員一人當平均收得賃銀は一圓二六錢に當り各所を通じその多きは東京市の一圓五〇錢、大阪府阿武野の一圓四一錢等にしてその少きは福岡縣の一圓〇六錢、神戸市俸給生活者の一圓〇九錢等なり。又休働者を含む訓練在所延人員一人當平均に就いて見れば總體の平均は九七錢に當り、その多きは大阪府阿武野の一圓一五錢、横濱市の一圓〇八錢等にして、その少きは福岡縣の七五錢、神戸市俸給生活者の八四錢等なり。尙終了者一人當の稼得賃銀額は別表(六)の通一四八圓五七錢である。

稼得賃銀中食費及若干の小遣錢を差し引いた殘餘は更生貯金として半ば强制的に貯蓄せしむるのであるが、その額は別表(五)の通預入は一應二二、八四〇圓六一錢に達したが中途に於て已むを得ざる事由に因り拂戻す者あり、差引結局終了者の終了當時の現在金額は一六、九五六圓三五錢にして、一人當最高は大阪府阿武野の一六一圓四〇錢、最低の一は神戸市俸給生活者の五圓〇〇錢で、平均五七圓二八錢となつて訓練終了後の生業資金たらしめて居る。尙この終了者貯金額の稼得賃銀額に對する割合別表(六)の通三八・五％に當つて居る。兎角賃

—巖石を碎いて・稻村ケ崎—　（神奈川縣）

越の金は持たぬなどと云つてその日に稼ぎ得た賃銀の殆んど全部をその儘飲食、遊興等に費して貯蓄する等とは曾て夢想だもしなかつた連中の訓練生に貯金の有難さと必要を感じさせ、貯蓄心を養成し、

—力を協せて勤勞作業—　（大阪市）

(三) 稼得賃銀、食費、小遣額調

経済観念を涵養させ得たことは生活態度指導上確かに效果あつたことゝ思はれる。

施行主體	訓練所名	月別	訓練日數	稼働日數	訓練所延人員	稼働延人員	休働延人員	稼得賃銀	同上ノ稼働人員一人當平均額	同上ノ訓練所延人員一人當平均額	食費額	同上ノ訓練所在人一日當平均額	小遣額	同上ノ訓練所在人一日當平均額
東京市	東京勞働市場	十二月	三日	二五日	一、六四八人	一、一九三人	四五五人	一、五五〇・八六円	一・二九円	〇・九四円	四六七・二三円	〇・二八円	二九二・四〇円	〇・一八円
		一月	三一	二三	一、四四二	九七七	四八五	一、一四六・七〇	一・一九	〇・七九	三四〇・二六	〇・二四	九七・五〇	〇・〇七
		二月	二八	二〇	一、三一八	八三八	四八〇	一、二九二・三四	一・五四	〇・九八	三六六・九一	〇・二八	一四一・三〇	〇・一一
	江戸川市修道館	三月	三三	二七	一、四三三	一、〇六八	三五四	一、九一八・五五	一・七九	一・三四	三五二・九〇	〇・二八	一二六・一〇	〇・一〇
		四月	二〇	一四	九一一	五五五	三五六	一、〇三四・七八	一・八六	一・一三	二四〇・六〇	〇・二六	一二三・五〇	〇・一二
		計	一四一	一〇九	六、七四一	四、六一一	二、一三〇	六、九四三・二三	一・五〇	一・〇三	一、八〇七・九〇	〇・一七	七八二・七〇	〇・一二
京都市	京都市勞働生産更生訓練所	十月	三一	二〇	一、〇一四	九三一	八三	一、〇五七・六五	一・一三	一・〇四	三三一・七七	〇・三二	二六二・五〇	〇・二六
		十一月	三〇	二八	九一七	八一七	一〇〇	九五九・七〇	一・一七	一・〇四	二八九・三七	〇・三二	三三五・四三	〇・二七
		十二月	三二	三〇	八六八	七八六	八二	一、〇〇五・八五	一・二七	一・一二	二七八・四〇	〇・三二	二七四・四三	〇・二七
		一月	三二	二八	八五二	七二八	一二三	七四一・二五	一・〇二	〇・八七	二六四・六〇	〇・三二	一八八・一四	〇・二四
	勞働者訓練場	二月	二四	二四	七四二	五九二	一五〇	六九一・三五	一・一六	〇・九三	二三五・五八	〇・三二	一六二・一〇	〇・二二
		計	一五一	一四〇	四、三九二	三、八三四	五五八	四、四五五・八〇	一・一五	〇・九〇	一、二六九・九二	〇・三二	一、四二七・六五	〇・二二
大阪府	大阪府阿武野訓練所	十月	一六	一二	四〇七	三一九	八八	三五三・八〇	一・一〇	〇・八六	一四二・四五	〇・二五	四一・四五	〇・一一
		十一月	三〇	二八	六九〇	六一四	七六	九五一・八〇	一・五五	一・二五	二四一・五〇	〇・二五	九六・六〇	〇・一四
		十二月	三三	三三	七一三	六〇四	一〇九	九八九・九〇	一・六三	一・三八	二四九・五五	〇・二五	一〇六・九五	〇・一五
		一月	三三	三三	六八三	五五〇	一三三	八〇一・〇〇	一・四五	一・一七	二三九・〇五	〇・二五	一二六・六〇	〇・一〇
		二月	三三	二六	六二三	四二一	一九三	六二四・五五	一・一九	〇・九〇	二二四・五五	〇・二五	七三・六五	〇・〇二
大阪府尼更生訓練所	財團更生法人訓練所	十月	一八	一四	二六〇	二五一	一四四	一〇九	二三四・〇〇	〇・九三	一〇八・〇〇	〇・二〇	一七四・〇〇	〇・二〇
		十一月	三〇	二三	五一〇	三六六	一四四	一二〇	五九・五〇	一・〇五	一五三・〇〇	〇・二〇	三三・七〇	〇・二〇
		十二月	三二	二六	五二七	三九七	一四七	一四七・〇六	六四六・七〇	一・二二	一五八・一〇	〇・二〇	二三〇・四六	〇・二〇
		一月	三二	二六	五二七	三八〇	一二〇	五七〇・九〇	五七七・〇六	一・五四	一五八・一〇	〇・二〇	二二〇・〇〇	〇・二〇
		二月	二八	二四	四七六	三六三	九九	五一四・九五	四四二・七九	一・二二	一四一・八〇	〇・二〇	三六〇・一九	〇・二〇
	人法生訓練所	三月	一六	一三	一七六	一四〇	三六	八一	一八三・一〇	一・〇二	五二・八〇	〇・二〇	一二〇・〇一	〇・二〇
		計	一五六	一三五	三、六一四	二、九五三	六六一	五二四	二、八六二・七〇	一・三二	一、二六四・九〇	〇・二五	七〇五・八五	〇・二五
	四恩武訓練所	十月	一八	一四	五〇八	四四五	六三	四五七・三一	一・〇三	〇・九〇	一七七・八〇	〇・二五	一〇一・六〇	〇・一五
		十一月	三〇	二三	三七八	二一〇	三六	八一	一八三・一〇	一・二九	一八四・〇〇	〇・二〇	二二〇・〇一	〇・二五
		十二月	三二	二六	三六〇	二〇〇	一四七	九五	一五六・六〇	一・〇七	一八四・四五	〇・二五	三二二・〇五	〇・二九
		一月	三二	二六	四〇三	二七〇	一二〇	七九	一四八・一〇	一・〇八	一五八・一〇	〇・二〇	六二・九五	〇・二二
		二月	二八	二三	三七三	二八〇	一二七	九九	一六六・六〇	一・〇八	一六六・六〇	〇・二五	一〇五・〇五	〇・二二
	人訓練所	三月	一六	一三	一七六	一四〇	三六	六六一	一二三・〇五	一・二四	一二三・〇五	〇・二五	八一・九〇	〇・二二
		計	一五六	一三五	三、六一四	二、九五三	六六一	五二四	二、八六二・七〇	一・三二	一、二六四・九〇	〇・二五	七〇五・八五	〇・二五
	大阪府更生訓練所	十月	一八	一四	三七八	三三四	五四	四八二・二六	一・四八	一・〇三	一七七・八〇	〇・二〇	一〇一・六〇	〇・一五
		十一月	三〇	二六	三六〇	二一〇	一五〇	二六四・〇九	一・二五	一・〇二	一四四・〇〇	〇・二〇	一二〇・〇一	〇・二五
		十二月	三二	二六	四〇三	二七〇	七一	四五〇・三三	一・三五	一・〇七	一四七・〇〇	〇・二〇	三三二・〇五	〇・二九
		一月	三二	二六	三七三	二六八	一四〇	三三〇・三二	一・二二	一・〇八	一五八・一〇	〇・二〇	六二・九五	〇・二二
		二月	二八	二三	二六〇	二二七	一二三	二七〇・〇七	一・二五	一・〇八	一六六・六〇	〇・二五	一〇五・〇五	〇・二二
	館明治訓練所	三月	一六	一三	一七六	一四〇	六六一	四五四・三一	一・〇三	〇・九〇	一七七・八〇	〇・二〇	七四・四〇	〇・二〇
		計	一五六	一三五	三、六一四	二、九五三	六六一	五二四	二、八六二・七〇	一・三二	一、二六四・九〇	〇・二五	七〇五・八五	〇・二五

縣	岡	福	市	戸	神	市	屋	古	名
所練訓働勞縣岡福			働勞所練訓市戸神者		給所練訓市戸神活生		場遊屋令古驅自		名自
二月	一月	十月	計	五月	三月	一月	二月	十月	計
三、三三	三、三三	三、三七	三、三三	三、三三	三、三六	四、三二	三、三六	三、三三	四、九六
九、三二	三、三三	三、三五	三、三六	三、三六	三、三九	三、三四	三、三六	三、三五	三、三六
三、三二	七、四五	八、七〇	三、三五	三、三六	三、三六	三、三七	四、三六	九、四三	八、八三
四、四三	四、四六	五、八六	四、四三	三、四九	三、四六	四、三六	四、四六	九、六六	四、四六
三、三九	三、三六	三、三四	三、三六	三、四九	三、三六	三、三九	三、三六	三、三四	三、三九
一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三	四、九三
二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六
〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六	〇、三六
九、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二	五、七二
〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇

市	滋	賀	縣	川	奈	神	市	阪	大	主體	施行
場遊練訓働勞市滋賀			所練訓働勞縣川奈神				所練訓働勞市阪大			所名	訓練
二月	一月	十月	計	五月	三月	一月	二月	十月	計	月	訓練
三、三四	三、三六	三、三九	三、三七	三、三七	三、三四	三、三四	三、三六	三、三四	三、三七	日數	訓練
三、三四	三、三六	三、三九	三、三七	三、三七	三、三四	三、三四	三、三六	三、三四	三、三七	日數	稼働
四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	四、八五	訓練在所延人	訓練在所延人
三、三三	三、三六	三、三九	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	三、三六	稼働延人員	稼働延人員
一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	一、八七	休働延人員	休働延人員
四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	四、五六	稼働延人員	稼働延人員
一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	稼働延人員	稼働延人員
一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	均人人稼同額當員働上平一延ノ	均人人稼同額當員働上平一延ノ
一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	當人稼同平員在上均一所ノ額人延測	當人稼同平員在上均一所ノ額人延測
一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	一、六六円	食費額	食費額
〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	平一所訓同均日一練上額當人在ノ	平一所訓同均日一練上額當人在ノ
〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	小遣額	小遣額
〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	〇、〇〇円	平一所訓同均日一練上額當人在ノ	平一所訓同均日一練上額當人在ノ

(四) 休働事由及稼働者割合調

備考　本表に於て「小遣」とは稼得賃銀の内本人の自由處分を認めたるものを指す。

施行主體	訓練所名	月別	訓練日數	稼働日數	訓練在所延人員	稼働延人員	休働延人員	稼得賃銀	同上稼働人員一人當平均額	同上訓練在所人員一人當平均額	食費額	同上訓練在所人員一日一人當平均額	小遣額	同上訓練在所人員一日一人當平均額
計		計	一、九八一	一、六五三	四、九八二	三六、九三三	一〇、八八六	四六、八〇〇・〇三	一・一六	〇・九七	一五、二五〇・〇五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・二三
東京市	東京市働労訓練所	十二月	三三	三〇	四五人	三五、九三三	一、三五四	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九九	八七・九〇	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		十一月	一、九二	一、六五三	四五人	三六、〇七八	一、五一九	六、一五五・六〇	一・二五	〇・九二	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		一月	三七三	三一七	三八五	七、四二六	二、一四二	九、六一四・一八	一・〇九	〇・九二	二、八〇七・八二	〇・三二	二六・九五	〇・〇八
		二月	三六六	二八六	三六四	六、〇七八	二、三〇一	八、五三〇・三七	一・一〇	〇・九二	二、九〇九・七八	〇・三二	一、七六四・〇〇	〇・一九
		三月	二六六	二三六	二八六	四、六八二	一、五一九	七、九六一・七三	一・一二	〇・九九	二、八六五・一六	〇・三二	一、五七一・二四	〇・一八
		四月	五〇	四二	八六		四七八	六、一五五・六〇	一・六六	〇・九九	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		五月	三	三〇	二五五	二九〇	六五	四七七・八五	一・六四	〇・九七	一・〇五	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
計		計	一、九二	一、五八	五、一五三人	四、一九九人	九五四人	四、八三六・七四円	一・一五円	〇・九三円	一、五七〇・一四円	〇・三〇円	一、二七八・七九円	〇・二五円
東京市働労訓練所	東京市修練所	十一月	三七三	二七六	七、六二三	六、〇七八	一、五二四	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九二	二、四二一・七〇	〇・三二	二、〇〇四・〇五	〇・二六
		十二月	三七三	三一七	九、三一九	七、四二六	一、八九三	九、六一四・一八	一・〇三	〇・九三	三、〇五七・八六	〇・三三	二、八〇七・八二	〇・三〇
		一月	三八五	三一八	九、三二九	七、〇八七	二、一四二	八、五三〇・三七	一・一〇	〇・九二	二、九〇九・七八	〇・三二	一、七六四・〇〇	〇・一九
		二月	三六四	二八六	八、六四六	六、三四五	二、三〇一	七、九六一・七三	一・一二	〇・九九	二、八六五・一六	〇・三二	一、五七一・二四	〇・一八
		三月	二六六	二三六	六、一〇一	四、六八二	一、五一九	六、一五五・六〇	一・三一	〇・九九	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		四月	五〇	四二	一、三〇四	八六六		四七七・八五	一・六六	〇・九七	一・〇五	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		五月	三	三〇	三五五	二九〇	六五	四六、八〇〇・〇三	一・二六	〇・九七	一・三五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
計		計	二、一三〇	一、六五三	四、八〇一	三五、九三三	一〇、八八六	四六、八〇〇・〇三	一・一六	〇・九七	一五、二五〇・〇五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三五六	二六六	四五人	三五、九三三	一、三〇一	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九九	八七・九〇	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		十一月	三五四	二七六	四八〇	三五、〇七八	一、六八	六、一五五・六〇	一・二五	〇・九二	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		一月	三五五	三一七	四五人	三六、四二六	二、〇一一	七、〇八七・〇七	一・一〇	〇・九二	二、八〇七・八二	〇・三二	二、一四二・〇一	〇・二二
		二月	三六四	二八六	四五人	三六、三四五	二、三〇一	七、九六一・七三	一・一二	〇・九二	二、九〇九・七八	〇・三二	二、三〇一・〇一	〇・二二
		三月	二六六	二三六	四八〇	三五、三四	一、六八	六、一五五・六〇	一・三一	〇・九九	一、九七七・〇九	〇・二七	一、六八・五六	〇・一四
		四月	五〇	四二	一五〇人	三五、〇七八	二二	四七七・八五	一・六六	〇・九七	一・〇五	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		五月	三	三〇	一五〇人	三六、三三	二二	四六、八〇〇・〇三	一・二六	〇・九七	一・三五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
計		計	二、一三〇	一、六五三	一五〇人	三五、九三三	一〇、八八六	四六、八〇〇・〇三	一・一六	〇・九七	一五、二五〇・〇五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三五六	二六六	四五人	三五、九三三	一、三〇一	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九九	八七・九〇	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		十一月	三五四	二七六	四八〇	三五、〇七八	一、六八	六、一五五・六〇	一・二五	〇・九二	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		一月	三五五	三一七	四五人	三六、四二六	二、〇一一	七、〇八七・〇七	一・一〇	〇・九二	二、八〇七・八二	〇・三二	二、一四二・〇一	〇・二二
		二月	三六四	二八六	四五人	三六、三四五	二、三〇一	七、九六一・七三	一・一二	〇・九二	二、九〇九・七八	〇・三二	二、三〇一・〇一	〇・二二
		三月	二六六	二三六	四八〇	三五、三四	一、六八	六、一五五・六〇	一・三一	〇・九九	一、九七七・〇九	〇・二七	一、六八・五六	〇・一四
		四月	五〇	四二	一五〇人	三五、〇七八	二二	四七七・八五	一・六六	〇・九七	一・〇五	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		五月	三	三〇	一五〇人	三六、三三	二二	四六、八〇〇・〇三	一・二六	〇・九七	一・三五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二

施行主體	訓練所名	月別	不就労 延人員	休働事由 雨天	傷痍	疾病	怠惰	疲労	家事都合	祝祭日公休	就職の爲歸郷	其ノ他	在所延人員	稼働延人員	在所延人員ニ對スル稼働延人員ノ割合
計		計	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七	六、七四一人	四、六一二人	六八・四%
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		十一月	三五四	一六六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		一月	四八〇	一六八	二	一二	一	一	一	一	一	一			
		二月	四五五	二三五	一	一二	一	一	一	一	一	一			
		三月	三五四	一二六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		四月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		五月	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七			
計		計	一、九八一	一、六五三	四、九八二	三六、九三三	一〇、八八六	四六、八〇〇・〇三	一・一六	〇・九七	一五、二五〇・〇五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三三	三〇	四五人	三五、九三三	一、三五四	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九九	八七・九〇	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		十一月	三七三	三一七	四五人	三六、〇七八	一、五二四	七、八四六・〇五	一・一九	〇・九二	一、九七七・〇九	〇・二七	一、三八・五六	〇・一四
		一月	三八五	三一八	四五人	三六、四二六	二、一四二	九、六一四・一八	一・〇九	〇・九二	三、〇五七・八六	〇・三三	二、八〇七・八二	〇・三二
		二月	三六四	二八六	四五人	三六、三四五	二、三〇一	八、五三〇・三七	一・一〇	〇・九二	二、九〇九・七八	〇・三二	一、七六四・〇〇	〇・一九
		三月	二六六	二三六	四八〇	三五、三四	一、六八	六、一五五・六〇	一・三一	〇・九九	一、九七七・〇九	〇・二七	一、五七一・二四	〇・一八
		四月	五〇	四二	一五〇人	三五、〇七八	二二	四七七・八五	一・六六	〇・九七	一・〇五	〇・二四	二六・九五	〇・〇八
		五月	三	三〇	一五〇人	三六、三三	二二	四六、八〇〇・〇三	一・二六	〇・九七	一・三五	〇・二四	一〇、九七七・〇八	〇・三二
計		計	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七			
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		十一月	三五四	一六六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		一月	四八〇	一六八	二	一二	一	一	一	一	一	一			
		二月	四五五	二三五	一	一二	一	一	一	一	一	一			
		三月	三五四	一二六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		四月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		五月	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七			

施行主體	訓練所名	月別	不就労 延人員	休働事由 雨天	傷痍	疾病	怠惰	疲労	家事都合	祝祭日公休	就職の爲歸郷	其ノ他	在所延人員	稼働延人員	在所延人員ニ對スル稼働延人員ノ割合
計		計	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七			
東京市働労訓練所	東京市修練所	十二月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		十一月	三五四	一六六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		一月	四八〇	一六八	二	一二	一	一	一	一	一	一			
		二月	四五五	二三五	一	一二	一	一	一	一	一	一			
		三月	三五四	一二六	二	一四	一	一	一	一	一	一			
		四月	三五六	一二六	二	一五	一	一	一	一	一	一			
		五月	二、一三〇	九七〇	三六	一三四	一五	一四六	八八	一三八	一四七	六〇七			

施行主體	訓練所名	月別	不就勞延人員	休働事由 雨天	傷痍	疾病	怠惰	疲勞	家事都合	祝祭日休公	訪問事業ノ都合上	就職ノ爲	歸鄉	其ノ他	在所延人員	稼働延人員	在所延人員ニ對スル稼働延人員ノ割合
大阪府	大阪市勞働訓練所	十月	二、七九九	一、九一一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		十一月	一、七九九	二、三〇一	一〇	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		十二月	一、五九	二、三四	六三	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		一月	二、二四	二、二五	一二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		二月	一八九	一五五	一二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		三月	二七七	一五七	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		計	一、三〇七	八一九	四四	一七	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
	大阪明晩館更生訓練所	十月	五四	二一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		十一月	一五〇	七二	二九	一	二四	六	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		十二月	七一	一〇四	二四	一	二一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		一月	一五四	二五	二五	一	一五	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		二月	二四	五三	一〇四	一	二一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		三月	二四	一〇	一〇四	一	二四	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		計	四五六	一九三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
	大阪四人法團財團學生訓練所	一月	一四七人	四二日	一六日	二四日	四日	一日	一日	四五日	一日	一日	六日	一日	二、八七六人	二、二〇三人	七六・五%
		二月	一二三	七五	六	二〇	二	一	一	一	一	一	一	一			
		三月	三〇	一五	七	八	九	一	一	四五	一	一	一〇	一			
		計	六七三	三六四	五三	一九二	一五	一	一	四五	一	一	一〇	一			
神奈川縣	川縣勞働訓練所	十二月	一六五	一一	一六	三五	一	一	一	一	一	一	二	一	三、六七五	二、六九九	七三・四
		一月	二三八	一〇八	一四	一二	一	一	一	一	一	一	一四	五			
		二月	一九三	一六八	五	六	一	一	一	一	一	一	九	四			
		三月	三一四	二二六	四〇	一九	一〇	一	一	一	一	一	一	二			
		計	九七六	六九六	八五	一九	一〇	一	一	一	一	一	二	一八			
横濱市	横濱市勞働訓練道場	十月	六二	六〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四、〇六〇	五、五一三	八六・五
		十一月	九三	六八	七	一〇	二	一	一	一	一	一	一	一			
		十二月	二三	九〇	九	一二	一〇	一	一	一	一	一	一	一			
		一月	五八	一八	一九	二二	二	一	一	一	一	一	一	一			
		二月	一二五	七八	一九	二二	二	一	一	一	一	一	一	一			
		三月	九七	五〇	六四	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	五四七	三四六	六四	五六	八	一	一	一	一	一	一	一			
名古屋市	名古屋市張道會場	十月	一六九	一二五	一四	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三、七二二	二、七八六	七五・〇
		十一月	二三四	一一三	一	一五	一	一	一	一	一	一	一	一			
		十二月	二二四	一八三	一	一二	一	一	一	一	一	一	一	一			
		一月	二二六	一三五	一一	一二	一〇	一	一	一	一	一	一	一			
		二月	九六六	四七	一六	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	九六六	三八六	一六	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
神戸市	神戸市活者訓練所	十一月	九五	一一	一六	三五	三	一	一	六五	一	一	二九	一	二、六九九	二、一六〇	七七・四
		十二月	一七八	一六八	一〇	二二	二	一	一	一三三	一	一	四三	一			
		一月	九〇	一〇〇	五	一〇	一	一	一	八〇	一	一	八九	一			
		二月	九八	一八	一	一八	一	一	一	八〇	一	一	一	一			
		三月	一六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	九五二	一一二	一六	三五	三	一	一	六五	一	一	二九	一			
神奈川	川縣勞働訓練所	十月	一六〇	八三	二四	四一	六	一	一	一	一	一	六	六	一、三〇七	一、〇〇七	七七・四
		十一月	六	一	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	一六〇	八三	二四	四一	六	一	一	一	一	一	六	六			

施行主體	訓練所名	月別	不就勞延人員	休働事由 雨天	傷痍	疾病	怠惰	疲勞	家事都合	祝祭日休公	訪問事業ノ都合上	就職ノ爲	歸鄉	其ノ他	在所延人員	稼働延人員	在所延人員ニ對スル稼働延人員ノ割合
神奈川	川縣勞働訓練所	十二月	一六五	一一	一六	三五	三	一	一	六五	一	一	二九	一	三、六七五	二、六九九	七三・四
		一月	二三八	一〇八	一四	一二	二	一	一	一三三	一	一	四三	一			
		二月	一九三	一六八	五	六	一	一	一	八〇	一	一	八九	一			
		三月	三一四	二二六	四〇	一九	一〇	一	一	八〇	一	一	一	一			
		計	九七六	六九六	八五	一九	一〇	一	一	八〇	一	一	二九	一			
横濱市	横濱市勞働訓練道場	十月	六二	六〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四、〇六〇	五、五一三	八六・五
		十一月	九三	六八	七	一〇	二	一	一	一	一	一	一	一			
		十二月	二三	九〇	九	一二	一〇	一	一	一	一	一	一	一			
		一月	五八	一八	一九	二二	二	一	一	一	一	一	一	一			
		二月	一二五	七八	一九	二二	二	一	一	一	一	一	一	一			
		三月	九七	五〇	六四	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	五四七	三四六	六四	五六	八	一	一	一	一	一	一	一			
名古屋市	名古屋市張道會場	十月	一六九	一二五	一四	九	一	一	一	一	一	一	一	一	三、七二二	二、七八六	七五・〇
		十一月	二三四	一一三	一	一五	一	一	一	一	一	一	一	一			
		十二月	二二四	一八三	一	一二	一〇	一	一	一	一	一	一	一			
		一月	二二六	一三五	一一	一二	一〇	一	一	一	一	一	一	一			
		二月	九六六	四七	一六	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	九六六	三八六	一六	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一			
大阪府	大阪市勞働訓練所	十月	二七九	一九一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一、九九三	一、五六六	七七・一
		十一月	一七九	一三〇	一〇	一	三	一	一	一	一	一	一	一			
		十二月	一五九	六三	一二	一	一	一	一	一	一	一	一	一			
		一月	二二四	二二四	二四	二一	一	一	一	一	一	一	一	一			
		二月	一八九	一五五	一二	一五	一	一	一	一	一	一	一	一			
		三月	二七七	一五七	一〇	一四	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	一、三〇七	八一九	四四	一七	一	一	一	一	一	一	一	一			
大阪四人法團財團學生訓練所		一月	一四七人	四二日	一六日	二四日	四日	一日	一日	四五日	一日	一日	六日	一日			
		二月	一二三	七五	六	二〇	二	一	一	一	一	一	一	一			
		三月	三〇	一五	七	八	九	一	一	四五	一	一	一〇	一			
		計	六七三	三六四	五三	一九二	一五	一	一	四五	一	一	一〇	一			
神奈川	川縣勞働訓練所	十月	一六〇	八三	二四	四一	六	一	一	一	一	一	六	六	一、三〇七	一、〇〇七	七七・四
		十一月	六	一	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一			
		計	一六〇	八三	二四	四一	六	一	一	一	一	一	六	六			

施行主體	訓練所名	月別	不就労延人員	休働事由 雨天	傷痍	疾病	怠惰	疲労	家事都合	祝祭日公休	流浮業事ノ都合上	就職ノ爲	歸郷	其ノ他	在所延人員	稼働延人員	在所延人員ニ對スル稼働延人員ノ割合
神戸市	神戸市勞働者訓練所	一月	一九人	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	二、三六九人	一、八七六人	七九・一%
		二月	一四九	一八	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日			
		三月	二二八	四六	一日	一日	六	一日	一日	一日	一日	一日	一日	九			
		四月	二二三	三三	一日	一日	一日	一日	一日	一日	四	一日	一日	四			
		五月	六五	一〇	三五	四一	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日			
	計		四九三	二〇六	三五	四一	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日			
福岡縣	福岡縣勞働訓練所	十月	六八	一	一日	一日	一日	一日	七	二七	一日	一日	一日	六	三、五七一	二、五三四	七〇・九
		十一月	二二二	八七	一日	一日	一日	一日	一六	二六	一日	一日	一日	二二			
		十二月	二〇四	一〇九	一日	一日	六三	二	七	二五	一日	一日	一日	二六			
		一月	二八一	一七五	一日	一日	一日	一日	一日	六八	一日	一日	一日	二五			
		二月	二五二	二〇三	一日	一日	二五	一日	一日	二四	一日	一日	一日	二五			
	計		一、〇三七	五七四	一日	一日	二九二	二	一日	二九	一日	一日	一日	二九			
計		十月	九五四	六一一	二四	一四三	二九三	一二	五	一七	一日	二五	一日	一〇			
		十一月	一、五二四	八三五	五八	二九九	二七九	二三	一五	二〇	二四	四八	二	二六六			
		十二月	一、八九三	八〇四	九七	二四八	二七九	二三	一五	二〇	三四	三六〇	一〇	二六六			
		一月	二、一四三	八〇八	六六	一九七	二九	一三	一七	二四	一七	四九九	九	二五二			
		二月	二、三〇一	一、四九八	五八	一五七	一三元	七	一五	一七	一七	三三〇	一四	二五六			
		三月	一、五一九	七六一	六九	一七七	一三元	七	一五	一七	一一	二三八	四	一四五			
		四月	四七八	一五八	八	二元	一	一日	一日	一日	一日	一九三	一日	九〇			
		五月	六五	一〇	三五	四一	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日			
	計		一〇、八八六	五、四八五	四一五	一、三八	一五一	五	八	八	一六	一七四	一日	一五八			

(五) 天候表

備考 東京市の休働事由中其の他は炊事及事務當番等の爲なり。

施行主體	訓練所名	月別	晴	雨	曇	雪	計	休働事由百分比
東京市	東京市江戸川勞働修錬道場	十二月	二〇日	四日	六日	一日	三日	一〇〇・〇%
		一月	一六	四	一〇	一	三三	五〇・四%
		二月	一六	七	五	一	二八	三・八%
		三月	一六	八	五	二	三三	二・二%
		四月	一五	二	三	一	二〇	〇・五%
	計		八三	二五	二九	四	一四一	〇・八%
京都市	京都市勞働者更生訓練道場	十月	一八	六	七	一	三二	〇・七%
		十一月	二四	三	三	一	三〇	一六・〇%
		十二月	二三	一	七	一	三二	一・六%
		一月	一八	二	二	一	二八	一・五%
		二月	一八	四	六	一	二〇	〇・四%
	計		一〇一	一六	三四	一	一五六	二・一%
大阪府	大阪府阿武野更生訓練所	十月	二〇日	四日	六日	一日	一六日	一
		十一月	二二	三	三	一	二〇	一
		十二月	二四	三	二	一	二八	一
		一月	二〇	三	二	一	二〇	一
		二月	二二	二	一	一	二八	一
		三月	二〇	二	一	一	二〇	一
	計		一〇一	二四	二九	三	一五六	一
大阪府	大阪府八尾更生訓練所	十月	一八	六	七	一	三二	一
		十一月	二四	三	三	一	三〇	一
		十二月	二三	一	七	一	三二	一
		一月	一八	二	六	一	二八	一
		二月	二一	四	五	一	二〇	一
		三月	二〇	一	二	一	二一	一
	計		一〇一	二四	二八	三	一五六	一

(六) 貯金に關する調

施行主體	訓練所名	月別	預入 人員	預入 金額	拂戻 人員	拂戻 金額	差引月末現在 人員	差引月末現在 金額	差引月末現在 同上一人平均	終了者數	終了者 同上一人當最終貯金額	終了者ノ最高貯金額	終了者ノ最低貯金額
京都市	都市勞働者生活更生訓練場	十月	三四	三三・三八	二	一四・四〇	三	四八・九八	一四・三四	二六	五五・五三	八六・六〇	一・〇五
		十一月	三三	三三・七〇	四	八六・六〇	三	一〇七・二八	二五・二五	三八・三			
		十月	三六	三〇・三〇	一	一四・四〇	二六	一〇七・二八	二五・二五	三八・三			
東京市	東京市江戸川勞働者訓練場	一月	四六	二九・五八	一	五六・七〇	四六	九〇・〇二	二六・二六	四六	六二・二三	九八・三五	一七・〇五
		二月	四七	一〇・七三	一	一五・六三	四七	一〇・〇五	二四・〇九	四六			
		三月	四四	一〇・六六	一	一〇・六〇	四四	一〇・〇二	二五・〇四	四七			
		四月	五四	五六・四〇	一	二四・六〇	五四	一〇・〇二	二六・〇三	四八			
		五月	五六	六〇・二〇	一	二四・六〇	五六	一〇・〇二	二六・〇三	四八			
神戸市	神戸市勞働者訓練所	一月	一〇	二二・二五	一	二二・二五	一〇	二二・二五	二二・二五	一			
		二月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
		三月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
		四月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
		五月	二九	二九・二五	一	二二・二五	二九	二九・二五	二二・二五	一			
	計		一二五	一二五・二五	一	一二五・二五	一二五	一二五・二五	一二五・二五	一			
神戸市	神戸市俳優訓練所	十一月	一四	一四・四〇	一	一四・四〇	一四	一四・四〇	一四・四〇	一	一四・四〇	一四・四〇	一四・四〇
		十二月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
		一月	二六	二六・二五	一	二二・二五	二六	二六・二五	二二・二五	一			
		二月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
		三月	二二	二二・二五	一	二二・二五	二二	二二・二五	二二・二五	一			
	計		一三四	一三四・二五	一	一三四・二五	一三四	一三四・二五	一三四・二五	一			
福岡縣	福岡縣勞働者訓練所	十月	一五	二二・二五	一	二二・二五	一五	二二・二五	二二・二五	一	二二・二五	二二・二五	二二・二五
		十一月	二四	二四・二五	一	二二・二五	二四	二四・二五	二二・二五	一			
		十二月	二四	二四・二五	一	二二・二五	二四	二四・二五	二二・二五	一			
		一月	二四	二四・二五	一	二二・二五	二四	二四・二五	二二・二五	一			
		二月	二四	二四・二五	一	二二・二五	二四	二四・二五	二二・二五	一			
	計		一二四	一二四・二五	一	一二四・二五	一二四	一二四・二五	一二四・二五	一			

施行主體	訓練所名	月別	晴	雨	曇	雪	計
大阪市	大阪市勞働訓練所	十月	二二	二三	一	一	一六
		十一月	二五	二五	一	一	一六
		十二月	二四	二三	一	一	一五
		一月	二〇	二〇	一	一	一〇
		二月	二〇	二〇	一	一	一〇
		三月	二〇	二〇	一	一	一〇
	計		一二〇	一二〇	一	一	一二〇
大阪府	大阪明曉館更生訓練所	十月	一四	一四	一	一	一八
		十一月	二三	二三	一	一	一八
		十二月	二四	二四	一	一	一八
		一月	二〇	二〇	一	一	一〇
		二月	二〇	二〇	一	一	一〇
		三月	二二	二四	一	一	一六
	計		一二四	一二四	一	一	一六六
大阪府	大阪四人恩法人財團法人學生訓練所	十月	一四	一四	一	一	一八
		十一月	二三	二三	一	一	一〇
		十二月	二四	二四	一	一	一〇
		一月	二〇	二〇	一	一	一〇
		二月	二〇	二〇	一	一	一〇
		三月	二二	二四	一	一	一六
	計		一二二	一二四	一	一	一六六
神奈川縣	神奈川縣勞働訓練所	十月	一四	一四	一	一	一八
		十一月	一九	一九	一	一	一〇
		十二月	二〇	二〇	一	一	一〇
		一月	一九	一九	一	一	一〇
		二月	二五	二五	一	一	一〇
		三月	一七	一七	一	一	一〇
	計		一二五	一二五	一	一	一〇八
横濱市	横濱市勞働訓練道場	十月	二三	二三	一	一	一八
		十一月	二三	二四	一	一	一〇
		十二月	二四	二四	一	一	一〇
		一月	一七	一七	一	一	一〇
		二月	一三	一七	一	一	一〇
		三月	一〇四	一七	一	一	一〇
	計		一二三	一二四	一	一	一〇八
名古屋市	名古屋市自彊會道場	十月	一七	一四	一	一	一九
		十一月	二三	二三	一	一	一〇
		十二月	二五	二五	一	一	一〇
		一月	一六	一五	一	一	一〇
		二月	一八	一五	一	一	一〇
		三月	一四	一九	一	一	一〇
	計		一二五	一二四	一	一	一〇四

施行主體		訓練所名	月別	預入 人員	預入 金額	拂戻 人員	拂戻 金額	差引月末現在 人員	差引月末現在 金額	同上一人平均	終了者數	同上一人當最終貯金額	終了者ノ最高貯金額	終了者ノ最低貯金額
京都市	京都市働者訓練道場		一月	人	円	人	円	人	円	円	人	円	円	円
			二月	二七	二〇二・一三	一	六五・五〇	二六	一、二四一・四八	四五・九八	二六	五五・五二	九八・三五	三三・五〇
			計	二七	二〇二・一三	一	六五・五〇	二六	一、二四一・四八	四五・九八	二六	五五・五二	九八・三五	三三・五〇
大阪	阪急電鉄	大阪生更	十月	二六	二三〇・〇三	二三	一〇〇・〇〇	二三	九四五・一五	四一・〇九	九五・五六	六六・二一	九三・六〇	一七一・四〇
			十一月	二三	二三二・一二	二	一〇〇・〇〇	二三	一、五二二・〇五	六六・二一	九三・六〇	一〇一・四一	二二〇・七一	六五・五〇
			十二月	二三	二六〇・九〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、〇九九・三九	九三・六〇	一〇一・四一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
		阪府生活訓練	一月	二三	六〇七・九〇	一	一〇〇・〇〇	二三	二、四二九・三四	一〇一・四一	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			二月	二三	五四六・三四	二	一〇〇・〇〇	二三	二、六五五・七四	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			三月	二三	七三二・一二	二	八〇・〇〇	二三	二、六五五・七四	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			計	二六	二三〇・〇三	二三	九四五・一五	二三	二、六五五・七四	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
		大更	十月	二二	二四〇・〇三	二	一〇〇・〇〇	二三	二、〇九九・三九	一〇一・四一	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			十一月	二二	二六〇・九〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、二二六・一六	一〇一・五六	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			十二月	二二	二八二・二〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、三六七・〇五	一〇一・五九	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
		阪府訓練	一月	二二	二四〇・二〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、四二七・〇五	一〇一・五九	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			二月	二二	二六〇・九〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、四二七・〇五	一〇一・五九	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			三月	二二	二四八・八〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、四二七・〇五	一〇一・五九	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
			計	二七	二〇八・二〇	二	一〇〇・〇〇	二三	二、四二七・〇五	一〇一・五九	二二〇・七一	二二〇・七一	二二〇・七一	六五・五〇
		尾八所練	十月	二七	一、八〇八・二〇	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			十一月	二七	二六〇・〇〇	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			十二月	二七	二四八・三五	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			一月	二七	二四八・三五	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			二月	二七	二四八・三五	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			三月	二七	一六三・六五	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
			計	二七	一、八〇八・二〇	一七	六四・八四	一七	一、一〇二・三五	六四・八四	六〇・六〇	四六・二九	一七一・三五	一七・三〇
		財團法人	十月	二〇	二六〇・〇〇	一七	一三・六〇	一七	一、一三二・四〇	六六・二〇	一七	一七・二〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十一月	二七	三八六・五〇	一七	一四・〇〇	一七	一、一四六・四〇	六七・〇〇	一七	一九・七〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	四八八・六〇	一七	一四・〇〇	一七	一、一六〇・四〇	六八・二〇	一七	二八・八七	一七・〇〇	一七・〇〇
神奈川縣	神奈川縣働者訓練所		十月	二六	二三〇・〇三	二三	九四五・一五	二三	一、一六〇・一六	一〇・五六	一七	一三・六四	一七・二〇	一七・〇〇
			十一月	二七	二六七・〇六	二六	一〇〇・〇〇	二六	一、二六七・〇六	一〇・五九	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	三〇三・九二	二七	一〇一・四〇	二七	一、三六八・八九	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
			一月	二七	二六七・〇六	二六	一〇〇・〇〇	二六	一、四三四・八九	一〇・五九	一七	二六・四二	一七・〇〇	一七・〇〇
			二月	二七	二四三・五七	二三	九二・二〇	二三	一、三二七・二七	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
			三月	二六	一〇八・七七	一七	六八・〇〇	一七	一、二〇九・六八	一〇・五九	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			計	二六	一、九九九・九七	一七	四二八・九六	二三	一、二〇九・六八	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
大阪市	大阪市勞働訓練所		十月	二七	三七四・四〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、二〇九・六八	一〇・五九	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十一月	二七	四六四・〇〇	一五	八〇・〇〇	二七	一、二九〇・六〇	一〇・五九	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	四九六・二〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、三八六・〇〇	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
			一月	二七	四九六・二〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、四八五・一〇	一〇・五九	一七	二六・四二	一七・〇〇	一七・〇〇
			二月	二七	五八五・一〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、五八五・一〇	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
			三月	二七	一八六・〇〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、六八五・一〇	一〇・五九	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			計	二七	二、三九六・四〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、六八五・一〇	一〇・五九	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
府	大阪曉明館更生訓練所		十月	二八	三六八・八六	一七	一〇〇・〇〇	二八	一、七六八・一〇	一〇・三〇	一七	二四・八五	一七・〇〇	一七・〇〇
			十一月	二七	一四八・八九	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、八七〇・七二	一〇・三〇	一七	二六・四二	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	三二一・二七	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、九七〇・九七	一〇・三〇	一七	三三・六〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			一月	二七	二〇九・六八	一七	六〇・〇〇	二七	一、一三〇・三六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			二月	二七	一三三・三六	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、二四三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			三月	二七	一、二四三・一六	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、三四三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			計	二七	一、九九九・九七	一七	四二八・九六	二七	一、三四三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
		生更訓練所	十月	二七	三七四・四〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、四四三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十一月	二七	四六四・〇〇	一五	八〇・〇〇	二七	一、五二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	四九六・二〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、六二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			一月	二七	四九六・二〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、七二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			二月	二七	五八五・一〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、八二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			三月	二七	一八六・〇〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、九二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			計	二七	二、三九六・四〇	一七	一〇〇・〇〇	二七	一、九二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
神奈川縣	神奈川縣働者訓練所		十月	二七	三〇三・九二	一七	八〇・〇〇	二七	一、九二三・一六	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十一月	二七	二六七・〇六	一七	八〇・〇〇	二七	二、一九〇・六〇	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			十二月	二七	二四三・五七	一七	八〇・〇〇	二七	二、二七三・六八	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			一月	二七	二〇八・七七	一七	八〇・〇〇	二七	二、三五三・四五	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			二月	二七	一〇八・七七	一七	八〇・〇〇	二七	二、四三三・二二	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			三月	二六	一、四三・九二	一七	八〇・〇〇	二七	二、五二六・一四	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇
			計	二六	一、九九九・九七	一七	四二八・九六	二七	二、五二六・一四	一〇・三〇	一七	一三・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇

施行主體	訓練所名	月別	預入 人員	預入 金額	拂戻 人員	拂戻 金額	差引月末現在 人員	差引月末現在 金額	差引月末現在 同上一人平均	終了者數	同上一人當最終貯金額	終了者ノ最高貯金額	終了者ノ最低貯金額
神戸市	神戸市活者訓練	十月	三人	五五六・三二	三人	四四七・六三	一人	一四四・四四	二・五五	人	円	円	円
		十一月	二〇	五一・一五	一	一八・六七	二〇	五一・一五	二・五五				
		十二月	一九	四四・〇〇	二	二・六七	一九	四二・四八	四・八六				
		一月	二〇	九八・四〇	一	一九・〇八	二〇	一九・〇八	九・五四				
		二月	二〇	一〇三・五〇	三	一八・九〇	二〇	二七・四八	一三・七七	二〇	一九・六七	六七・一七	五・〇〇
		三月	二〇	一八・〇〇	一	一・七七	二〇	三九・四八	一九・六七				
横濱市	横濱市勞働訓練道場	十月	二九人	一八九・八六円	一人	一〇三・四四円	二九人	一八九・八六円	六・五五円	人	円	円	円
		十一月	四〇	五五九・七九	一〇	一八・六四	三〇	六四六・二二	二・一五四				
		十二月	三〇	三八三・九五	一	六三・八六	二九	一、〇一一・一五三	三四・八八				
		一月	二九	四九一・一八	三	四三・三七	二六	一、四五八・八四	五五・三四	二四	八四・四二	一〇四・八四	四六・九〇
		二月	二六	四二二・八五	一	六五・一五	二五	一、八〇八・三〇	七二・三三				
		三月	二五	二八三・一三	一	二九四・四六	二四	二、〇二六・三〇	八四・四二				
		計	一、三一〇・七六	二、〇三〇・〇〇	一	一、〇〇〇・〇〇	一	二、〇三〇・〇〇					
名古屋市	名古屋市自轉車會場	十月	三三	五五六・三二	三三人	一〇八・六九円	三三人	四四七・六三円	一四・四四	人	円	円	円
		十一月	三一	五三一・二八	三〇	三一九・七六	二六	六五九・一五	二・二六				
		十二月	二六	四五七・四五	二八	三八一・一三	二三	七三五・四七	三・四三				
		一月	二三	二四三・八四	二二	七五・五八	二七	九〇三・七三	三九・二九	一八	一七・二六	二七・五一	三九・三四
		二月	二一	一、二三・三〇	二三	一、四二五・八九	一八	四九五・三〇	二七・五一				
		計	一	一、九二一・一九	一	一、〇〇〇・〇〇	一	一、九二一・一九					
神戸市	神戸市俸給者訓練所	十月	二〇	五一・一五	二〇	二・六七	二〇	五一・一五	二・五五	人	円	円	円
		十一月	一九	四四・〇〇	二	二・六七	一九	四二・四八	二・二四				
		十二月	二〇	九八・四〇	一	一九・〇八	二〇	一九・〇八	九・五四				
		一月	二〇	一〇三・五〇	三	一八・九〇	二〇	二七・四八	一三・七七	二〇	一九・六七	六七・一七	五・〇〇
		二月	二〇	一八・〇〇	一	一・七七	二〇	三九・四八	一九・六七				
		計	一	四二五・〇五	一	一一三・七七	一	四二五・〇五					
福岡縣	福岡縣勞働訓練所	十月	三三	一〇〇・九〇	一	五・六〇	三二	一〇〇・九〇	三・一五	人	円	円	円
		十一月	三二	一二二・三〇	四	五四・六〇	三〇	二〇七・六〇	六・六九				
		十二月	二九	五五・二〇	一	一・五〇	二九	二六一・三〇	九・〇一				
		一月	二五	二一〇・五二	一	五・〇〇	二五	三七六・八二	一五・〇七	二四	二三・〇四	七六・五〇	六・三〇
		二月	二四	二九八・六〇	一四	八二・三〇	二四	五五三・二二	二三・〇四				
		計	一	六四七・五三	一	九四・四〇	一	五五三・二二					
市	神戸市勞働訓練所	十月	二二九	二五五〇・〇五	二	二四・四〇	二七	二〇一・〇〇	一・一五	人	円	円	円
		十一月	二八六	三、九九六・五五	六〇	一〇九・九〇	二七八	三三六・〇〇	二〇・八八				
		十二月	三一七	四、三七・三五	一〇二	一、四九八・〇五	二九九	五二一・〇〇	四一・五八				
		一月	三〇二	四、一六三・五四	八九	七二一・九八	二九九	八七四・〇〇	七二・八三	一三	七二・八三	七八・〇〇	四九・〇〇
		二月	三〇三	四、〇五三・三七	一〇二	一、四五三・六三	二五六	二七八・九三					
		三月	三二七	二、九八九・二八	七一	九七一・二七	二三六	二三、七〇九・五五					
		四月	六四	四〇七・四七	六	一五・七四	五八	三、四二〇・〇一					
		五月	一三	三六三・〇〇	一三	五、八八四・二六	一三	一六、九五六・三五					
計		十月	二三九	二、〇五〇・〇五	一	三四・四〇	二七	二〇一・〇〇	三・一五	人	円	円	円
		十一月	二八六	三、九九六・五五	六〇	一〇九・九〇	二七八	三三六・〇〇	二〇・八八				
		十二月	三一七	四、三七・三五	一〇二	一、四九八・〇五	二九九	五二一・〇〇	四一・五八				
		一月	三〇二	四、一六三・五四	八九	七二一・九八	二九九	八七四・〇〇	七二・八三	二九六	五七・二八		
		二月	三〇三	四、〇五三・三七	一〇二	一、四五三・六三	二五六	二七八・九三					
		三月	三二七	二、九八九・二八	七一	九七一・二七	二三六	二三、七〇九・五五					
		四月	六四	四〇七・四七	六	一五・七四	五八	三、四二〇・〇一					
		五月	一三	三六三・〇〇	一三	五、八八四・二六	一三	一六、九五六・三五					

備考　末尾計の三月以後の月末現在額の前月末現在額に其の月預入額を加へ拂戻額を控除したるものと符合せざるは外に終了に依る拂戻額あるに因る。

(七) 終了者稼得賃銀並更生貯金狀況調

經營主體	訓練所名	終了人員	終了者ノ稼得賃銀額	同上更生貯金額	稼得賃銀ニ對スル貯金ノ割合	終了者一人當 稼得賃銀額	終了者一人當 更生貯金額
東京市	東京市江戸川勞働修錬道場	四六人	六、六五六・六四円	二、九〇九・〇一円	四三・七%	一四四・七〇円	六三・二三円
京都市	京都市勞働者更生訓練道場	二六	四、〇一七・五〇	一、四四三・六一	三五・九	一五四・五一	五五・五二
大阪府	大阪府阿武野更生訓練所	二二	四、一七八・三六	二、六五五・七四	六三・五	一八九・九二	一二〇・七一
	大阪府八尾更生訓練所	一七	二、六二七・二〇	一、一〇二・三五	四一・九	一五四・五四	六四・八四
	委託 財團法人四恩學園更生訓練所	一七	二、八六二・七七	七三八・三〇	二五・七	一六八・三九	四三・四二
	委託 大阪曉明館更生訓練所	一三	一、八八五・二九	六〇八・八〇	三二・二	一四五・〇〇	四六・八三
	計	六九	一一、五五三・六二	五、一〇五・一九	四四・一	一六七・四四	七三・九八
大阪市	大阪市勞働訓練所	三一	五、〇八三・一八	二、三五六・二〇	四六・三	一六三・九七	七六・〇〇
神奈川縣	神奈川縣勞働訓練所	二六	二、九七四・九二	八〇〇・一四	二六・八	一一四・四二	三〇・七七
横濱市	横濱市勞働訓練道場	二四	四、三九九・三一	二、〇二六・三〇	四六・〇	一八三・三〇	八四・四二
名古屋市	名古屋市自彊會道場	一八	二、二五五・〇〇	四九五・三〇	二一・九	一二五・二七	二七・五一
神戸市	神戸市俸給生活者訓練所	二〇	二、三五五・五六	三九三・四八	一六・七	一一七・七七	一九・六七
	神戸市勞働者訓練所	一二	一、九八七・〇四	八七四・〇〇	四四・〇	一六五・五八	七二・八三
	計	三二	四、三四二・六〇	一、二六七・四八	三三・二	一三五・七〇	三九・六〇
福岡縣	福岡縣勞働訓練所	二四	二、六九四・〇三	五五三・一二	二〇・五	一一二・二五	二三・〇四
合計	十三ヶ所（内委託 二）	二九六	四三、九七六・八〇	一六、九五六・三五	三八・五	一四八・五七	五七・二八

六、訓練の結果成績

本施設訓練の成績として見るべきものは各訓練生が精神的に更生せることは勿論であるが、規律的生活の結果著しく健康を恢復し體力を增進せしめたことである。

よく訓練所を視察せる人が等しく「これが失業者から來た人々か」と眼を見張る程明朗な血色と心身の緊張振を見る狀態である。訓練所入所當時と訓練終了直前とを比較すれば體重は勿論、背筋力、握力等五%乃至一〇%程度の增加を示し又智能檢査に依ると一般智能、記憶力、注意力も增加して居

る次第である。即ち體重についての京都市勞働者更生訓練道場調査の例に依れば、終了者二十六人中〇・五瓩程減少せる者一人、前後變化ない者一人を除けば何れも一瓩乃至九瓩の増加を見、全體を平均せば入所當時の五二・八瓩が終了の際には五五・四瓩となり、差引二・七瓩當の増加となつて居る。又東京市江戸川勞働修錬道場生に對し當時社會局に於て調査せる性能檢査の結果に依れば、左の通り精神、身體兩能力共平均して相當向上進歩の跡を示して居る。

檢査種目	入所直後	終了直前	増
智能檢査	五四・二	五八・九	四・七
記憶檢査	四六・一	四九・三	三・二
注意檢査	(一)〇・三八	(十)〇・九	一・二八
握力檢査	四七・一瓩	五一・九瓩	四・八瓩
背筋力檢査	一四三・〇	一五〇・〇	七・〇

次に訓練生の更生が他の失業者に及ぼした影響も著るしい。即ち動もすれば自已を卑下し自暴自棄に陥らんとして居る他の失業者に對し、更生の姿を眼のあたり見せて、その奮發心を起さしめ、又或る事業現場では訓練生が率先難事に當り、孜々として努めるので、從來怠け勝ちの他の勞働者連中を刺激し、全體の事業能率を一二〇%も上げた例などもある、最近各地の登錄勞働者間に勤勞報國運動の擡頭しつゝあるのも時局柄とは云ひ本施設の影響に負ふ所又極めて多いことゝ信ぜらる。更に訓練生の更生が漸く世人の失業者に對する認識を改めしめた點も看過し難い。即ち從來世人は失業者をルンペンてふ冷かな一語で呼び之を白眼視して居るのである。現に今回訓練所を設置さるゝ際附近隣人より「失業者の合宿所を建てられては迷惑する」との反對を受けた所が一二に止まらない。然るに今や附近の人々も訓練所の内容を知り非常に共鳴と親しみを持ち却つて子弟の範とするに至つた例さへも各地にある。此の傾向は單に訓練所附近の者のみに止まらず此の訓練所施設につき漸く世人の注目を惹き、延ひて一般に失業者に對する認識が改まりつゝあることは洵に欣快に堪えない次第である。

本訓練に依る貯金のことについては前述した。訓練終了生の就職狀況は頗る良好にて別表の通更生貯金を生業資金として自家營業を始めたる者又は移民として渡滿せる者等を除いては何れも會社、工場を始め官公署其の他に就職した。彼等が永い間望んで得られなかつた定職に就くことが出來茲に浪々生活を清算するの機會を惠まれたのである。併し乍ら更生訓練の狙ひ所は飽く迄も「人を作り」「魂を作る」にあつて定職に就かしむることは必ずしも直接の目的ではない。唯更生訓練の結果訓練生は何れも心身共に磨きをかけられ、從つて就職の機會を豐富にすることを得ることはその必然の結果である。

經營主體	訓練所名	終了者數	就職者數 官公署	就職者數 會社工場	就職者數 自營	就職者數 其の他
東京市	東京市江戸川勞働修錬道場	四六人	一三人	一七人	一人	一六人
京都市	京都市勞働者更生訓練道場	二六	一四	九	一	二
大阪府	大阪府阿武野更生訓練所	二二	一〇	一〇	一	二
	大阪府八尾更生訓練所	一七	九	七	一	一
	財團法人四恩學園更生訓練所	一七	三	一〇	三	一
	大阪曉明館更生訓練所	一三	四	五	一	三
	計	六九	二六	三二	四	七
大阪市	大阪市勞働訓練所	三一	一一	一九	一	一
神奈川縣	神奈川縣勞働訓練所	二六	三	一五	一	八
横濱市	横濱市勞働訓練道場	二四	一	一六	一	六
名古屋市	名古屋市自彊會道場	一八	四	一三	一	一
神戸市	神戸市俸給生活者訓練所	二〇	四	五	一	一一
	神戸市勞働者訓練所	一二	六	三	二	一
	計	三二	一〇	八	二	一二
福岡縣	福岡縣勞働訓練所	二四	四	一四	一	五
合計		二九六	八六	一四三	九	五八

備考　東京市「其の他」中一三人は市事業關係の常傭を希望して現在指定人夫として市事業現場に就勞して居る。尙「其の他」には移民としての渡滿者若干人を含む。

七、訓練終了後の輔導

訓練終了後就職してからの輔導は又最も肝要なことなので當局に於て屢々指示するところあり各訓練所共或は共同合寄の方法をとり、或は産結會、向上會、自彊會等訓練終了生の會を作り、訓練所を中心に會報の發行、通信の交換をなして相互緊密なる連絡を圖り又時々訓練所に會合し親睦修養の催を開く等種々機宜の輔導措置を講じて居る。輔導會の規約の一例を示せば次の如し。

第一章　總　則

第一條　本會ハ産結（むすびのくわい）會ト稱シ事務所ヲ神奈川縣勞働訓練所内ニ置ク

第二條　本會ハ神奈川縣勞働訓練所修了者及關係工場勞務係員其他關係者ヲ以テ組織ス

第三條　本會ハ産靈（むすび）ノ精神ニ基キ會員相互ノ親睦和合互助共勵及技術ノ向上進歩ヲ圖リ上下一心同體全樂ノ產業ニ貢獻スルヲ以テ目的トス

第四條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、親睦會ノ開催

二、機關紙ノ發行

三、聽講會又ハ見學旅行等ノ開催

四、共同合宿寮ノ助成

五、吉凶慶弔其他ノ共濟施設ノ經營

六、其他必要ト認ムル事業

第二章　役　員

第五條　本會ニ左ノ役員及顧問ヲ置ク

會長一名、副會長二名、理事若干名、幹事若干名、顧問若干名

第六條　會長ハ神奈川縣勞働訓練所主任ニ委囑ス

副會長ハ神奈川縣職業課係員ノ職ニアル者及神奈川縣勞働訓練所指導員ニ委囑ス、理事ハ會員中ノ適任者ニ委囑ス、幹事ハ神奈川縣勞働訓練所修了者中ヨリ會長之ヲ指名ス

第七條　役員ノ分掌スベキ事項左ノ如シ

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ總會ノ決議ニ基キ會務ヲ掌理ス

幹事ハ理事ノ命ヲ享ケ事務ヲ分掌ス

第三章　機　關

第八條　本會ノ機關ヲ總會及理事會トス

總會ハ全會員ヲ以テ組織シ本會ノ規約ヲ決議シ役員ヨリ會務ノ報告ヲ受ケ理事會ノ諮問ニ應ジ又ハ意見ヲ陳述ス

總會ハ會長ヲ以テ議長トシ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決定シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

理事會ハ會長及副會長理事ヲ以テ組織シ會務執行上ノ重要事項ヲ協議決定ス

理事會ハ會長副會長及理事ニ於テ必要ト認メタルトキ隨時之ヲ開催ス

第四章　會　計

第九條　本會ノ經費ハ會費、補助金、寄附金、訓練所生活ニ於ケル食費ノ剩餘金及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　本會ノ會費ハ一ケ月金三十錢トス

會員ハ右會費ヲ納付スル目的ヲ以テ毎日一錢宛積立ツルコト

會費ハ毎月末幹事ノ手許ニ之ヲ納付シ幹事ハ之ヲ會長ニ送付シ會長ハ之ヲ郵便貯金トナス

第十一條　本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十二條　本會ハ毎年二回總會又ハ機關誌上ニ於テ收支決算報告ヲ行フ

附　則

第十三條　本規約ハ昭和十二年四月二十九日ヨリ施行ス

第十四條　本規約施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　本規約ハ理事會ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ改廢スルヲ得ズ

八、更生訓練施設の今後

昭和十一年度に於ける更生訓練施設は各訓練所共年度後半より開始せられたる爲、一回の訓練を終了し得たに過ぎなかつたが、昭和十二年度に於ては引續き大體二回施行せられ尙翌十三年度に於ても同樣施行の豫定である。而して昭和十二年度に於てはその效果に鑑み東京市及神奈川縣に於て失業勞働者を對象とする訓練所各一ヶ所を增設し、又大阪府に於ては小額給料生活者卽ち所謂知識階級失業者の訓練所を試み居るは時宜に適する措置にして斯業の爲洵に欣快に堪へない所である。尙十三年度に於ては更に知識階級失業者の爲の本施設を若干擴充したく考へて居る。

之を要するに失業者の更生訓練施設は既往に於ける失業救濟事業が、單に物質的救濟のみに偏した爲失業者をして更生せしむることの至難なるに稽へ、玆に一新生面を拓き、其の精神的更生に力點を置き其の發奮興起を促し生活力を堅持せしめ、以て要救濟狀態より速に脫却せしめんとするのであつて、我國現下の失業者の狀態乃至は人的資源の培養勞働力の增進等を企圖することの緊要なる現狀に鑑みれば益々其の必要を加へるものと考へる。

本施設が創始以來月も極めて淺いのに拘らず、世人をして意外の關心を有せしむるに至つた所以も亦玆に職由するのであらう。之等の點から考へれば更に一歩を進め啻に失業勞働者に止まらず一般勞働者に對してもかゝる訓練を考究するの要なきやとの示唆を含まれて居る。大いに今後の研究題目としたい考である。

附

錄

【附　錄】

一、更生訓練佳話

○東京市江戸川勞働修錬道場

(一)　道場の感激

昨年十一月開場以來本道場の訓錬も順調に進み、十二年四月二十日好成績裡に第一回修練生四十六名を世に送り出した。これら四十六名は不斷の鍛錬と修養の結果、見違へる程立派な勤勞者となり、勞働者の指導者として恥しからぬ力量を具備するに至つた。恰もこの勇躍の希望に滿ち溢れてゐる時、宮内省は前古未曾有の光榮の仕事を東京市に依囑し、模範的な勞働修錬道場生をして奉仕せしめることゝなつた。それは五月十五日から年末まで八ヶ月間に亘つて、畏くも皇太后陛下のお在す青山御所内を貫通する下水工事への奉仕であつて從來宮内省關係の土木工事には宮内省自ら勤勞者を嚴選する例であつたのをみれば市當局及修錬道場としては寔に感激措く能はざるものがあるのである。尙この工事には第一回修練生の外に引續いて入所する第二回生も奉仕するが、終了生一同は昨日から今日への更生の跡を省察して、靜かなる喜悅の中に明日への一層の努力を誓つてゐる。

(二)　賃金分割制度の生立

それは夢想だにしなかつたのである。勞働紹介所では、勞働者は一錢の事でも喧しい。事勞働者の金錢に關する限りは特別の注意を拂はねばならない。單なる紹介所の事務取扱上に於てすら然り、況んや勞働者の精神的教化訓練に於てをやである。

その爲に、當番の回數と就勞回數とを均一ならしむる事は勿論、收入の均一化の爲に勞働分擔の程度割合を平等にする事が要求せられる。然しこの事は工事現場の都合、天候の如何、勞働訓練の必要等から實行は殆んど不可能に屬するのである。

昨年事業の開始に當つてハタと行き詰つたこの困難を、道場に於ける共同生活の理念から、共産制を布いて賃金分割主義を樹立する事に依つて解決し得る迄には數日の煩悶が續いた。そこで全體會議を開いた。

勞働の割當の差異に應じて歩增がある。當番制に依る不就勞日がある。現場の異同に應じてその當日天候に依る就勞時間を異にする結果金券上の價格に差等を生ずる。

此等を如何にすべきか、

「諸君、此處は共同生活を立前にして成立してゐる。從つて全部が全部の爲に生活せねばならない。ヘドロの中に沒入して他人よりも困難をして得た歩增は道場の爲に働いたと思へ、配給現場の都合による金券上の價格の相違（雨天作業の關係上現場間に就勞時間の長短がある）は道場生活全體から生じ得るもので、各勞働紹介所に於ける個別的循環配給制によるものとは、その指導精神が異つてゐる。重ねて反省せられよ。こゝに共同生活の意義を認めなければ他に理解の方法がないではないか」。

私は斯ふ言つて道場生一同の顏を見守つた。二三人何處か隅の方でブツ〳〵言つてゐる。誰一人としてニコリとするものもない。緊張のまなざしである。すると相互間にて小聲でザハメキ出した。お互に說明し合つてゐるらしく、それ等は明かに苦悶の表現だと看取された。

今まで一錢のことでも喧しく考へて來た勞働者特有の賃金感に一大革命が來たのだ。無理もない事、そこで私は

「諸君は毎日就勞の心配もなく、寢食の心配もなく、只默々として日課に精進すればいゝのだ。總べては親心の施設から、貯金も、生活安定の方策も講じられる。諸君の稼がれるものは諸君が全部持つて出られるのだ。單に貯金ばかりではなく、金額には見積り得ない精神上のそれも！　諸君は今何を勘定してゐるのか、一日の賃金收入を勘定したいなら、道場を出て行つてやり給へ。道場に居るなら五ヶ月後の收穫を勘定し給へ」。

これは昨年十二月中旬、道場開設後約二週間を經たある雨の日の宵であつた。

「諸君　解つたね」

「ハイ、ハイ、ハイ……」

これでどうやら協働の意味が解りました。と班長が申出でた。

今後賃金分割制度が道場生活と不可分的に考へられる素地はこの時から起つたのである。

その一ヶ月後、本年一月下旬だつたと思ふ、（霙まじりの雨の降つたひどい寒さだつた。朝一旦配給中止の通知があつて再び配給中止が解除され十數名の選士が藍染川決壞の見張に召集された日）物凄い血相で班長が事務所を訪れた。

「こんな日丈は賃金分割制に特例を認めて下さい。餘りに殘酷過ぎますから」と

「いけない」

「先生、我々は生命の危險に曝されてゐるんですよ、若しも死んだらどうする積りですか」

その迫り方は峻烈であつた。

「生命の危險！　それは、私共が諸君の生命を預けられ預つてゐる以上、連帶責任だ。遣れる丈やるんだ。頑張つて呉れ。そしてお互の負擔が殘酷なれば殘酷なる程、制度に存する味ひは深刻だ。程度問題で、制度や指導精神に變更があつてはならぬ」。

是は無茶苦茶の議論かも知れない。然し班長は一層滿足な意を表して引き退つて行つて呉れた。私は〃呉れた〃と言ひ度い程感謝した。自分ですら何を言つてゐるか解らない樣な時でも、班長は氣持で私の心持を汲んで了解して呉れたからである。

それ以來、賃金分割主義は江戸川修錬道場獨特の制度として、嚴上の教會のやうに確定不動なものとなつたのである。

（三）道場長の肖像畫

道場に於て、嚴しく小遣を制限してゐる事は解り切つた事實である。その僅少な小遣を善用した一例がこの話の眼目である。

是も昨年末の話夜の行事が終つてから數名の代表が事務室へやつて來て

「吾等の信賴する北野道場長の肖像畫を、これは僅少ですが、これでお贈り下さい。そして道場に掲げて下さい。毎日これによつて道場長のお顏を拜してゐたいと思ひますからどうぞお願ひ致します」

と言つて拾參圓五拾錢の現金を出した。道場長はとにかく厚意を謝し一度預つて置いて考慮された結果之を受領せられたのである。

我等は先づ是が先例になつた場合の善惡を考へた。次に最低限度の小遣で尙この餘裕ありや否やを考へた。この點に

於て事實小遣の制限が嚴格なればなる程、その行爲は美果を持つのである。美果といふ事は心の餘裕を示すのである。然しその事に依つてもつと小遣を減給してもいゝとは謂へない。

而してその事が先例となつてもいゝではないか、純粹精神の發露として眺められるならば指導員の惱みは霧消される筈のものだ。斯くして現在尙北野道場長の肖像畫は新講堂の落成と共に掲げられて以來毎日毎夜生徒と共に朝夕の行事、日課を眺められてゐられるのである。

（四）道場がとりもつ緣

A君は戀愛至上主義に走つて、親子の緣を絕たれ、嚴格な家庭からは追ひ出され、遂には妻子とも訣れて、失業苦のどん底に登錄生活を營んでゐたのであるが、入場して以來精進又精進、遂に御兩親に迎へられて家庭に入り、現在では日本一流の金屬商店「湯淺」に本採用となり、孜々として更生の途に邁進してゐる。

A君が在場中動靜を伺ひに來られたのは、伯父、知人、姉、父母等で唯一回ではなく、その都度指導員たる私は、

「本人の更生は我々の指導よりも家庭愛にあるのです。我々は單に御兩親の御手傳に過ぎない。御兩親の冷たさが如何に一人息子の根性を歪めて行くか解りません。唯今直ぐに御家庭に引き取つてあげて下さいとは申しませんが、道場を出られたらさうして上げて下さい」と度々言つたのであつた。然し私の云ふ事は解つて呉れても一種の恐怖症にかゝつてゐる一家一族は容易に肯じようともせられないのみか、我々よりは手の屆かぬ滿洲か外國へ移民に出して下さいと賴んで來たのでした。

私も一度は所詮駄目なのかと諦めた位だつた。然し、最後の終了式當日、御兩親の晴やかな顏を見た。御兩親と、姉と、その姉さんがA君の娘さん（三歲）を負んぶしてA君を迎へに來られたのだ。

あんなに言つて置きながら今は安心に代つたと見え、いそいそとして我が子を眞中にして兩親が連れて行つた。

(五) 貯金に更生する芦澤君と長崎半ちやん

芦澤君は二十六歳、工業出のインテリだが山梨の實家を出て、東京は上野公園をさ迷ふ中部屋の人間に誘はれて、引かゝつたのが人夫部屋生活の始まりであつた。間もなく失業して東駒形勞働紹介所の登錄を受け、道場に入つて來た。然るに一週間程して本人から退場を申し出でた。

「私は脚氣が惡くなつて死にさうです。私の友人も脚氣で仆れたのが去年の話、私もそんな運命になるのは嫌ひですから直ぐに鄕里へ歸ります」。

本人を見れば成る程顏が浮腫を呈してゐる。脚氣に違ひない。然し私は本人の性格を觀察し、脚氣の原因と考へて見るに過食の點にありとにらんだので、頭を振つた。

「君は明日から事務當番だ、就勞停止だ、食事は一杯しか食つてはならぬ。便通を良くするんだ。死んだら葬式は引き受けた。その方が君の鄕里の方は喜ばれる。生きて歸つても君の樣なゴク潰しは却つて迷惑だ」。

さういつて放つて置くと、又翌日になつて歸して呉れといふ。又その翌日も言ふ。さうなると指導員も稍々心配になる。堅い筈の信念が搖ぐ、然し十日經ち二十日經ち一月とする中に本人の健康は恢復した。本人は

「先生！ あの時よく引き止めて呉れました。……」と今でも喜んでゐる。

芦澤君の事務當番中の話は逸話もあるが別の機會に述べるとしてとにかく本人は今では相當の土工になつた。第一回の修了生中力に於ても知識程度に於ても一流だ。事はそれのみでない。芦澤君は道場の貯金を如何に處理したか、これが問題である。

先づ道場を出ると田中町の宿泊所に行きそこで第一に自轉車を買つた。殘りは全部貯金して了つた。その元金に毎日々々壹圓內外の貯金をした。今では青山御所へ行く第一回修了生の爲め金券の立替拂ひを一人で背負つてゐる。そして同僚からは感謝されてゐる。芦澤君は貯金思想を完成した上に事務委員とそつくりそのまゝ地で行つてゐる。

長崎の半ちやんは魚屋のあんちやんであつた。お人よしで若い。一日の稼高は午前中に賣り上げて了ひ、收入も三四圓になつた。然しその日の中にこの金が消えて了ふのが習慣であつた。

「魚屋が駄目なのは、幾等金が儲かつても、その日早く賣上げるからその日の中に使つてしまふからなのです」。

個人面接の時もさう言つてゐた。

炊事當番の折時々一緒に魚市場へ買ひ出しに出かけたものだが長崎君の腕前は大したものだ。これが何故失業するか登錄人夫なんかするんだ。一人前の魚屋といふ技術があるのに。「先生！私しや魚屋が嫌ぢやありません。然し魚屋をすれば借金が加はる許りです。」

長崎君には一人の妹があつた。兄想ひの妹さんだつた。その妹さんへ道場の貯金で借金を返濟したのが今年の二月末頃だつたと思ふ。それ以外長崎君の貯金狀態は通常だつた。そして幾何かの貯金を持つて道場を出た。

約一ケ月、ふと半ちやんの貯金も今頃はサラリと流して了つたんぢやないかとそんな事を考へてゐるとき芦澤君の話の續きに、

「現在修練生で金をしこたま貯めてゐるのは、先生、長崎の半ちやんですよ。道場の貯金を今では二倍にしたさうです。」

「おや冗談ぢやない。眞個かい。」

私は御所の現場へ行つた時にそこにニコヤカな半ちやんを見たときに、その話が事實であつた事を知つた。そして誰

にも言へない嬉しさが込み上げて來た。私は指導員として貯金は毎月一文だつて出來ない。今だに親の情に縋らねば仕事が出來ない惨めさだ、だのに、だのに教へ子のこの二人の力強い貯金更生、嗚呼！と我事の樣に喜ばずにはゐられないのであつた。

○京都市勞働者更生訓練道場

(一) 友　情

昭和十一年十一月十九日午後七時頃訓練生山下正芳は入場前の友人である訓練生織田三次郎と共に入浴よりの歸途引率の班長を卷いて飲食店に立ち寄り飲酒したるまゝ姿を晦ましたる事實があつた。道場では八方手分して搜したけれど發見するに至らなかつた。其の翌朝七時頃二人は愴惶として歸場し指導員に一言の謝罪もせず、朝食を攝つた上方に作業場に出發せんとした一同の列中に加はらんとしたので、取り敢へず謹慎を命じ徐に其の事情を糺すに、當時山下は齒痛の爲赤十字病院に於て治療を受けつゝあつたが、その爲作業場へ遲參をなした。仍て其の日の勞賃が五分引となつたのを知り不平を申立て立腹の上歸場し其の夜自己の非を悟らず織田と謀議の上飲酒し無斷外泊（入場前の安宿）をなしたこと判明したが規律を紊ること甚しきものと認め退場方を命じた。

渡邊指導員は其の夜一同に對し二人の行爲の不都合を詳細說きて再び斯の如きことなき樣訓ふると共に二人の同僚を失つた淋しさと兩人の前途を案ずるの餘り思はず涙に聲を曇らせた。

一同が九時の行事を終へて居室に歸つた際、山下織田の兩人は山內指導員より在場中の稼得賃金其の他の收支計算による殘金を受けた上、訓練服其他の貸與品を返還して道場を後に立ち去らんとした時なり、軒下に鳴く蟋蟀の聲もいと絕え〳〵に霜夜の寒氣は犇々と身に逼るを覺ゆる中を、織田は唯一の持物たるメリヤスのシヤツに山下から借りたる薄い合のヅボンを穿ち、山下も亦メリヤスのシヤツにパツチ其の上に黑服の上衣を引かけて、すご〳〵と出て行く姿に接しては、假令二ケ月足らずでも一つ釜の飯を分けて頂き勞苦を共にした彼等兩人が光明あり惠まれた溫きこの家より立ち退いて再び救なき暗黑の社會に流浪する前途を思ひ遣り、兩指導員は勿論訓練生一同も涙ながらに門まで見送り彼等の將來を激勵し健康を祈念した。其の時訓練生南野禮一君が古服を手にして彼等に追ひ縋り「之は破れ服ながら君等へ餞とするから着て行つて呉れ」と手渡したるに兩人は心から感謝し押し頂いて身に着けた。「古語に其の罪を責むるも其の人を憎まず」と云はれて居るが南野君の友情は誠に嬉しく思はれた。送る者も無言、送らるゝ者も無言、唯嗄り泣く感激の涙あるのみだつた。夜は靜に更けて冴へ返へる大空には無數の星が瞬いてゐた。

手をとりて共に泣かなん泣く人の痛む心に心合せて

の歌を心に誦じながら街角に消へ去つた彼等兩人の前途に幸あれかしと祈りつゝ眠に着いた。

(二) 謝　恩

五ケ月に亘る道場生活は訓練生一同にとり更生の礎を育くんだ思ひ出深き樂園であつた。朝夕耳にせる本山の梵鐘も境內に亭々と空を衝く松樹の姿もそは或は吾人の惰眠を覺ます戒の聲であり、或はともすれば僻に走らんとする卑屈なる心情を驅り直ぐかれと訓ふる鑑であつたのである。かくて吾人に日々無言の戒を垂れた鐘の音、松の綠は言はずもがな機に臨み時に觸れていとも溫き熱情を賜はつた本山の各位の御高恩こそは終世一同の腦裏に深く刻まれ「何時かはその萬一に報ひざるべからず」との覺悟を堅くしたが卒業期を控へてこゝにその記念の爲にとて境內の一隅に大和魂の表徵たる櫻樹を植ゑやうとの議が起つた。指導員は大に感激し本山に其の旨申し出て諒解を得た上、曾ての知人たる洛西嵯峨に程近い櫻で有名な植木屋佐野氏に其の話をなした所氏も又其の趣旨に贊意を表され山櫻、紅八重彼岸枝垂櫻に雅兒

櫻の三本を寄贈され二月二十六日夫々手分して植樹を了つた。將來幾春秋、廻り來る春には歡喜の色美はしく謝恩の香を放つに至ることだらう。

(三) 鑑

訓練修了生中唯一の月給勤務者櫻井謙吉君は奈良縣の生れである。父は建築請負業をし相當裕福な家庭に育つたけれど兩親の夫婦愛の破綻から實母は家を去り繼母が家に入つた爲其の犠牲となり十七八の時より家を外に放縱な生活に入つた。其の間奈良第三十八聯隊に入營歩兵一等兵として退營するや大阪に出て木箱業を營んだが失敗に終り父からの資金も途絶えたのでそれから洋服屋に奉公すること二年、次に赤玉カフエーのメンバーボーイ、田舍廻りの俳優と轉々職を換へ遂に失業し其後京都に來て失業登錄を受けたが殆ど自暴自棄に陷り怠惰の限りを盡しつゝあつた。偶々道場の開設に當り入場し五ケ月間の訓練にすつかり更生し二月末修了、現在新興キネマ太秦撮影所に月給三十五圓で雇はれ熱心に就務中である。同君はその從兄で京都府の土木課に勤務せる岡谷氏方に下宿し撮影所に通勤せるがその仕事はスタデイオ内にてセットの建設の手傳をなすもので、朝早くから晩遅くまで道場で與へられた訓練服を身につけて陰日向なく働くのみならず與へられた仕事の手際にはスタデイオ内に落ちてゐる古釘を拾ひ集め三月末にはセメント樽二杯になつたと云ふ。本人にその理由を問ふに鐵の價の高低には關係なく、假令古釘でもそのまゝに埋もれて捨てられるは勿體ないことだと答ふ。誠に我が意を得た心根である。

又撮影所に入所當時俳優其他の映畫人の多數集合せる食堂にて瞑目合掌し聲高らかに食前感謝の歌を朗詠し「頂きます」と怖れず臆せず敢然として行ふ爲並び居る一同は何事かと吃驚したと云ふ。撮影所内には商賣繁昌の緣起から稻荷社を祭るが朝夕そこに參拜するのは永田所長と櫻井君のみだと云ふことである。

同君は下宿でも朝夕の食事に必ず合掌感謝の歌を唱へて頂く爲從兄の家族なる從弟妹達も從來は頂きますと丈稱しただけだつたが其後は同君を手本とし合掌して頂くやうになつたとのこと、其の影響する範圍は極狹いけれどその眞摯なる誠の心が如何に強く人を感化するかを知り同君の修了後の精進振に感激せざるを得ない。

○大阪府阿武野更生訓練所

(一) 村の噂

大阪市を去る東へ六里府下三島平野の一角阿武野山麓の曉を破つて振鈴は響く！此處大阪府立更生訓練所！赤銅色に燒けた金鐵其のものゝ如き若人達は一齊に飛び起き一二三の掛聲も朗らかに體操を始める「訓練所の生徒はんも起きた皆も起きましよ」村人達も此の美しくも又朗らかに、大自然の許に朝に夕に繰返される此の姿に今は老も若きも異常の感化を受けて全村が新しき希望に直進して居るのだ。然し之迄は可成紆餘曲折、初めは村人達の面白からぬ噂も耳にした。

「甚兵衞さん(村の古老)今度何でもお役所の方で澤山の勞働者を連れて來て此の村を眞中に大阪京都への道を作るつてな」

「さあー、それはえーが又畑の野菜や作物を荒されるんじや」「前から其れを心配しとるじや先度(以前)の西國街道を作る時も鮮人等が來て大變田畑を荒され閉口したなあ」

村人達は何も知らず去りし昔に受けた良からぬ印象を繰返し今更顏を歪める者が多かつたが、村人達の斯うした惡い懸念は全くなく更生の意氣に燃えた青年の行事に依り村人の懸念を一掃し

「お宮が毎日箒の跡目も新らしく掃除が出來てると」

「一體誰が來てするんだらう」「長年祭の時かお正月より他に掃除する事がなかつたのに」

「富田へ行く道が壞て居たのに砂利や土を埋めてきれいになつとる誰が作つたんだらう」

斯うした行爲は村人の未だ起きない未明に於て行つたが遂に村人達の知る所となつた。

昇る朝日と諸共に「君が代」を奉唱しつゝ揭揚される大日章旗を仰ぎ聖壽萬歳を心から祈り又隣接地區藍野にある繼體天皇御陵も同時に遙拜し、又毎月一日、十五日には必ず職員生徒全部參拜する「我等は近くに居て心に勿體ないと思ひ乍ら御參りした事はないのに感心だ」これは村人の僞らざる告白である村の惡童達も次第に朝に夕に「君が代」を唱へ宮城遙拜を眞似る樣になつた。

○財團法人四恩學園更生訓練所（大阪府委託）

生死を知る

大阪府下樫井村の出身某氏は徵兵檢査が終ると故郷を飛出し若き青年の畫く成功を夢見て上京し、或時は牧場の雜役となり或時は牛乳配達などして雨の日も風の朝も努力して遂に三百圓位の貯金も出來たが生來の酒と女の爲に無一文となり働先からは解雇されるし本人も自暴自棄となり帝都の地を行雲流水の生活を續けてゐる間に生れ故郷への愛慕の念燃え來り遂に上阪を決意し、人の情に縋りつゝ或時は野宿し或時は民家の軒下に雨ごもりして二十七日間を費して上阪したが不景氣の風は大阪の空にも吹いてゐた、そうして彼も失業者の群に入り今宮釜ケ崎四恩學園共同宿泊所に宿泊し鐵工所の雜役に、建築の手傳に其の日〳〵の生活は續けてゐたが前途に希望もない不安の生活であつた、其時彼の前途に一つの光明を與へてくれたものがあつた、それは昨年十月開所せられた大阪府委託四恩學園更生訓練所であつた、彼はそれに率先して入所し、訓練中は良く指導精神を守り其の間十三ヶ年間音信不通であつた父母の許へ自分の健在を始めて通知したのである、十三ヶ年間生死不明であつた實子よりの便りを手にして親兄弟の喜びは如何ばかりであつたらう。

十歳の頃兄と別れた弟も今は立派な帝國海軍軍人となつて國家に奉公中、一日の休暇で歸宅した時手にしたものは幼き頃別れた兄より訓練所に入所致し更生の道を辿りつゝあるとの手紙であつた、肉身の情堪えがたく遂に一日の休暇を利用して兄を訪ねて來たのである。

肉身の然も十三年間音信不通であつた實弟が待つとは神ならぬ身のつゆ知らず一日の仕事をすまし希望の殿堂へ歸つてみるとそこに待つものは十三年ぶりに逢ふ弟の立派な海軍々人の姿であつた。

兄を待つ弟、弟を見下す兄「元氣だつたか」の一言、彼等二人の眼に光るものは感激の涙と涙であつた。

後に彼は一訓練所に入所させていたゞいて十三年ぶりで始めて兩親の生死を知り兄弟の健全なる姿に接する事が出來た」と感激しつゝ語るのであつた。

○大阪市勞働訓練所

（一）涙の手紙

夜の行事も終り、消燈の笛の音に各班の灯は一齊に消されて、周圍は唯晩秋をかこつ蟲の聲あるのみであつた。殘務整理を終へた指導員のTが、己が寢室に入るべく今しも訓練生寢室前を通り拔けんとした時であつた。

何氣なしに廊下の端を見ると、T指導員は思はず「おやツ！」と口の中で叫んだ。月の明りに照らされた窓際に倚り縋るやうにしてじつと外を睨めてゐる一つの黑き人影があつた。怪しみつゝ何者だらうと近寄つて見ると、それは訓練生の一人だつた。「邦ちやんじやないか？何してるんだい？」低聲で尋ねる指導員の聲に「邦ちやん」と呼ばれた一訓練生は、

さも驚いた樣に振り返るなり「ハツ！先生でしたか濟みません」と、直立不動の姿勢のまゝ其の後は言葉を續けなかつた。しばらくして彼は大きな拳でソツと眼頭を拭つた。彼の頰には一條の涙が銀の樣に跡を引いて光つてゐた。指導員は益々怪訝な顏であつた。

「一體どうしたんだい？」又も涙を拭ふと、「邦ちやん」なる訓練生は「ハツ先生實は」と言つて、「そうです。これを讀んで下さい」と一通の手紙を差出すのであつた。それは鄕里の妹からの手紙だつた。

「兄さんが大阪に居ると言ふお便りを載いて、私は本當に嬉しく思ひました。早速お母さんにも知らしてあげると、母も泣いて喜こんでゐました。母は兄さんが家出して以來心配の所爲か、どことなしに身體が惡く床に就いたり起きたりして今にはつきりしません。お父さんは相變らずお酒を飲んではお母さんに辛く當るので、お母さんがお氣の毒です、駒雄は六年生中でも成績もよく身體も丈夫なので、中學校へでも入れてやればと村山の伯父さんも勸めて下さるのですが、父は貧乏百姓の子に教育が要るかと言つてどうしても聞き入れません。駒雄もこの頃ではすつかり上級學校行をあきらめてゐるやうです。私もこの夏男子を分娩しましたが不注意のためか生後一ヶ月目に下腹部に丹毒が出來早速入院した甲斐もなくとう〳〵亡くしてしまひました。近年はどうしたものか不幸續きです。

しかし兄さんが大阪で勞働訓練所とやらに入隊し、修養に修養をつんで居られることを聞いて、何よりも嬉しく思つて居ります。よくはわかりませんが、おそらく軍隊のやうに嚴しいところだらうと想像してゐます。兄さんも隨分苦勞してゐる學句なのでとても辛いでせうが、病床にゐる母や私等兄妹のことを考へて、今度こそは、どうぞ立派な人になつて歸つて下さい。そればかりが私達の賴みです。

村山の伯父さんも兄さんが訓練所を出て大會社へ就職するのを待つてお父さんにもお詫びしてやらうと云つております。尙お瀧ちやんのことは心配せず、一心に修養を積んで今迄の不名譽をとり返し、立派な人になつて歸つてくるやう吳々も傳えて欲しいとの事でした。村山の伯父さん程優しい物わかりのよい人はありません、お瀧ちやんは丈夫で毎日縫物の稽古に通つてゐます――。」

指導員は手紙から眼を離すと「そうか」と言つたきりで、訓練生の肩を輕く叩いてやるのだつた。そして「君の氣持はよくわかる、しつかりやれ〳〵」と彼に激勵の辭を浴せた。「今晩の先生の修養講話と思ひ合せると私は矢も楯もたまらなくなりました。母の病氣見舞がてら今迄の親不孝を詫びに歸つて來たいと思ひます。先生駄目でせうか？」訓練生は哀願するやうだつた。指導員は「それもよからう、今直ちに歸つてあげるのも惡るくはない。しかし鄕里の人々は君の訓練修了をまつてゐるのだ。そうして就職によつて君の生活が安定することを願つてゐるではないか。邦ちやん！私の言ふことがわかるかネ？」うなだれて考へてゐたその訓練生は、暫らくして言つた。「先生！よくわかりました。私の考違ひでした。立派に訓練を受けて、修了證書を土産に持つて歸りませう。」尙も指導員はやさしく言ひ聞かせた。「だが今の氣持を忘れてはいけないよ！明日でも作業現場から歸つたら、すぐ兩親に手紙を出して置きなさい、そうしたらお母さんも喜ぶだらう。サ寢やう〳〵」。指導員に續いて、訓練生は己が寢室にと進んだ。戸を開く前に大きく涙を拭いてゐる彼の姿を見屆けてから指導員は自室の電燈を消した。

第一回の訓練が終了してから間もなく、或日のこと「邦ちやん」なる訓練生がニコ〳〵顏で訓練所を訪ねて來た。「先生！鄕里の土産ですよ、粗末なものですがとつて下さい」と言つて、多分その土地の名物だらう、藁で卷いた柿羊羹を机の上に載せた。

「おゝ歸つて來たかい」弟とでも話をするやうに、氣輕に指導員は笑顏を以て迎へるのだつた。「結婚式は何日だつた？」

かつての訓練生は羞しそうに「えゝソノつひ先日濟ませたところなんです。會社の方が忙しいのでこれ以上休暇が貰へませんでナア先生」と彼の癖として右手を後頭にあてゝ大きく笑ふのだつた。數日後その父親からも禮狀が來て非常に喜こんでゐた。萬事はうまく運んだやうである。さしもの放蕩息子もかくしてすつかり更生し、新婚の喜びをそのまゝ勤務先に運んで、毎日樂しく暮してゐるのであつた。「こんなことばかりなら訓練事業も愉快だナア」と、T指導員は同僚と共に語り合ふのだつた。

(二) 勞働者から若旦那へ

いよ／＼三月も半頃となつて、就職先の決定した者も次第に數を增して行くのだつた。或日のこと所長を訪ねて來た五十がらみの老紳士があつた。地方訛り丸出しの言葉其の他から想像して、どうやら普通の參觀人とは違ふやうに思へた。所長室での會談は續いて、時には笑ひ聲すら響いて來るのだつた。客が歸つた後、所長は笑顏で現れた。「君こんな次第ぢや」と簡單に譯を話された。Wといふ訓練生を「是非婿養子に呉れんか」とはる／＼福山の方からやつて來たのである。所長も喜んで「こんなのは初手じやハハ、、就職と結婚が一緒に決るんだからナ、Wが歸つたらとつくり相談するとせう」と云つて、極めて上氣嫌であつた、その紳士はメリヤス類の販賣並加工を、相當大規模にやつてゐる人であつた、市の名譽職も勤めてゐた。調べてみると資產も三十萬圓以上あると言ふことだつた。

ところが元來Wなる訓練生は、伊豫三島在の自作農の次男坊に生れたのであるが、其の後兩親を失つたまゝ上京、新聞を配達しつゝ苦學を志してゐたが、思ふやうに學資も續かず、果ては無賴の徒の仲間に入り、放縱生活を續けてゐたのであつた。其の後横濱、神戸と渡り歩き、遂に大阪に流れこんで、日傭勞働者となり、勸められて失業登錄を受け、相も變らず其の日暮しのアンコ生活を送つてゐたのであつた。勞働訓練所へ入所してからも、容易にその惡癖は矯正されず、持前の闘爭心を振つて他の訓練生を威壓せんばかりの氣勢だつた。これがため何時も指導員の忠告やら訓戒を受けてゐたところが指導員の骨折りの効あつてか、入所後二ヶ月目頃より俄然態度が改まり、進んで善行を積み、作業場に於ても人一倍働くやうになつて、立派な模範生になつた。彼自身をして言はしむれば、人生觀の更改であつた。翻然として其非を悟つたのであつた。手硬い相手だつただけに、指導員もホツト安堵の胸をさすつた。

所長の喜ばれるのも實に如上の理由があつたからである。入所當時の彼なれば、斷然その話に乘り出す勇氣は持たれなかつたであらう。所長も、今や主動的に修養練磨にいそしむWの姿をみては、降つて湧いた樣なこの良緣を逃さう筈がなかつた。

Wの意嚮を聞いてみると、意外にも彼はかゝる緣組は反對であると言つた。昨日までは一介のルンペンにも等しい身柄の自分が、何を以てかゝる立派な人の相續人となることが出來やうか。自分には到底そんな資格がないと思ふから、折角のことであるがどうか斷つて呉れといふのであつた。しかしそれは一應儀禮的な、謙讓の言葉とも見られぬことはなかつた。ルンペン同樣日傭勞働者から、三十萬圓の商家の若旦那へ！彼はこのあまりにも大なる變化に對して卽斷的に解答し得なかつたことは事實であらう。しかしこの大なる懸隔あまりにも通俗小說的なこの事件も、よく調査してみると、案外不思議でも何でもなかつたのである。

それは彼の姉が後妻として嫁いだ先こそ、かの老紳士だつたからである。つまりWにしてみれば、未だ顏こそ知らぬが老紳士は義兄であり養子となつて結婚する相手はその娘、卽ち義理の姪に當るとも云へよう。無論緣談にはWの姉も賛成だつたし、娘も高等女學校を卒へてゐるんだし——尤もWも乙種程度だが夜學の工科學校を卒業してゐることはしてゐた——容貌も十人並と言ふので滿更反對する理由もなかつた。

「強制しては却つて本人のためにならぬから」といふ、所長の主張もあつて、其の後は相當期間を經過したが、却つてこれがために本人並に老紳士一家の意志は定まつたやうであつた。

「そんな堅い男こそ今頃珍らしい。尙更婿殿に貰ひたいと」老紳士は再度訪れて所長に仲介を依頼するのだつた。遂に緣談の成立する日が來た。それがために折角の就職先を廢めねばならなかつたが、「サヨナラ」を告げて下關行きの列車に懐しの大阪を後にして去つて行つた彼の顏には一沫の淋しさがないことはなかつたが、それにもまして明日からの新生の意氣に奮ひ起つて、今迄にかつて見たことのない希望に滿ちた顏に、ニツと微笑を殘して去つたのであつた。

三、至誠天に通ず

年末年始へかけて、大阪伊勢四十里を突破する五日間の强行軍が計畫され、或は多少の落伍者も豫想されたが、全訓練生は何のことなく、勇躍大壯圖を果し、尙餘勢を示す程の元氣を持つてゐた。訓練所に無事歸所した一行は、所長以下銘々大いに其勞を慰め合つてゐるときであつた。つか〳〵と職員室へ這入つて來た一訓練生があつた。

實は母が危篤で直ぐ歸れとの電報を貰つてゐますので、勝手を云ひますが二、三日休暇を下さいませんか」と言ふのである。旅行中留守班から何の聯絡もなかつたし、多少不審に思つたので、「何日の電報か」と訊ねて見たところ、實は伊勢徒步參宮出發直前の事であつたが――丁度訓練生による參宮道中雜煮用の餅搗きやら、全般に亘る行軍の準備等で實間から所内は大困雜を呈してゐた。その間に電報が直接訓練生に配達されてゐた爲め職員は少しも知らなかつたのである――「ハハキトクスグカヘレ」の電報が入つたのであつた。その訓練生は靜に言葉を續けた。「徒步による伊勢參宮は、我等の生涯を通じての大行事であります。我等三十一人があれ程勇み立つてゐる矢先、若し私が缺けやうものなら、全體の士氣にどれ程影響するかわからないと思ひました。實は誰にも秘密にしてゐました。しかし先生」と言つて彼は眼頭の涙を拭ふた。「それは隨分辛ふ御座いましたよ。しかしこれが修養と思つて、グツト我慢して居りました。そして大阪――伊勢四十里を唯一心になつて、神樣に願をかけ、母の存命――假令それが不可能としても、せめて參宮を了る迄でも持ちこたへて呉れるやう、一步一步――それは丁度お百度を踏むと同じ思ひでしたが、――に力を込めて祈りつゝ參宮の旅を續けたのでした。しかし宿願の伊勢參宮も了へました。當所に歸つてみても其の後何の便りもないところを見ると、或はまだ大丈夫なのかも知れません。或は私が何處かへ逃亡でもして通知が屆いてゐないと思つて、其後の樣子を報せて來ないのかも知れません、早速歸つてみたいと思ひます。」

やがて指導員訓練生等に見送られて、彼は大阪驛に急いだ。それから二日經つて後、その訓練生は元氣で歸つて來た。「先生母に會ひました。それにお蔭で大分快方に向ひましたよ。もうあれなら大丈夫と思つて歸つて來ました。今度と言ふ今度こそ、神樣の有難みが分りました。全く所長樣や諸先生の仰言る通りです」とニツコリ笑つた。

「至誠天に通ず」とはいつも、訓練生に說いてゐる言葉だつた。彼はそれを言ふのであらう。嘗ては料理店の板場見習を經て來た料理人特有の妙な辯のある男だつたが、こんなことからすつかり見違へるやうに更生して今では訓練所の幹旋で、天下のS電線製作所に勤め、日收二圓五十錢を貰つてゐる。

○神奈川縣勞働訓練所

(一) 三年目の通信

「思ひだすのは今から三年前、すなはち昭和九年八月、家を出て旅から旅への放浪者となり、どん底生活にあえいで來た人間です。今度神奈川縣勞働訓練所へ入所してからは生れかはつた人間として、親に手紙のやりとりが出來るやうになつたのも、ひとへに縣の先生又は津田先生や柴草先生の御骨折りと感謝して居ります。又十二月十七日の開所式には、

名譽ある社會局長官や地方長官や縣の課長皆様と同席して晝食をした事は私にとつて最大光榮です。此の世に生をうけてこんなに感謝した日はありません。思ひ出せば街の與太者又旅浪者として生活をして來た昔が何となくうらめしくなります。どうか今後皆様の教訓にしたがひ立派な勤勞者として世の中に出る決心です」。

この感想で告白して居る訓練生近藤護二君は親から勘當同様の仕置を受け、手紙のやりとりさへできない様な悲境に身を沈めて居た青年である。年は二十四歳で家には兩親の外、兄一人、弟一人、妹が二人居る。

家を出てから三年、街の與太者としてすさんだ放浪の日を途り、宿泊所から宿泊所へと轉々し來つた此の青年が、お上の暖かい御慈悲の塊たる本訓練所へ入つてからどういふ空氣の中で更生の路を辿りつゝあるか、次に掲げる妹さんからの音信が最も雄辯に之を物語つて居ると思ふ。更生訓練事業といふものに少しでも關心を持たれて居る程の人達は、誰でも此の手紙を涙なしには讀み下し得ないだらうと同時にそれが現下日本における一つの大きな社會問題として考へさせられるのである。

妹薫さんの手紙（原文の儘）

御手紙有難く拜見致しました。其の後お足もお癒りなされてお元氣でお働になつて居られる事蔭ながら喜んで居ります。御手紙と同封にて小爲替をお送り下され父も非常に喜んで居りますし又母も喜び私達兄妹も大變嬉しくて堪りませんです。

承はれば兄様には更正預金からわざ〳〵お引出し下され父母に何か買つて下さいとの誠に有難きお言葉たゞ泣くばかりで御座居ます。父も護二兄様から送つて呉れたのだと申しますと父は病につかれた床の中で嬉し泣きに泣いて居られます。母も泣きました。私達も泣きました。親子姉妹嬉し泣きに泣きました。兄様が汗と勞苦を厭はずに一生懸命に更生を誓はれてお働きになられた尊い此のお金どうして私達泣かずにいられませうか。粗かにする事はどうして出來ませうか。今までの惡い夢もさめて一心不亂に働いて居られる兄様の御姿が頭に浮んでまいります。大阪と申せば兄様にもお懐かしう御感じの事と存じます。其の大阪の地にも冬が訪れてまいりました。兄様の居られる鎌倉にも大阪と同じ冬が訪づれた事と思ひます。まして大阪にくらべれば東京は同じ冬でも非常に寒いとの事人傳に聞いて居ります。ましてその寒い土地でお働きになつて居られる兄様にも御無理のなき様にくれ〳〵もお願ひ申します。

家の事は御心配なく私達妹姉で力を合せてまいりますから御安心下さいませ。

それよりも兄様は今までの事はお忘れなされ父母に御安心さる様になられる事が一日でも早く來るのを姉妹弟が樂しんで待つて居りますどうか無理をなさらずに一生懸命にお働きになつて私達兄姉妹弟親子揃つて打ち喜ぶ日の近く來るのを樂しみにして居りますから兄様も一日も早く立派になつて歸つてこられん事を蔭ながらお祈り致して居ります。父母もくれ〳〵も御體に氣をつける様にと申し居られるのです。では兄様の御成功と御健康とをお祈り致して居ります。では御禮まで太田様によろしくお傳へ下さいませ。

護二兄様へ　　薫より

（二）終了生の活動振り

松田末松君は訓練終了後去る三月三十日鶴見の淺野ドックに職夫として就職し爾來勤勞報國の意氣をもつて、精勵作業に從事してゐる。

此の淺野製鐵造船の工場の空地には、鐵屑が宛も此の世の廢物そのものゝ姿で、亂雜に、うづ高く積まれてある。文明の怪物熔鑛爐の巨體が仁王立ちに二柱、直立不動の姿勢をとり、鐵屑に對する限り無く飽く無き食慾の唸を立てゝ居

る否鐵屑に對する大慈大悲の更生意慾に燃えて居る。熔鑛爐の中へ收容された鐵屑は、その强烈な慈愛の溫氣によつて、曲めるもの、傾ける物、失れる物、錆びたる物、各個の形態は一變し、全く原型を失つて、皆一樣に同心一體の鐵材となる。熔鑛爐は鐵屑の精神訓練所である。熔鑛爐で眞つ赤に熔けた鐵材は、更に何百貫の鐵槌で打ち鍛へられること幾百回、漸く伸べ平らめられて立派な鋼鐵板となる。

伸鐵工作所は鋼鐵材の勤勞訓練所である。此の鋼鐵板は更に又客觀的社會情勢や經濟條件に應じて、或は廣く或は狹く、或は長く或は短く仕切られて、機械類、船艦類に、社會國家に有用の材として賣り捌かれる。事務所は鋼鐵板の經濟訓練所である。かるが故に工場卽道場である。鐵屑が社會國家に有用の材となつて產業に、交通に、軍事に、國防に、貢獻しつゝある實例が物の見事に日々夜々活きた敎訓として、わが松田君の前に示されてゐるのだ。

松田君は淺野製鐵造船を直ちに訓練生活の延長、切磋琢磨の道場と心得、勞銀の多寡に拘らず、報恩感謝の訓練精神でかげひなたなく、定時の作業に精勵するばかりでなく、殘業に次ぐ殘業を物ともせず、働き拔いてゐる。

同じ職場で松田君と作業を共にしてゐる勞働者達は、監督の眼が光つてゐなければ、直ぐに怠け出す癖が付いてゐるので、こうした松田君の勤勞振りが、どうも氣になつて仕樣がないのである。で、時々、

「おい松田そんなにムキになつて働くの、よせや、餘計に働いたからつて、俺達の定給が倍になるなんてこたあねえんだ。いゝ加減にもつと要領よくやれよ」と、ブレーキをかける者も有つたりして、新參の松田を壓迫するけれども、松田には訓練の筋金がはいつてゐるので、その手には乘らず、默々としてやつてゐる。

松田にはさうして與へられた仕事を默々としてやることが一つの大きな感激になつてゐるのだ。そして松田を蕩らさうとして、色々不平を投げ付ける仲間の言葉は、寧ろ更生した松田には奮起と拍車とさへなる。松田君は五ケ月間の訓練生活で世の「賃銀奴隷」といふものから解放されたのである。御報恩の爲めに、只御報恩の爲めに勤勞するのだ。そして御報恩の勤勞生活のいかに淸々しく愉快なものであるかを、その間に泌々と體驗してゐるのだ。

そこで、晝食の時間が來ると、皆お腹が空いてゐるので、ガツ／＼と辨當にかぶり付くのであるが、獨り松田君は辨當を披くと、その御飯の前で必ず「天地人三方の恩德に感謝して頂きます」。とお祈りをしてから食べる。仲間の職工達には、それがまた氣になつてならない。

「おい松田、お前ムニヤ／＼何を言つてるんだ？」「これかよ、これやなア お前、御飯てものアなア百姓がよ、汗水流して作つたものぢやねえか。その百姓達の勤勞のお蔭で俺達はこうして働けるんだから俺ア、その德に感謝して食べるんだ」。

「ウーン成る程なア」

勤勞者には勤勞の尊さといふものは、理窟なしによく呑み込めるので松田君にこう云はれると一も二もなく皆感心した。そしてその翌日からといふものは松田君がこのお祈りをやらないと、皆は勝手にお辨當の箸を取るがきまりが惡い樣な氣持になり、松田君のお祈りを待つてから箸をとるといふ習慣がいつとはなしにつく樣になつた。お辨當の時に、松田君の顏が見えないと

「おい松田君はどうした？松田君お辨當にしようぜ」と呼ぶのである。

就職してからまだ一ケ月餘りにしかならない中に、松田君はかうして默々として同僚を感化しつゝある。勞務主任の小倉氏は「松田君は、全く模範人物だと職場の係員が褒めて居ります。」と折り紙をつけてくれた。

(三) 產結會第一寮の狀況

殺風景なせゝつこましい所に、外見には何んの華かさもなく陣取つてゐる我等の寮ですが、此頃の寮生の毎日は文字通り元氣そのものである。「安定した幸福」と、「希望のある生活」と、そして「かゝる今日を得た深い感謝」とが、寮動脈を流れる血潮となつて第一寮は此の處青春謳歌の若人の概がある。それに兩先生の度々の御來訪による御力添、縣の方々の御芳情さては多數諸君の御聲援によつて、寮の血潮は淨化と、向上と、感謝と、努力の呼吸を間斷なく續けてゐる。

◇

「あの身體でよくも續くものだ」と誰にもこう言はれてゐるのは沼田君である。彼の毎日は早出と殘業の連續で全く目まぐるしい迄の活動振りである。四月中の働き高を見ても日給壹圓二十錢の處平均貳圓以上と言ふ莫大の數字を示してゐる。彼の奮鬪推して知るべしである。水野君、古谷君、高山君、共にその次に位するもので彼氏等も定給を凌駕すること日に五拾錢以上といふ、全く敬服に値する結果を示してゐる。

通勤距離の遠いのと、勤務時間の長いのとそして比較的賃銀が安いので同情されてゐるのは松田君である。然し彼は少しの不平を言ふでもなし、例のむつつり屋で、他の寮生が殘業早出の誇らし氣な語らひをも外にして「俺は休まずに追付かう」と彼の長所頑張主義を翳して、公休も休むちやなし、毎日三里の道を往復して四月中全くの無休は寮中彼一人である。噂によれば彼の同職者中の先輩は勿論、掛長や支配人まで皆彼の勤務振りと頑張り方に舌を捲いてゐるとか、蓋し當然のことであらう。

例の子供らしい可愛らしさと、無邪氣な若者として寮の人氣を一人で脊負つてゐるのは、矢張り高田治郎吉君である。入寮の當初、會社からの歸り、塘のありかを遂ひ忘れてしまつて、六時半頃から八時頃まで、暗がりの中を自轉車で右往左往彷徨して漸く歸宅した笑へぬナンセンスは持つてゐるが自轉車で一時間以上も踏まねばならぬ道を、朝は五時半から晩の歸りは十時頃まで、孜々として働いてゐる。不平も言はず、不滿ももらさず殘業の歩合高を誇るでもなくたゞ不言の中に働き通してゐる彼氏には、一同氣の毒やら同情やら、全く涙の出さうな氣持にさせられてゐる。彼も定給を凌ぐこと平均四拾錢。

かくして以上張り切りボーイの六人は、破れん許りの張り切り方を示してゐるのに、早出をするでもなく殘業をするでもなく、公休日にはのん〳〵と休んでゐるかく言ふ健夫氏は、それでも不平をこぼさぬ所は、如何にも成人らしさはある樣だが、一つばし自ら寮長をきめこんで、寮生の誰彼に頭から威張り散らして事足れりとしてゐるあたり、陽氣の故で此頃いくらかノボセ方が烈しくなつたと見える。

兎に角一同は心身共に頑健、誰が一番先きに不平の音を揚げるやら、こゝの所足並が揃つてゐるだけに興味深いものがある。

◇

我等の寮を開いてから既に一ヶ月半不肖私が何彼にと親分らしく振まつてはゐるものゝ寮の皆樣に滿足は決して與へ得て居ない。夫婦共に田舍者の悲しさ、どんなに工夫をめぐらしても、どんなによかれかしと祈りつゝ努めても、所詮は名案もなければ良結果も得られ樣筈もないが、幸に內外共に皆樣の寬恕の賜によつて、どうにか無事に歩みつゝあることは何よりのことである、

是も一重に半年間訓練所生活をして、お互に教へられた心構へを持つてゐるからであらう。

兎に角、正直の處、色々な意味で寮の生活が決して無意味な生活でなかつた事を喜んでゐる。(太田健夫報告)

(四) 產結會第二寮の狀況

去る五月初旬、男性的鯉幟に送られて、軍都の一角に生れた吾が産結會の第二寮、あれからもう三ケ月を經過した。取付世帯の不安と焦燥から脱却して最近はやつと本格的に落着を見せる様になつた。長官山の麓に在つて、チツポケな存在ではあるが、寮の空氣は此の眞夏の様に男性的で開放的で積極的で若々しくて明朗なのだ。

私達の寮は訓練所自炊生活の延長である事は今更言ふ迄もないが、訓練所生活と異つて現在の生活は外部に對しての接觸が多いだけ、自づとそこに眞劍さが湧き云ひ知れぬ希望を感じ大きな意義を感じて居るのである。

▽起きてから寢るまでのあらまし

先づ私達の生活のスタートは午前四時に切られる。當番の起床である。四時――五時、一日に取つて最も慌しいこの一時間を當番は訓練所仕込みの炊事と掃除に費すのである。最初の中は如何に訓練所に於て炊事がお手のものでも、各々職場が異ひ(訓練所では職場が一つである)出勤時間が異ひ、色々な點で支障が多かつた。「これでやつて行けるだらうか」――さうした危惧の念がお互ひの胸に渦巻いた。だが、今日此の頃は完全にそれを克服した。そして何等の苦痛も不自由も感じなくなり、これからの男は炊事の一通り位完全に出來る様な人間でなくては駄目だ、と云つた様な調子なのだ。「經濟と榮養が兩立しないで困る」こんな料理に對する研究的な言葉さへも飛び出す様になつた。五時、長官山のサイレンが、あらゆる物を威壓する様に咆吼する頃、私達は打ち揃つて朝食の箸を採る。一時間以上も出勤時間が異ふのに、斯うして毎朝同じ時間に揃つて食卓に向ふ様に習慣づけられた私達の生活――「お互ひが自己中心主義から離れて全體の爲めに」――と言ふ觀念の頂きから、總べてを見下す様になつた事を感じて、涙ぐましくさへなる事がある。辨當が詰められる。愈々職場への出勤だ。お互ひが斯うしてシツクリ合つた氣持なので、心置きなく出勤出來るし、斯うした寮の空氣をその儘ソツクリ職場へ運ぶ事が出來るのだ。

片々たる私心を捨て身を挺して勤勞報國の大道を歩まんとする私達――そこには汗と油にまみれ乍ら、只默々として働く事があるのみだ。働けば働くほど汗みどろになる事に、快い手應へさへ感じる最近である。働く事の喜びを覺え味ひ乍ら、云ひ知れぬ滿足を感じ乍ら、家路を辿る。「一分でも一秒でも早く寮へ歸りたい。狹い乍らも樂しい吾が家へ」といふ氣持で誰もが歸つて來る。寮を始めてから今迄、止むを得ない事情のない限り、一度も途中でストツプしない事は、感心もし又樂しい吾寮である事を物語るに充分だ、夜の炊事と掃除は一番早く歸つた者が誰でもやる事になつて居る。夜の炊事は朝と異つて、時間的にも可なりスローでもいゝし、料理も精進こめられる。

神經質な探照燈が暗の大空を射り始める頃、又揃つて夕食の箸をとる。旺んな私達の食慾の爲には、ライスカレー、揚物、赤飯等食膳を賑はすのである、此の時間が一日を通じて最も樂しいユツタリした一刻である。一日の職場での失敗談、手柄話等に花が咲く。時々爆笑さへも起る。一日の疲れも何も彼も吹つ飛んで仕舞ふのだ。夜の炊事の片付けと明日の準備は翌日の當番がやる事になつて居る。總て手順よく廻轉して居るので、何の心配もなく、何のわだかまりもない。

曾て横須賀日日の記者が訪れて書いたあの記事も、新聞のお世辭ばかりでない事を自信を持つて云ひ得るのである。大體十時頃に消燈、夢路につくのだが、私達の結ぶ夢は昨日のものより樂しく、明日のものは更に樂しいものとなるであらう。

大略ではあるが、以上がこの寮の一日の生活である。こうした一日の生活の底を流れるものは、訓練所からその儘ソツクリ拜借した綱領三則の一つであるところの「禮を重んずべし」である。人として禮儀のない者に、總べて何事も出來得られるものでない。といふ信念なのだ。之に就いては色々面白い逸話がある。寮内寮外を問はずこの禮を重んずべしは何時も私達の念頭に置かれて居る。未だ〳〵ではあるが、始めた當時に比較すれば、奥床しい寮風が培はれた事は事

實である。

この間、寮友近藤讓二(守が本名)君の曾ての友人がこの寮を訪れた。近藤君は外出から歸つたばかりで裸體であつた。友人の彼氏玄關へ上るなり、暑い〳〵とロクな挨拶もせずにスツ裸である。皆不愉快に感じた。近藤君は何を思つたか、急に服裝を整へて、素裸の彼氏へ御挨拶である。彼氏些か面喰つて、素つ裸のまゝ正座せざるを得なくなつて苦笑である。後で私達は思ひ出しては笑ふのであるが、こんな小さい出來事を通して言はず語らずの中に「昔の近藤とは異ふのだ」といふ事を示して居る。近藤君の態度は一片の小話として見逃す事が出來るだらうか。

▽寮の空氣その種々相

或る人が此の寮へ參加を求めて來た。特に或る人として置きたい。炊事をやるのは嫌ひだから、その代りに食費として他の者より多く支出するからと云ふ條件だが、私達は遺憾乍ら斷つた。私達の寮は下宿屋ではない。一つの修養道場であつて、そこには團體生活としての規律、秩序、節制が必要とされる。私達と總べてに歩調の揃はぬ者は斷然參加して貰ひたくなく、それ程内容的に安ツポク見られたくない。——といふ氣持で參加を斷つたのだ。話は極く簡單であるが、その中に含まれる寮の空氣を物語つて居ると思はれる。まだ拾ひ上げると、書きたい事は幾らもあるが、これ位で打切つて、各個人の動靜を紹介しよう。

○内田君　精勵恪勤居士のニックネームを持つ彼氏は、訓練所の頃と同じ樣に齒車の樣な間斷ない素晴らしい恪勤振りを見せて居ます。彼氏は職場において一方の棒頭なので、寮へ歸つても相當なものになつた。髮を燕の尾の樣に分けて、トンガラがつた顎を四十五度に突き出して、輕度の近視眼鏡を光らせるあたり、寮の名物男である。岡本一平氏あたりに見せたら素敵なものが出來上るだらう。職場においての棒頭としての洗練、寮へ歸つてからの團體生活の効果で、色々な方面に極めて多角的に更生しつゝある事を想像して下さい。

○近藤君　曾て訓練所で美談佳話の持主であつた彼氏は、縣下に名だたる馬淵組の支配人谷川氏の親身にも勝る御厚志に感謝し乍ら、眞つ黑になつて働いて居る。内田君とは凡そ正反對な對蹠的存在で、頭を山嵐の樣にボサツとして居る。

内田君は常に用心深く、小心翼々としてコツ〳〵と金を貯へる。凡そ人に迷惑の掛る事を戰々競々として惟れ懼れる善人の典型で、二宮尊德翁の或る一面をそのまゝ地で行つて居る樣な所がある。訓練所時代から吾々凡人生活者の模範的人物とされて來た。それだけに又、私的經濟の問題になると、人一倍こだわりが強い。そこへ行くと、近藤君は寧ろ放漫惡く云へば少しズボラと云つていゝ位に、私的經濟にこだわらない。大まかで大雜把な所がある。好く云へば氣前の良い阿兄い肌である。そこに彼氏の人に好かれる人徳ともいふべきものがあつて、八百屋や米屋などには迚も氣受けがよい、寮における生活態度も以前の近藤君が持つて居たあのヨタモノ好みの惡どさが洗練され、極めて眞劍であるのが、何よりも寮内の苦熱を除いてくれる清涼さである。料理等も一等地を拔くものがあるので、代名詞をコツクと呼んで居ます。彼の日々の生活振りは前に書いた友達への挨拶の一節を見て御想像願ひたい。

○山口君　何時も同じ樣に元氣で朗らかで頑張りやで、非常時を獨りで背負つて居る樣な感激に燃えながら、毎日海軍工廠に通つて居ます。寮中最年少者で、歌が上手で、寮を音樂堂の氣持で、歌ひ捲くつて居ます。時々樂器店の前でウキンドの蓄音器の正札と睨めつこをして懷中の淋しさを嘆いて居ます。

代名詞を蟬といふ。

最後に私ですが「寮長」、こんな敬稱を頂戴して空威張りをして居るんです。皆の元氣に引き摺られて、後につくだけです。幸に誰もが元氣で一致してやつてくれるので助かります。寮長、これが今では近所の通り名になつてしまひまし

た。何も外に私の事に就ては書く事はない樣です。兎に角一生懸命頑張る心算であります。今後至らない所は敎へて良い所はほめて、惡い所はソッと叱責つて頂きたいのです。――斯うして一同身心共頑健、產結會の賽としての體面を保つ樣になつた事は、訓練所生活の賜物と、又遠路時々御來訪を下さる津田先生の御力添へ、縣當局の御後援、當地秋葉樣等の御厚情の然らしむる所と感謝して居ります。（高橋傳吉）

○横濱市勞働訓練道場

（一）山石君の更生

山石（假名）太一郎は九州の或る海濱に育つた男であつた、幼年時代から人には負けて居ない性質の子でそれも男親からの遺傳であつたとも思はれた。

彼が七歲の時父親は亡くなつた。兄と母親との手で我儘一杯に育つて來た彼は十六歲の時には早くも兄の仕事（漁場の卸賣の仕事）を手傳つて、他人の言ふこともきかず思ふ通りの商賣をして一つ朝で何百圓かの穴をあけたと云ふこともあつた。

或る會社の見習實習生として採用されたのは、彼が魚商賣では將來やれないだろう、此の儘手放しでやらせることは危險だと云ふ家族會議の結果からだつた。

工科學校の豫科（建築科）を三年終了した頃ふとした事から踏み入つたのがマルクスボーイの群だつた。

炭山のストライキ、工場の爭議が頻々として起つた。

その中に偶々彼の名があり、彼は辯舌と闘志との故に遂には推されて小さなリーダーとまでされて了つた。

或工場の爭議の際にそれは彼の伯父に當る人が專務をして居る會社だつたが、遂には伯父との衝突となり「勘當する！「死んだと思つて追出す」、「死んでも歸るものか」、親戚の人々の思慮ある處置が青年の彼には通じなかつた。彼の落ちて行つた先は土方の群だつた。それから青年の彼の流浪の生活が續けられた。北海道の監獄部屋から南洋島々の勞働（土方仕事）へと轉々遂に數年を費した。

勞働訓練道場の開かれる迄、反社會的の思想の持主の彼が、道場生活に入つて間もなく打つて變つた皇國主義の青年となつたことは奇蹟的なことゝさへ思はれた。

訓練修了の日も近い或る日、數年間音信不通だつた家兄への通信に對して溫情のある兄からの返信が屆いた。

「愈々お前がその決心、大君への忠誠の心に立返つて呉れたことはうれしい、お前の今日の更生を第一に知らして上げたいお母さんは三年前お前の名を呼びながら瞑目されたのだ。お前が渡滿の日が決定したらせめて墓參に歸つて呉れ、せめて私がお母さんに代つて歡迎する、そして一緒にお母さんの墓參をしよう。」

（二）重村君の意氣

重村（假名）嘉助は日頃無口な男で默々として働くことでは他の者に負けては居なかつた、早くから兩親に別れた彼が勞働者の群へ入つたのは尋常小學も終るか終らない頃からのことだつた、鄕里の三重縣を飛び出したのは、親のない生れ故鄕の淋しさから離れて都會へゝの憧れからでもあつた。

最初の間は偉い人になるつもりだつた、勿論偉い人と云ふ定義の解つて居る彼でもなかつた、小柄で働きを厭はない彼は重寶がられた。然し金を取ることを覺えた彼は同時に酒の味を覺え、賭博の面白味を知つた。

濱に來ていゝ仕事は「立ん坊」だつた。無料宿泊所に泊つて仕事着一枚を持つた彼は沖の仲仕の群に入つて、景氣のいゝ時には一夜に（徹夜すれば）三圓となり五圓の金を取ることも出來た。然し金が彼の手を離れることも早かつた。泊

りへの歸途には、めしやがあつた。めしやには彼を待つて居る連中があつた。

「嘉の字手前、今日はたんまり貰つて來たと云ふぢやねえかえ、おい」、「すごすごどやえも歸れめえぢやねえかよなあ」と言つた調子だつた。彼の勞働は所詮斯うした惡への奉公に費はれて居た。訓練所が開始された時、未だ補缺を入れる餘裕があつた、ある朝彼は自動車で、お伴つきで宿泊所へ歸つて來たのだつた、その前夜例の惡醉のくせが出たゝめに十圓餘りの無錢飲食をやつたゝめだつた、宿泊所には彼の貯金の殘りがあつた、それを支拂つた後で酒の醒めた彼の頭に「こんなことでどうなることか知れない」と云ふ哀しさとも、心細さともつかぬ感情が湧いたのだつた、やがて許されて彼は訓練生となつた、それで一度も脱線しなかつたとは言はない、幾度か、「飲んで歩きたい」思が擡頭した、それに克つて來たのは訓練道場の雰圍氣だつた、然し遂に脱線して了つた、一度は訓戒のために退場せしめたが假訓練中のことゝて更めて入所を許可されたそれから猛烈な精進振が始まつた、全く側目も振らないその態度には他の訓練生達が驚かされた、訓練甲の故を以て賞品を授與された彼、新しい戰場へと希望に輝ひた彼が更生の第一歩を自ら祝ふ意味で買つて來た生れて始めて穿く靴(ゴム底製)の光「おい重村君、君の靴は違いやしねえか、親指の割れた奴とよ」などゝからかはれながらも、にこにこしながら鼻唄交りの彼、彼の得意の時に出る唄は「伊勢音頭」だつた。

生れ故郷の伊勢の山田を思ひ出させた、家の無い身にとつて此の道場こそ彼のホームなのだつた。「他の者が皆失敗しても俺だけは失敗しない」義理づくでも、意地づくでもやり拔こうと云ふ心意氣なのだ。「俺の更生のためには政府の金がかゝつて居る」。

○名古屋市自彊會道場

訓練の成果と認めらるゝ事例を道場日誌から摘錄する。

(一) 十月七日

道場に入る前は毎夜二、三合の酒を飲まなければ寢に就き得ない者數名あつた。然るに道場に入つてからは飲み度いと云ふ氣持にならないやうになつた由である。

本日病人一人あつたけれど就勞には支障なかつた。處が道場生一同の意嚮として今後病氣の爲就勞不可能となつた者ある際は各自醵金して病人の食費位は負擔したい旨申出あつた。

(二) 十月九日

昨日退去と決定した者反省の結果髪を切つて謝罪したので一應之を許可した。

(三) 十月十三日

今朝道場生の一人佛壇に捧げた御飯の御下りを頂き度い旨申立あつた。それは母の命日なるが爲である。

(四) 十月二十五日

本日現場にて道場生二人口論せる由だが其の中の一人夜消燈後指導員を訪れて相手に對し謝罪したい旨申出あつたので他の一人を呼んで相互に謝罪させ一切を氷解させた。

(五) 十一月十六日

道場内炊事場及玄關口に道場生一同の發起により歸場後三和土を施工し七時半頃完了した。奉仕の念喜ばしい。

(六) 十一月二十二日

本日道場生の一人母の命日なりとて佛壇に花を供へた者もあつた。喜ばしい事である。

(七) 十一月二十三日

道場生の內道場裏の風穴を板で塞ぎ一同の難儀を救つた者があつた。喜ぶべき心掛である。

(八) 十二月八日

道場生一同就勞現場から鐵材を滿載した荷車が溝に落ち困り居る場所に出會ひ一同協力して之を引上げた。その動作極めて親切で美はしき光景であつた。

○神戸市勞働者訓練所

消防奉仕

常に訓練生をして敬神崇祖の觀念を助長せしむべく村落神社佛閣の淸掃修覆等に當らせ、且村落の通路側溝の掃除、道直し等奉仕訓練を實施し一般村民から賞讃の聲高い折五月十九日午後六時頃訓練所より約一丁半西方の村家より出火し、旱天續きに當時稍々風强き爲見る間に一戸全燒一戸半燒の椿事を惹起した。當時出火の警報を聞くや指導員は直に一同を引卒現場に急行し自己を省みず死力を盡して村民と協力し消火に努めた。鎭火後村民代表者及消防組合代表者は訓練所を訪問し厚き感謝の言葉を殘され其行爲を激賞された。

○福岡縣勞働訓練所

(一) 鄕里への送金

北九州に憧れて八幡市に來り失業のどん底に人生の苦をいやと云ふ程味つた訓練生の一人は、入所後は從來の兎もすれば荒み勝ちな生活を一擲して父の死後彼の成功を唯一の賴りとして待つて居る鄕里鹿兒島の本年八十歲の祖母と、母と一人の弟の爲に彼が日々得る賃銀の中より僅ばかりを差引き五圓の金になれば之を爲替にしては鄕里の肉親の生活費と弟の學費に充てるために送つて居た。鹿兒島と云へば九州でも相當暖い處である。其處に育つた彼は九月十月はそれでも大した苦痛も感じなかつたが、一月となり二月となり雪を見る樣になつても秋の儘の服である、防寒にオーバーの古物を皆着て居ても彼は決してそれすら求め樣としないで、極力節約に努め鄕里に送り、どんなにしても弟を高等小學だけは金の苦痛を味はせないで卒業させたい、且つ老祖母達にも人並の食事を三度だけはやらしたい。自分が切りつめれば切りつめるだけ幾分でも鄕里の者が助かるのだと一意貯金と修養にいそしんで居た。

之も指導員には當初こんな行爲は全く知られなかつたのであるが、貯金成績が他の訓練生に比して就勞せざる日も就勞せし日もその額が一定して居る不審を抱き一日彼を一人呼んで其の行爲を發見した次第である。

(二) 煙草の節約貯金

鄕里博多に母一人を殘し北九州の景氣に成功を夢みて出かけた一人息子の訓練生の一人は年齡の稍長ぜる爲思ふ樣に工場勞働者となる事が出來ず、焦れば焦る程失業の底に落ちつゝあつたが、入所後は一錢の金も二つにして使ふ程に切りつめた生活をしては老母に送金した。彼の母は彼なくしては生きる事が出來ず、彼も又母なくしては生き得られない程の孝行者である、金の有難さは又骨身に浸みて感じて居る、だから彼は又世の中の自分より金に苦しみ惱む者の苦しみも能く知つて居るのである。

丁度の煙草の値上げの日指導員室に來て一つの橙の形をなした貯金箱を示して曰く「之は橙を代々の意として取り今日の煙草の値上げの日から私は今迄よりも煙草を節約しそれで得た金だけを貯金しやがてこの貯金箱が一杯になればそれを皆今日の自分よりも苦しい生活のどん底に惱む人の爲の救濟の一助ともしたい。そして之をこの訓練所に入所した私の唯一の記念として永久に實行したい」。と以來彼は其の實行に日々勵み進んで居る。

○東京市江戸川勞働修練道場

感　想　記

(一)

過去の順調で無かつた生活を振り返つて見る時自分と言ふ者が如何に無氣力で、だらしない者であつたかを此頃つくづゝ知る事が出來ました。そして此の道場へ入場した事を心から喜んで居ります。曾つては登錄勞働者で更生等思ひも寄らぬと考へ働けば働いただけ呑んで親も姉妹も可愛い子供までも忘れて自暴半分であばれ廻つて居た過去の姿を思ひ浮べる時「嗚呼、俺は何んて馬鹿だつたらう」と思はずには居られません。と同時に登錄勞働者でも心の持ち樣で必ず更生出來得る事を深く感じます。私の樣なだらしない男も現在では總ての事を喜んで感謝して働く心、未完成では有りますが此の心を育てゝ行きつゝある事は入場して得た私の大きな收獲であると思ひます。元の登錄人夫に返つても大丈夫一本立ちに成つて貰ひたい」と言はれた諸先生のお言葉にそひ得る事を斷言いたします。

私の心に光明を見い出すに至つた原因は道場長殿始め諸先生が朝早くから夜遲く迄私等の爲めに活動される姿を見た時「あゝ濟まないなあ」と心に感じたのが始まりでした。殘り少ない日時を益々心をこめて無事共々卒業したいと念願して居り、又兎角ゆるみ勝ちな私の心をびし〳〵しめて頂く事をお願ひ申上げる次第であります。(安岡道輝)

(二)

私は日本の國に生れた事を全く感謝に耐へません、何故かと申しますれば道場長及び諸先生が寢食を忘れて吾々の爲に御熱心に御盡力御教導下され、山なす黃金にても買へざる良き修養が出來ました。それにつけても日本の國に生れた幸福を痛切に身にしみて感じます。

此の御高恩の萬分の一なりとも御返しするには再び實社會に出て道場にて先生より鍛へられた精神にて、一心に努力し立派な人間にならねばならぬと希望に輝く眼に涙を流して感謝感激の日を送てゐます。(泉金治)

(三)

こゝに御懇篤なる御指導を受くること已に四ケ月然るに尙未だ人間になり得ない自分を悲しむ。如何にしても卒業後の就職問題は我が心の奧底に蠢くを否めない。只管自己研鑽に意を用ふべきなるを痛感しながらも。

此に入りて得たる大收獲の一つと信ずるものは眞劍と云ふものゝ如何に美しく、然も如何に尊嚴にして且崇高なるものなるかを道場長初め諸先生の我等に接し下さる態度によりて感受せしことである。生を享けて二十有五年或時は本に或時は教師にその必要なるを讀み且又聞きしこと幾度なりしも、そは只必要なる程度に於て止まりしに過ぎなかつた。この收獲や實に自分の今後の處世上、如何に大なる影響を齎らすならんかに思ひ至るとき轉た感慨に堪へない次第である。

就職希望に就いては兎に角如何なる類の職に就くとも全くの白紙となつて第一歩より、眞に第一歩より、實習と研究の意を以て勤むる心算であります。(土屋富太)

○京都市勞働者更生訓練道場

感　想　記

(一)

私はこれほどけつこうなところでどやつかいになつたことは一どもありません。先生樣にためになることやげんきづけていたゞきまして、朝はげんきでさもちよくしごとにいくのがたのしみにはたらいてをります。

おさけのみたいとおもいまして一どふろやからかへりにのもうとおもいましたが、先生のぎようじしてゐられるすが

たがめにうつりましてのまずに金はらつてかへりました。五ケ月すみましてのちまじめにしようじきにつらいことがあつてもげんきではたらきます。(尋一修片岸清太郎二十八歳)

(二)

自分はつまらぬ事に惱み苦んで未熟な人生の路をとぼ〳〵歩いて行きました。だん〳〵希望なく前途もなく疲れ〳〵て死線にまで來ました。其の時一寸待てと呼ばれて更生道場へ救はれました。最早二ケ月其の間心から泣いたり笑つたり怒つたり慰めたりしてよい精神の持ちかたに變りました。

私は何時も日本國に生れた事を神に感謝してをります。

上　天皇陛下、下指導して下さるお方にお禮と感謝の心で一ぱいです。私らは若い。一旦枯れようとしたけれど手入しだいでずん〳〵と伸びていく力を持つて居ます。先生樣このあと期間どうか私等の爲にお手入お願申上ます。(高小卒櫻井謙吉二十六歳)

(三)

五ケ月間の訓練も夢の間にすぎ餘すところ四、五日となつたが、自分はどれ丈の修養ができたか、どれ丈よくなつたかと顧ると恥かしい思がする。だが外に居ればよからぬ事に暮れる苦の月日が溫き手に指導され道を學びつゝ過ぎ前途に光明をみとめさせて頂いたことは絶大な喜びである。もし入場させてもらへなかつたら今頃どうなつていたかと思ふと身の毛がよだつ。そして己が哀求し夢想せる道に精進できる樣にして下さつた先生の御好意がしみ〴〵と感じられる。

道場内の日々の生活について特に樂しいと思つたことはなかつたが兩先生のおかげだから發する何とも自分には說明し得ない氣もちのいゝものを感受して毎日を過して來た。この心がさま〴〵の苦しみに堪へさせたのだ。自分の感じた苦しみそれは心の小なる故に苦しいと思ふのであらうが、ともかくずいぶんいやなことがあつた。退場しようと思つたことも二度あつたが兩先生と寢食を共にする喜と誇を捨てるに忍びずついに今日に至つた。ところが妙なもので今になつてみると先に苦しいと思つたことが何でもないものになつてしまつた。つく〴〵自分の心の賴りなさが恥かしくなる。これではいけない、今後大いに氣を練つて小さなことにくよ〳〵しない人間にならねばならぬ。

修養上について無駄と思つたこと又必要と感じたこともあるがそれは他日信書で意見を述べたいと思ふ。その事ばかりでなく社會事業としてのこの機關の組織について一つの見解を立てゝ見たから一緒に述べたいと思ふ。自分は中分のないことをしていたゞいたが第二期生やその後の人々のために考へるのが第一期生のつとめのやうに思へる。自分の考は理想に走つてゐるかも知れぬが內務省がうしろ立であるから不可能事ではないと思つてゐる。

將來の覺悟は充分についてゐる。義理にも成功しなければ死にきれない、いかなる困難に逢ふとも初志をひるがへさず、必ず目的を達して見せる。自分の成功を欲するのは幸福の爲ばかりではない。三つのわけがある。冷たかつた奴等にふくしゆうしたいのだ。自分のやうな者を信じて下さつた人々の恩義にむくひたいのだ。生前不幸だつた母や母の生家の人々の墓を村で一番立派なものにしてやりたいのだ。この心がなぜもつと早く二十歳位の時おきてくれなかつたのだらう。五年前にやうやく氣がついたのだが長い間の習性でどうしても正業につけなかつた。

今先生のおかげで軌道にのせて頂くのだ。再び脫線してはならぬ、わき目もふらず進まう、しかもしんちように、あゝ一切は感謝だ。(尋小卒高崎勝作三十五歳)

註　高崎君は名古屋市外天白村松和花壇渡邊氏方に寄寓し養豚と果樹の栽培にいそしんでゐる、年來の希望に向つて邁進中で文中に述べられた意見を信書にして送つて來ない所を見ると日々多忙の事と察する、因に渡邊氏は筆者の緣邊のものなり。(渡邊指

導員）

○大阪府阿武野更生訓練所

感　想　記

（一）

十一月七日雨　二三日前より模様して居た雨は遂に今朝より降り出して來た、昨夜學科の時間に指導員殿より訓戒を受けたる事は自分に取つて當時第二班長として降下式中にありて、自ら國旗を捧持して居た者として、深く責任を感じて居る。此の指導員殿の御注意たるや現在の第一、第二班長だけの事で無く、今後幾度か交代する生徒全員が皆各自の不注意だと思ひ緊張を要する事だと思ふ。亦班長以外の者も指導員殿の命に依り統率中は同僚と思はずお互に自重し其の命に服す樣にしたいものだ。

自分は入所して以來國旗揭揚式の時「君ケ代」合唱を腹の底から出る力一ぱいの聲で合唱出來る樣になつた事は何より嬉しい。自分は小學校時代人前では改つて讀書すら聲を發し得ず擔任の先生より廣野は「雪隱淨瑠璃」で駄目だと言はれたものだ。

朝霧を破ぶる「君が代」は加茂の神社の境内を通して村中に響く！

この時今日も日本人として世の中に生れ出た自分の如何に幸福なる事かを心から喜び報恩の念が湧き出ます。（廣野貞一）

（二）

入所以來無事大過なく了へた事を喜ぶ。

今迄の放縱生活を清算して嚴格な訓練を受ける事此處に約五ケ月！初めは軍隊教育を受けた自分にも相當な苦勞だつたが今は氣持も晴々と更生への道を辿つて居る。そうして伸び行く春の若草の如く、自分も更生を斷然誓つて將來へ伸びんとしてゐる、放縱生活の代りに働き癖をつけた煙草代間食代それらの代に零細ながら貯金を初めた。まだ日數は經たないが口に出せない或る無限な大きい物を獲得した樣な氣がする。

又自己の缺點を悟る事を得たゞけでも「人間完成に近付いたのだ」と教へられた事が今分る！益々努力精進し今日も健康だつた事を喜びつゝ九時に寢につく（中村勇一）

○大阪府八尾更生訓練所

歸省について

此の榮ある訓練所に無事入所を許された自分の姿を見ると限りなき喜びを感じる、此の姿を、心を一日も早く父母兄弟に見て戴き又話を聞いて戴きたい念願が今日茲に達せられた否許されたのである。着物の着替へもそこ〳〵に列車中の人となつた自分、見よ車は走る身體は運ばれて行く、早く走れ、小供の心の如く列車の遲きを感じ歸鄕の喜びは態度に現はれ他乘客に笑はれはせなかつたかと思つた程であつた、二里近くの山道も淋しさは何のその、父母弟妹それに祖母此の自分を此の歸つて來た自分に又今頃どんなにして迎へてくれるであらう、十二時過ぎに棟木も下ると言ふ頃に一家も無き山中を一歩々々近づいて行つた、顫へる手で門の戸に手を掛け只今と言つた聲も夢中であつた。「誰れだ」父の聲、母の聲連發した「僕です」「正男が歸つた」嗄れた父母の聲に家中は「兄さんが歸つた」正男が歸つたと大騒ぎである、次々に現はれて來る懐しの父母兄弟。「將來は何になるか」と愛し子の手首を握りしめつゝ先づ發問したのは父であつた。此の父が此の母が朝な夕な指導員諸共に神前で感謝して居たのかと思ふと勿體ないといふ心が一杯で、其の神々しい御顏を正面から直視する事は出來なかつた。六十近くの父は何時の間に增したのか電燈の下乍らあり〳〵と見える白

毛、母も額に皺も増して見える淋し相な御姿、此れ以上此の時の自分の氣持は記する事は出來ない、唯逢えた喜び滿足否其の後は近頃父母の身體の樣子が心配になつて聞くのも恐しかつた事だけを記す。

溫い炬燵は妹が造つてくれた、僕の寢床は家中の者の集合所となつた、訓練所の話は次々と要求され七歳になる小さな妹は僕の話に夜中乍ら面白かつたのか一二と歩くまねをして笑はせた。就寢したのは朝の五時頃であるが八時には早起きた。父上と柿をとつたり山へ行つて松茸をとつた。晝には母の手製になる御馳走に舌鼓を打ち十二時五十分家内一同とそれに村の學校の女教員をして居る妹と受持の生徒三名に見送られ手荷物は弟の自轉車に積まして出發したのである。

私は決心致しました、今後は父母の爲め訓練を受け、父母の爲め生きんと、故に此度の歸宅により益々父母の愛を知り恩を感じ報恩による更生の意氣いやが上にも積るを知る。色々感想は限りなくあれども餘り紙數も多くなるので止める事に致します。(池田正男)

○大阪曉明館更生訓練所(大阪府委託)

(一) 歳末に際して

月日の經つは流水の如く我早や三十の坂を今寸時に越さんとす、實に心細き限りなり。孔子の言に三十過ぐれば只の人とか靜かに過去を追想し、將來を思ふ時天が地が呪はしい。浮ぶものは淋しい悲しい日の連續のみ思ひ出すも涙の種何をか綴らん。只一度でも良いから陽々たる春の境涯に暮し度い、人間らしい生活が望ましい、否斯かる微々たる慾望の外に大なる使命を天は與へた。身の爲、家の爲どうしても生涯には遂行しなければならん、怠けようとして怠けられない金が敵の世の中なる事を親が教へて呉れた。實際に泣いた泣かされた苦しい體驗があるどうしてもじつとしてはいられない。

本年も今年こそ〳〵の意氣込みのみに流れて終つた感じがする、今や瞬時に迫る新生の大地こそ踏み損はぬ樣心して強く深く正しくを標語となし、一貫して實行を期し更生を迪らん神に祈らん。

照憲皇太后十二德の御詠

白衣の衣の塵は拂へども
憂きは心の曇りなりけり

衣類や室内の淸掃はた易く何時でも出來る、然し心の曇は去る事難し人生は如何なる世相にも關はりなく一日々々磨いて行かん。(谷口榮喜)

(二) 年末所感

此の國家多事多端の年を送るに當り來し方を返り見て感ずる事いと深し。今や軍籍無くとも國民の中堅に當るべき時、身分かひ無き爲自由勞働者と成り居りし時、府の事業として勞働者更生の道を開かれし事をば深く嬉ぶものです、不肖も其の一員として今や半期三ヶ月を多難ながらも送り得たる事、此れ又先生初め當局者の厚き情けと善き教導の賜なりと感謝致す者です、今や訓練道中年を送り新しき年を迎へつゝ又皆樣のより善き指導を希望致し、本員又誠心誠意當所の本分を守り更生の實を擧げ得たいと覺悟を一層深く爲す者です、年の暮るゝに當り國家社會の多幸を祈り各訓練所の向上を願念致して越年の感想と致します。(坂下米治)

(三) 國民會館に於ける故武藤山治氏記念講演會の感想

宗教界の偉人とか大科學者の講演等と云ふものは、我々の樣に現實に惱む者には緣遠い未來の國の樣な話をやるのだ

らうと思つてゐたがその豫想は全然はづれて實に明朗な講演會であつた。佐藤博士の御話に我が國民の使命と云ふのがあつた。しかし建國の當初より定まつてゐると云ふ使命目的が何んであるかと云ふ肝心な點に就いて明言されなかつた。暗示的に言はれたことが何んとなく凡人の我等には物足りない感じを與へた。

本間先生は流石に苦勞人らしく理論よりも現實に卽した誰れにも解り易い、そして倦きることなき面白い、力强い訓へを話された、老いて益々旺んなるあの元氣自分を信ずることの强いあの意氣、誰れにも親しみ易いあの態度先生を見た時に總べての點に就いてまだ〳〵修養の餘地あるを痛感した、理論よりは何事も實行であると今更の如く考えさせられた。(永山重也)

○大阪市勞働訓練所

(一) 訓練所入所と私の覺悟

生存競爭の繁しき此の社會の一員として生活してゆくことは、誠に困難なる現在ではあるが、此の世界に指折らるゝ產業の大都大阪に長年在住して居りながら、技術學力資力なくも自己の修養力次第で紹介所の登錄働きより起上り、社會の一員として一人前の人間として生活出來ねばならぬ筈を、何時までも一定の職を持たずに夢の如き生活を送つて來たことは、今更乍ら自己の無氣力なりしことを遺憾に思つてゐる。然し今更過去の事は致し方ない只將來に向つて努力することあるのみと思つてゐる。

此の度我々のために新設された訓練所に幸入所許可され、市長閣下始め上司の方々の御訓示我々の進む道について所長殿、谷本、梅垣兩先生よりの丁寧な御教へ、又は御注意等誠に感激感謝してゐる次第である。恐らく終生二度と此のやうな事はないと思つてゐる。自分の考へでは自己更生は中々困難なことであつて若し自分等の如き者でも一定の職場でも與へられたならば、必ず自力更生致したいと決心して居る次第である。(藤森綾松)

(二) 入所以後の所感と今月の決心

「月日の經つのは水の流るゝ如し」とは珍腐な言葉ながら、吾等は入所以來、早くも三週間餘の尊い日時を送りました。今日其の過程を省みるとき、拙きながらも朝夕に於ける行事によつて、向上の芽生愈々切なるものがあります、殊に內にありては最も好きな、宗教的情調を加味されたる軍隊的修養生活であります。外に於ては懇切なる現場係員方の指導により、未知の仕事と修養方法も覺えられ、一種の力强さを感じます、大體に於て先月は宛も持病の如き齒痛に苦しめられ乍ら、訓練所の規律と作業場の仕事を覺え、慣れるのに努力してゐましたが、今月からは相當要領も習得したので、規律正しく、順應し斷じて外れざらん樣努力する決心です。

やがては應用動作、以て完全の域に達せんことを理想とする者であります。(田中瑞雲)

(三) 勞働奉仕感想

今日の淸掃奉仕は、每朝現場に仕事に行く途中に於ける奉仕とはまた違つて、國家の大祭日に奉仕したことは、餘程意義のあつた事と思ひます。特に社會部長殿を始め、課長、所長、先生方とそれ〴〵自ら等をもたれて一緒に奉仕に參加せられ、亦新聞社でも自分等の行爲に多大の關心をもたれ、活字で社會にお話して下さつた事は、非常に嬉しい事であり、訓練所の行事の一端として社會に打つた大ヒットの一つだつたと思ひます。稍々もすれば、なほざり勝な公衆道德の目醒めに、此の淸掃奉仕が役立つ行爲となれば滿足です。

尙等を持ち動かしながらこんな事を考へました。「公園の紙屑一つで格が落ち」と……これでも曲りなりの川柳だなあ――と思ひつゝやはり實際に掃除してみて始めて、一つの塵が、全體の美觀をどれ程損ねてゐるかゞハッキリ分りま

したので、同時に今後決して落さない事に注意せねばならぬと思ひました。又さしも廣い神社なり公園が、見る〳〵内に清められたのも、我々三十二名の團結の力でした。これから先もこの力を利用して、益々公德心の向上を計るべく、大衆に呼びかけたいものと思ひます。（渡部政男）

（四）心に映じた部長さん

秋晴の一日澄み渡つた大空に街々に、日の丸が飜る新嘗祭の佳き日、我等訓練生は意義ある一日を送るべく、谷本、梅垣兩先生に引率され、天滿宮、中の島豐國神社を參拜し、續いて清掃奉仕を致しましたが、その節我等と共に奉仕に加はられし、志賀社會部長の少しの誇らしさも無い姿が、今尙胸深く印象に殘つて居ります。部長さんには日頃御多忙にも不拘ず、折角の休日を市民のため、社會の爲と、自ら街頭に立つて、範を示し奉仕の念を心の奥深く植付け樣と、箒を片手に埃を浴びながら、默々の裡に街路樹の落葉をかき集めたり、溝掃除をしたりして居られましたが、その責任感の强い御心中をお察し申上ぐる時我知らず、感激せずに居られませんでした。

今や世の中は不況のため公德も人情も亂れて居ります部長さんの聲なく叫ばれた奉仕の一聲が、巨響となつて、市民の全部にきこえるやう、日頃先生より敎へられた奉仕を、至誠一貫を、我等は訓練生として、より以上に努めなければならないと强く感じました。省りみますれば此の間まで、自由勞働者か、登錄者かと、無智の人間の樣に輕侮の眼で、見てゐた人達に對して『私達は短日月訓練所にゐる間に、こんなにも自然に美しい人間らしい心に變りました』と、市中に出て奉仕する姿を見て戴けるやうになつた事を非常に心嬉しく思ふ次第です。今後共永久にこの精神を忘れぬ樣に、しつかりと心をひき緊めて、修養の園に這入りたいと存じます。

善良なる市民の一人となるために、

又志賀社會部長さんの御訓示の萬分の一に報ゆるためにも。（清原勝治）

（五）伊勢參宮感想文

汽車、電車と交通機關の發達した現代をよそに、徒歩にて當地より紀伊半島を縱走、道中三六里踏破を唯一人の落伍者をも出さず、至誠一貫を基に、五日間に亘る旅程内を豫定通り各宿舍では歡迎され、道中では事故皆無、萬事が何等の支障も來さず、順調に此の一大行事を斷行し得た事は、一は先生の前交渉なり、準備の御盡力なり御指導の宜敷を得た賜であり、又私等も激勵された力强い社會部長殿の御後援を得て「やりとげて御目に掛けねば」と決心して途についた意氣にありまして、無事に了へた此の行事は非常に痛快な事で一生を通じて忘れ得ぬ深い印象でした。

畝傍町長の御講話の中にあつた如く、「神地畝傍の地を踏まずして建國の大精神を語るを得ず」然り、亦「神都宇治山田の地を踏まずして、皇國の大精神を語るを得ず」とも云へます。私共は此の兩地を踏み得ました。神宮なり橿原神宮に參拜してみて始めて、實際に其の言葉の意味が味はれました。五十鈴川の清流にて、罪汚の多い身を清め、心を正して幾千年經たとも知れぬあの大樹の立並ぶ御參道を一歩々々と無音のまゝ、御神殿に近づく時、そして昔ながらのゆかしい御社の前に瞑目したとき何のために御參りしたかを考へ、祈願をこめた時はかたじけなさで胸が一杯でした。世界に誇る帝國の歷史が神宮から始り、是を中心に現代の國體を燦然と輝いて居る根本の事を考へたならば、現時のかまびすしい惡化思想、過激思想など起してはならず、又そんな思想をもつやうな心境になる筈がない樣に思ひました。又我等の守護神であり、國民敬神觀念の中心である神宮樣に御參拜したといふ事は、將來の私の誇るべき話題であり、自身今後の生活向上の上に大なる原動力となり、又現に修養の出來ない自分に箔が附いた樣な氣が致します。心持のゆるんだとき、何のため遠路徒歩にて御參拜したかといふ體驗を想ひ起し緊張せねばなりません。神宮、橿原神宮共に御神域

につきまして感じましたのは先日座談會でも御發言ありましたやうに慾を云へば、今少し神苑なり、外苑の地域を擴張しなほ御神木の大樹を植へ又電車バスの乘入が間近すぎ、人家特に土産物等賣る賑はしい町が、餘りに近くにありすぎるので、是等を撤し、今少し大自然を生かし、より以上森嚴味を增すやうな運動が一刻も早く實現する樣になればいゝがと祈ります。

最後に先般の參宮行事を故郷に詳しく便りしましたら、七十を過ぎた兩親は、以前放浪な生活を送つてゐた私の事ばかり氣に掛けて居りました折柄、神宮に御參拜した事を非常に喜んで呉れてゐる返事に接し、餘生少い兩親に、計らずも喜びを與へた事になり、不孝ばかり續けて來た身が今度のことで大きな孝行をした形にもなりました。淋しい事ながら、枯木に等しい老の身は何時折れるやも知れませんが、あの瞬間の緊張を續けて萬一兩親を送りし後の自分の心殘りを尠くしたいと感じました。

「一年の計は元旦にあり」とか、昭和十二年度の元旦をこんな意義深い行事の内に送つたことは、今年のスタートに於いて、是以上のよきスタートなく感激に滿ちて居ります。この嬉しさを忘れず精勵を續けてゆこうと思ひます。(波多野孝一)

○神奈川縣勞働訓練所

日誌の中より

(一)

二月十三日　金曜日　雨

一、朝から雨が降り續いて、全員休勞。

一、午前中は「建國祭行事を友に報ずる文」と題して、全員講堂に集つて書き綴る。各自それ〳〵十一日建國祭の愉快さを追憶しながら熱心に書いて居る。

一、午後は各班分割して、吾等の第一班は便所、風呂、玄關の整頓掃除。

一、津田先生は午前八時過に縣廳へ我々の爲、この雨の中を行かれた。先生には我々の爲いろ〳〵就職事などで奔走して戴いて居る。それを思ふと、益々しつかりとやらなければならないのだ。

一、十一日の夜、高山君が體の具合が惡いので柴草先生からお借りした體溫計を紛失してしまつた。今日の整頓日に改めて戸棚の隅々まで懸命に探したが、見當らない。何と云ふ申譯ない事をしてしまつた。お借りしてすぐにお返しすればよかつたのに、一夜机の上に置いたまゝ寢んだ故――、私達のまだ足らぬ所と深く心にとがめてたまらない。日頃より先生から、朝夕に言はれてゐる事なのに。私達いや私の不注意で紛失してしまつた。心からおわび申上げます。今後決してかような事のない樣につとめます。

一、夜、津田先生から就職の事に就て、いろ〳〵お話があり倉橋理事官からの御手紙まで聞かせて下さる。

一、濱野君は同情すべき人間であると思ふ。訓練所に入つたが、眞に更生が出來ずに、縣の方々樣や先生に御迷惑をかけ、その上まで今度金の事で手紙を寄こすとは、全く自分自身を知らない哀れな者であると思ふ。彼の爲、宿泊所と云ふ所がどんなに思れるか。誰れにでも宿泊所はだらしのない人や、ルンペンの集合所の樣に思はれてゐるではないか。さう云ふ事がなくても、宿泊所と云へば、人々は「あゝ宿泊所に泊つて居た人か」と云ふではないか。吾々の居た浦島の宿泊所には、竹内先生が朝夕に我々勞働者の父となり、善き指導者となつて、力となり勵まして居るのだ。朝は五時に起床させ、仕事のない人には仕事を與へ、貯金もさせてゐるのだ。その中に少々の惡い人が居るので、他の眞面目な方に迷惑をかけるのだ。

竹内先生はどんなに宿泊所から出て訓練所に入つた人々に御期待かけて居られるか。それを思ふと、その心があれば濱野君だつてあんな事をしないですんだでせう。きつと惡魔に魅入られたのだらうと思ひます。

今度竹内先生も濱野君に欺かれた事を、きつと怒り悲しんで居られると思ひます。それを思ふと、殘りし私達（近藤、天谷）は、竹内先生の今までの御厄介の萬分の一の御恩返しとしても、御期待を裏切らず、立派な人間にならなければならないのだ。（天谷庄吉）

（二）

二月二十六日　曇

(イ) 本班就勞者八名　病氣休勞者加藤君一名

(ロ) 當番――炊事、小林君、加藤君　浴場、高橋

(ハ) 感想――險惡な空模樣に明けたこの朝、恰度一年前の雪のこの朝を想ひ出させるに充分の朝であつた。一年、三六五日、想ひ出は廻つて新しくこの日を回想させた。

▽あれから、今日迄、社會には樣々な變轉が繰り返へされた。社會が狂はしい變轉を繰り返した反面に、その社會の一分子である僕達の身の上にも樣々な變轉が記錄された。僕はあの未曾有の事件のあつたあの雪の日を想ひだすと共に、過去の歷史の一頁として繰りこまれた私自身のあの頃から現在迄の足跡を想ひだす。魔の通つた樣な過去の姿に、惡感さへ感ずる私である。樣々な感情が交錯して、自分を身動きさへできない感情の底へ叩き落した。然し、「過去は既に捨てたのだ」。「生れ更つた俺は、この訓練所を今後生涯へのスタートとするのだ」。漸く自分の心をそこまで引きずりこんだ。苦しい惡感の中から脫出できるのだ。やつと浮び上ることができるのだ。救はれた樣な清々した氣持に立還れるのだ。雪を鮮血に染めた一年前の今日の想ひでは、私達にとつて更生の魂を築く强い鞭となり、原動力ともなる樣だ。

▽夜、滿洲移民に就て第四次農業移民として現地に活躍中の本縣二宮町出身の秋山さんが現地實際の狀態を御講演下すつた。加へて「行け滿洲へ」の滿洲移住協會製作の活動映寫會が催された。體驗から生れた實際談、銀幕に映る沃野千里――私達の疑問とされた點が氷解されて、彼地への憧れを一層增す許りだつた。

身は由比ヶ濱の波を聞きながら眠る私達の心は、勇氣勃々として、トラクターの廻轉する音響く北滿曠野の地にある樣に感ぜられる。理想鄕大東洋建設への第一步である農業移民として渡滿できる者に限りない羨望さへ湧いて來るのである。

絕ち切れない因襲道德――家族制度――に支配されて、希望をも斷念せねばならない私。移民の實感を聞き、沃野の滿洲の姿を目のあたりに見せつけられて、頭の中に胸の中に、激しい戰爭が卷き起されるのだ。苦しい鬪爭さへ繰り返されるのだ。

▽講演、活動映寫後、懇談會が催された。席上津田先生が「東方禮拜」に根據を置いての熱辯を振はれた。私は入所以來未だ曾て今晩程の先生の熱辯を、雄辯を聞いたことはなかつた。信念、理想の根底からの迸り出る、熱情を炊きつける樣な一言半句、皆私達の魂をゆすぶつた。「力は正義なり」「優勝劣敗」こうした西洋近代の指導精神を打破して、我が大御心を翼贊し奉るの指導精神を以て五族協和、大東洋建設の爲邁進せねばならぬと。先生の熱辯はあのまゝ消えて行く樣な輕い聲ではなかつた。私達の否九千萬國民の心臟の中へ吸ひ込まれて行く樣な力强い重い聲であつた。かうした先生の信念に依つて培はれる堅忍不拔の精神こそ我が大和魂の根源であり、大東洋建設の力强い國家的の叫

びであり、訓練所魂の權化であらう。私達は斯うして育くまれた更生の魂を何時如何なる所でも發揮できる樣、誓ふものである。（高橋義雄）

（三）

三月二十六日　晴天

噫々と溜息をもらした。我等訓練生最後の就勞日だ。東天紅に、彌生の花曇り、いさゝか寒さは感じる。だが絶好の就勞日和を我等の爲に惠んだ、感謝又感謝の中に最後の勤勞「訓練所生活」は終つた。奮闘努力、最後のベストをつくして働いた。片瀬鎌倉線工場現場に勤勞者としての花を咲かせた。列を組みて歸所。稻村ヶ崎に續く山々には櫻の花の七分咲き。我等の前途を幸あれと見送るの感がある。

體操も元氣に、國旗降納も津田先生の訓辭も何もかも訓練所生活の最後となるのかと思ふと、平日は先生の話も長いくどいなあと感じた事もあつたのに、今日ばかりはもの足りない氣がした。一言一句悲痛な氣持になつたのは自分ばかりではなかつたらう。話す先生、聞く一同皆心の何處かで泣いて居たでせう。

夕食も事なくすんだ。修了のうれしさでか、又別離の悲しさでか、食があまりすゝまないので、炊事當番が自分のウデを疑つてゐる。ウデに狂ひはないのだらう。胸一ぱいで食へないのだらう。

各班修了後の行動について對策を講じてゐる。出來得る事なら訓練所生活の樣な事をくりかへしたい事だ。

いよ／＼明日は修了式。共濟會も解散となつた。不運な同志四名の方々に規約に基き、基金分配の處分をした。

夜はふけて行く。だが訓練生の目は誰れも冴えて行くばかりだ。

先生は我等の爲に、皆に色紙を書いて下さる。自分は「稻村ヶ崎の富士の遠望」といふのをもらつた。「社會に出てから、辛い事につけ、面白い事につけ、有りし日の訓練生生活を振り返り、反省する樣に」と。

先生のこれまでの御恩に對し、何する事も出來ない自分達は、世に出て立派な人間となり、人の中の人と成る事を心に誓ひ、先生と共に茶話會を、いや最後の送別會を催す。

此の時十一時。明日の仕事もあればと打合せをして床につく。

明日は修了式。我々勤勞者の爲に、天氣晴れよと神に祈りつゝ筆を擱く。（水野莊太郎）

（四）

A君此の頃の僕の訓練所生活を一言にして言ふならば、實にそれは毎日の感謝の生活であることです。君國の有りがたさと此の事業への直接間接衝に當られた方々へしみ／＼感謝してゐる。

A君去る十七日は僕達には永久に忘れられない開所式が擧行された。長官閣下を首め、內務省からも、各市からも、その他學校及び地元の有志の方々が多數御臨席下された。僕等の感激と歡喜又思ふべしではないか。

A君僕は此の頃つく／＼そう思つてゐるね。こう言つては君に失禮だが、所謂お役人と言ふものは極めて事務的な冷やかなものだと今まで內心で考へてゐたのだが、入所以來の縣の方々のなさることは、勿論然ることではあるが、殊に公務繁雜而も年末を前にしてその多忙は局外者の僕にさへ想像出來る此の頃、何に彼と親の樣な親切さで御盡瘁下された涙ぐましい努力、僕はだまつて頭の下るを覺えたね。

A君。僕はその時ふつと親分子分の關係を思ひ出したね。胸から胸へ心から心へ燃える樣に流れてゐるあの恩義と義理、そしてそれがためには地位も、名譽も生命も芥の如く捨て顧みなかつた奧ゆかしさ、現在の僕等のは恰度それではないでせうか。これまで度々君とは話した事だが、工場にせよ、露天勞働者にせよ、使ふものと、使はれるものとの關

係は水の様に冷い現在ではないか、只一日の賃金さへ拂へば、それだけで働くものを機械或は道具に思つてゐるし、使はれるものはどうでも時間さへ過せばそれでよいのだと言ふ氣持でゐるのではないでせうか、只その間連絡を保つてゐるものは賃金だけと思へば情ない世相ではないか。だが僕等のはどうです、入所中の教育は勿論退所後の就職、就職後の責任さへ引受け、而もそれ等の凡ては情に燃えて纒綿としてゐるではないか。これが感謝せずにはゐられ樣か。そして是れに熔け込まずにゐられ樣か。これこそ昭和の親分子分でなくて何んであらう。

是が社會の大事業でなくて何んであらう。これが喜びでないと誰が言ひ得やう。此の喜びの中に第一番に抱擁されたのは僕等です。最後にもう一つ君に知らせて僕の感激を分ちたいと思ふ。それは僕等は立派な先生を頂いてゐると言ふことです。全く御一身の總てを犧牲にして本當の親の樣に僕等のために祈り又御導き下されてゐる。僕等はこれまでのだらしない生活の惰性から日常隨分と先生をお困りさせる樣な事許り澤山あるのだが、先生は身をもつて僕等をお教へしてくれてゐる。默々たる勞働、名もない勤勞、之を樂しまんとする氣持が少しでも漸く僕の心に萠え出したのも偏へに先生の賜だと靜かに省みて有難さに涙してゐる。古諺に「人は己れを知るものゝために死す」とか、願て僕等の歩み方ともなつてゐる。以上は僕の此頃の心境の大體です。怠け者の僕が兎に角更生の意氣で努力する樣になつた事を喜んで貰ひたい。(太田健夫)

(五)

砂搗き作業を體驗して、連日の烈しい作業で全體が針で刺される程痛く從つて歩行すらも困難を感ずる位、とても就勞など覺束ないと思つたけれど、今日は神精力の力で闘ひ拔く決心を以て勇躍開始したが、身體の障りには如何ともする事が出來ず、斷念しようとした刹那ふと勤務誓願中の「天將に大任を是の人に降さんとするや、必ず先ず其の心志を苦しめ、其の筋骨を勞し」云々を思ひ出し、幸ひこの名言によつて甦るか否か、運命を天に委せて體力と精神力の續く限り頑張つて見ようと云ふ勇猛心と試練心が起り、遮二無二猛烈に名言を幾度となく繰返し〳〵とう〳〵作業を全ふした。其の時の悅びは今でも夢の樣に覺えて居る。健全なる精神力の恐しさを始めて體驗した。

危險作業トロ押しを寡默して上を見れば崩れんとする數十丈の崖石、見下せば荒狂ふ怒濤、この中を何回となく崖石運搬の作業こそ實に死を堵しての覺悟を要する難業だつた。思ひ起すこの地は新田義貞が勤王の若人を引具して北條一族を殲滅した足跡の俤を留むる。それに感激してとみに「勤勞以て大御心に報ひまつるべし」の訓練七則の强固な勇猛心を振動させた。至誠神に通じてか一人の負傷者もなく、盛大なる開所式に參列するの光榮に浴し得たる事を先生と共に悅んだ。たしかにこれは敬神力と健全なる精神力との結合が然らしめたもの故、常に心魂に鞭ち伸張すべき事と思つた。ある朝先生は一同に向つて「諸君の生命は天より授かつたのだ天に返せ。生れて來ないと思へばよい。今日はこれを忘れずに不平を云はず、勤勞に勵め」と訓示した。

其の當時は最も危險性の多いトロ押し作業だつたので生徒間には火の燃ゆるが如き不平の極に達し剩へ退所者さへも續出する有樣だつた。だから反感は積るばかりだつた。しかし先生は口ではあゝ云ふものゝ次の朝はこうだ。生徒が寢靜まつて居る四時頃起床して、あの寒空に冷水を幾度となく被つて、どうか生徒には一寸の傷も負はせぬ樣、神佛に祈願を籠め(現在も同じ)身を以て生徒の先に立ち聞くだに戰慄するトロ押し作業に獅子奮迅の勢ひで敢行され、目は窪み、頰は落ち、見る蔭もなき哀れな姿と化した。この風體を見詰めた生徒達は初めて先生の意中を推察し、感激の高鳴りを覺え、よしあの崖石に碎かれ身命を捨つるとも、報恩の爲め、更生の爲め不撓の精神を以て勤勞報國に當るべしと考へ、こゝに不平を斷絶し先生の教訓が一つ〳〵血となり肉となつていよ〳〵更生の志氣が燃え上つた。願ればあんな

艱苦にも克く堪えて、斯る盛事に列する事の出來たのも日頃先生の教訓が然らしめた事と有り難く感謝と悅びに滿ちたのです。自分が最も強く刺戟され感化されたのは御製、道歌、所歌であります。一度腹の中より朗詠すれば其の歌の中へ體が吸ひ込まれて行く樣な氣がする。そして在來何年も抱いて居つた惡風が一つ〳〵拔けて行く樣に思はれた。日常必ず心に雲がかゝつた時は只々日常生活は申す迄もなく勤勞の上にも限り無く悅びと感謝の氣分が腹の奥から湧き出して來て居る。（開所式當日　松原秀）

（六）北滿だより

拜啓　皆樣とお別れして早一週間餘、二十六日（三月）彌榮村へ着きました。その後はお變りありませんか？私は丈夫です、當地へつきますと訓練所がすぐだと思つたのです。所が訓練所は彌榮村より四里後方の山奥です、こゝは晝間早く通らないと危險なので、その日は宿屋へ宿つて次の日朝早く出發し十時には訓練所へ着きました。

するとすぐその日から銃を取つての匪賊の來襲へと備へたのです。もう匪賊は盛に野銃を打つてゐます、併し僕等の打つ彈丸の命中率がよいのかすぐ退却して行きました。

一と息つく――その面白さ愉快さはとうてい內地の人には味へない事です。

男として生れて來たのにこんな愉快な事が出來ない內地の人を可哀さうだと思つてゐます。

銃を肩に四頭の馬に引かせて走る馬車に乘りながら働いて居ります。

今は雪がとけて來て水で一杯です。空低く雉の群がとんで行きます。それに向つて銃を打つと一羽、二羽おちるのが又愉快です。

先生より皆樣へよろしくお願ひ申します。（里見重隆）

○橫濱市勞働訓練道場

（一）

今日も私は先生から命ぜられたにも拘はらずずるけてしまひました惡い事と心に烈しく責められながら。惡い事をしたと思ひながら先生にそれを注意されるともう反撥的な氣持になつてゐる自身を思ふ時、自分ながら悲しくなります。

こんな氣持では駄目だ、どうかしてたゝき直したい、それを幾度となく心に契ひながら今日に至るも未だ改らない自分を思ふと、たまらなくなさけなく思ひます。

先生も私の樣な意志力の弱い人間を第一回の卒業生として出すについては、暗い氣持がする事と思ひます。

私は只、惡魔と生命がけで格闘してそれを征服したいと思つてゐます。

（二）

今後の生活の方針としては基礎を勤儉力行に置き世間の毀與褒貶に因はれず、微力ながら幾分でも社會の奉仕に努めたいと思ふものである。

（三）

私は餘りにも「吾何を爲すべきか」の必要に圍繞されてゐる……だのに、ともすれば、それを忘れがちになる。私は爲すべきことの必要に、その負債に責め苛まれ通しだ、何處から整理したらいゝか分らない私は、それを必ず良心の下に成し遂げねばならない。私の生涯荊棘で一ぱいなのは覺悟だ。

だが私は此の苦難の道を行くことが今では與へられた試練であると考へる樣になつてゐる。

利己的な要求が、私の魂のうちに眞黑く覆ひかゝつてくるのを感じて私は慄然とする、その度毎に私は「吾を憐み給

へ、そして吾をして、もつと〳〵愛に徹した行動を大膽に爲す心を與へ給へ」と祈るのだ。

私は餘りにも惡の誘惑の手にかゝり易い。殊に感情的に搔立てられる時前後の考もなく雷動する缺點が多分にある。私は醜い心だ、身だ、毛蟲だと絶望することも往々にあるのだ、だが最後に行つて聖靈の呼びかけるのを意識し、此の苦しみに耐えてゆくこと、此の缺點を征服してゆく生への悅びを持つ。

(四)

今までは酒を飲んで、ずいぶん失敗して居りますから、これから絶對酒は飲まぬ樣にしてゆきます、就職後は人のいやがる仕事を自分で、このんでやつてゆく樣にしたいと思つてゐます。

(五)

愈六ヶ月の道場生活を了へ實社會に足を踏み入れる時が來た。初めの內は永いと思つてゐたが過ぎ去つて了つては何でもない。今道場を出て會社に勤務して一定の收入で生活してゆくのは我々の一番の近道だ。そして老後になにか資本を得て商道に入りたいと考へてゐる。

一生人に使はれては居ないと云ふのは自分の負けじ魂だ、そして進んでは社會事業に手をつけ、今迄社會の世話になつたことを、この御禮をしたいと思つてゐる。

○名古屋市自彊會道場

感想文

(一)

運河に沿ひて孤立せる建物こそは我等の根幹を成す處のホームで有る。寒風はだへにこたへんとする神無月、此に三十二名の新らしき生活が初められたのである。

靜寂なる夜の帳りまだ明けやらぬ頃、霜を踏み曉の明星を頂き、時に朝霧込める中に床を離れ今日も又課程の第一歩を踏み出しまだ宵のラヂオが演藝の時間中に就寢して終る月日は流れ、此に單調なる生活を送る事百幾十日間、其の間一見平凡に見ゆる此の朝夕規律正しき生活は、隨分と苦痛と倦怠と我儘を感じ、理性と癇癖との變に輻輳した感情に支配された事も有つた。其の都度如何なる情實——不平——不滿も一切を捨てゝ反省の時だと思へば失業勞働者の群に投じて過去幾年間の生活を精算の時は今だ。此の機會を逸して何時再び更生のチャンスに惠まれる事があらうぞ(中略)

我々道場生が(1)貯蓄精神の發奮(2)勤勞精神の向上(3)浪費的習癖の矯正(4)忍從生活の涵養(5)宗教心の覺醒(6)健康力の旺盛等々求むるも容易に得られざる貴重なる者をしつかりと掴む事の出來た事を深く感謝せなければならぬと思ひます。幸にして修了に當り多數の勞働者中より選拔された自己を思ふ時聖恩の有難さに感激し產業開發に全力をあげて盡力し此の施設の目的を充分に理解して趣旨に添ふべくベストを盡し實社會に力强き第一歩をスタートする考へです。

(二)

夢の樣に過ぎし五月間は樂しかつた思出の五月間であつた、親の無い僕は淋しい心の置場もなく廣い世間に彷徨してゐた憐れな人間であつた。然るに自彊會に入つてからは丸で變つた人間になつた樣な氣がする。淋しさもなくなつて了つた(中略)

無事に修業する日が眞近になつた此の五月間の修業を忘れずに就職した曉も此の精神で働くつもりです。これも社會部長殿初め指導員殿の御蔭と心から感謝して居ります。

(三)

私事幸運にして內務省並に縣市御後援になりまして當道場へ入門致しました事は私の心に一生わすれえざる印象となりました。特に精神的に受けました事は多大であります。第一に感じました事は心の平和ですべて自我をすてる事によつて何事も解決致す事と思ひました(中略)

最早數日後に目出度卒業致し愈々活社會へ出る事になりましたが此の心持を忘れず社會人と共に誠を以つてお務め致したく深く心に感じて居る次第であります。

(四)

(前略)最初の內は慣れざる故に堅苦しく思ひしが日を經るに從ひお互の氣風も解り愉快なる生活でありました。今後社會に出で思出深き感銘となりました。既に大部分の就職も決定し退場後の心配なく今後大いに勤勉努力御指導の期待に背かざる樣心に誓ふ次第であります。

(五)

道場生活は過去の團體生活に比し非常に朗であつた。唯感謝に堪へぬのは吾々道場生活の間に指導員各位の蔭德であります。

親身も及ばぬ又懇切なる指導の賜と唯々感謝に堪へません。願くば指導員各位の御健康を祈る次第です。

(六)

先日風呂で身體の重量をはかつたところ以前より目方が四瓩增してゐました私としては最高記錄です。

(七)

道場での規律的な生活のおかげと喜んでゐます。

私も內務省、縣、市、指導員皆々樣の御世話樣になり五ヶ月間を無事に働かして貰ひ卒業後は家を借り、社會人と交際致し道場生活を行末忘れず眞面目に働きます。

(八)

(前略)我が知らざりし社會の世想を知りしを唯一の賜物として今後の波荒き人生を乘り切らん覺悟である。終りに望み親兄姉の如き慈愛と無言の訓育に教へられし道場長殿初め指導員諸氏に深甚の敬意と御幸福を祈り筆を止む。

(九)

(前略)先年十月自彊會道場に入場致し道場長始め指導員の御力により何の不自由無く又就職の心配も無く退場出來る事をよろこんでゐます。(後略)

(一〇)

(前略)一見平凡に見えてその實平凡にあらざる百五十日間の生活が將來の自己生活に多大なる貢獻した事は云ふに及ばず對社會に處するにも絕大なる指針となるものでなくてはならなかつた。指導員諸氏の熱心に對してもさうならなくてはならなかつた。筆舌に現はし得ない魂と魂との接觸であつた。(後略)

(二)

(前略)思ひ出せば入場前の生活は餘りにも不規則な生活でしたそのぬかるみの中から正道へ導ひて下さつた皆樣方には海山千尋の恩を賜り何一つ御恩返し出來ざるまゝ御別れしなければならないが又何時か御恩返しの出來る時もあると思ふ。又御恩返しの出來る身になりたいと僕は覺悟致して居ります。

(三)

（前略）五ヶ月の間諸兄に或は指導員の方々に導かれつゝやつと皆様と一諸に此の道場を卒業させて戴くと云ふことは實に私としては誇りと思つて居ります。（後略）

（三）

（前略）私は入場間際は多少不滿不足の點もありましたが道場長始め專門家の有益なる精神修養講座を聽き日一日と不滿不足は遠ざかり現在ではどうやら自發的に精神修養の出來る樣になつた事は社會部及道場職員の御方の御靈力に依る事と深く感謝する次第であります。

就職後は家內一同呼寄せ如何なる困難あるとも僅か五ヶ月の修養とは言へ道場指針五誡（禮儀、規律、淸潔、忍耐、勤勉）を根本として一生終る考であります。（後略）

○福岡縣勞働訓練所

感想記

（一）

訓練所生活も本日限り彼の昨年十月入所した日を思ひ出せば昨日の樣な氣もする、訓練生活五ヶ月間想へば唯一場の夢とも云へやう然し其處に體驗した微細な社會學は人生修業最高至上のものである「渡る世間に鬼はない」の諺の如く後藤先生、福田先生の御指導の御恩海よりも深く山よりも高い新しい職場に於てこの尊き御恩の萬分の一にも應へようと思へば不思議な御緣でもあつた。

人生道中にはどうしても渡らねばならぬ苦しみの川がある。この苦勞の川を男性的に勇敢に訓練精神を以て橫切るそして最後に月桂冠を得る朝夕神前の行事合掌の食事彼の尊き純眞な心の姿は何時迄も〳〵この世に在る限り片時も忘る事なく懸命に勵まう。

嗚呼本日の修了式も一抹の淋しさを感ずると同時に又惠まれたる幸福な自分の姿は實に喜ばしくもある最後に當り兩先生の御健康と訓練生諸君の幸福とを祈り上げる次第である。

（二）

春やまさに至らんと餘寒身に泌み晴雨交る〳〵來りて今年に入つてから何と天候の惡い事でせう、晴るゝと思へば曇り又降り出すと云つた具合陽光の洩れ來る處駘蕩の地遠からじの感が匂ふ樣に忍び來る樣な氣持がいたします。

先生と寢食を同ふし朝に夕に潔き祈の生活を續け陰に陽に御鞭撻と御激勵を辱ふし御訓育下されし段只管に感謝と御厚意に報ひんものと惠まぬ我身に惠まれし現在の境遇を深く感銘し五ヶ月間の聖き戰の連鎖として亦生涯の記念すべき更生のスタートとして晨に黎明を迎へ夕に無事の身を省み身を忘れ家を去り只一筋道に社會の爲御國の爲と吾等の更生の爲に獻身的御奮鬪下されし先生の御恩に對し御宏恩に答へんものと職務報國の大旌を揭げ盡誠なる生活戰線を展開し勉勵致して居ります。

以來私もお蔭で無事に勤務いたし大部仕事に慣れて愉快に業務に邁進して居ります故御安心下さい。日月容赦なく時を過し往時の感激の勞働訓練一時代を劃し不滅不亡の人生職戰の基礎思ひを新に追懷して唯無量の感在り炎ゆる樣な熱と意氣身魂より迸り出る眞愛の叫び冷徹心を掴み精神を透して皇國の尊嚴と信仰の力を養成し國體の骨となり柱となつて又則ち眼目となる有爲の人物を造らんと粉骨碎身奉公の誠を盡す偉なる哉聖戰之に過るなし。

生れ出でし身玆に大任に着く此の重責果す可く努力を續く唯修養此の後に務め背かざる樣副はざらん事はこれ務む。

先生つまらぬ事を書いて惡からず此の後も御指導の程を。恩師の御氣嫌相伺ひ旁々此の頃の惡天候に際して充分に御身

愛の程を相願ひます。

三　指導員所感

勞働者更生訓練道場創設後の三ケ月

東京市江戸川勞働修錬道場
東京市囑託　岡田正治

『職業紹介』編輯當事者より當道場の田口先生に失業者更生佳話事例の原稿を求められたが昨年十二月一日開所したばかりの道場に於て目下專心修練途上にある入所者の更生佳話、其れに當嵌まるかどうか知らないが從來の放漫なりし彼等の生活より蟬脫して規律正しい生活樣式に轉向精進しつゝある事、其實況を報告的に羅列した丈けでも、佳話としての價値充分と思ひ玆に筆を執つた次第である。

昨年九月音羽護國寺に於ける內務省主催更生訓練指導員講習會席上、內務省社會局安積事務官より、社會局の會議を經ない私案としての指導方針、大要を

一、更生訓練は何を目的とするか
二、更生訓練は如何に組織せらるゝか
三、更生訓練生活の諸方法に於ける大道要素
四、訓練指導後の生活指導
五、指導者に對する希望
六、結　言

の六項目に涉りて詳細なる講話の中吾々指導の任に當る者の廣く活用すべき點は

一、更生訓練は何を目的とするか、の中に、失業者更生は彼等の爲ばかりではない自分等のためでもある、寧ろ全人的救濟であつて失業を救ふよりも失心を救ふのである、卽ち事件救濟に滿足しないで人共れ自身の救濟專門尊重僻が共通である點と亦勞働者に自覺を促す場合、國民としての自覺よりも靈光を持つた人間としての立場を自覺せしめ、未見の我を發見せしめ、人間としての自覺と國民としての自覺とを渾然一體となし、人間としての自尊心を高めさすこと の點で、更生訓練究極の目的は個々の人格的な持味を充分發揮せしめる事が主である、

五、指導員に對する希望

(一)人は皆自ら道を求める求道者である。吾々お互は彼等を指導するばかりでなく、自分も一個の求道者であれ。

(二)教育者としての權威を持つて更生指導員としての人格を自信して嚴然として進み、徒らに表面を糊塗せんがため、役所乃至長上に阿るな、亦收容者の御機嫌も取るな。

(三)人間に對する徹底的尊重の念を持て、語を換へて申すなれば人間禮讃を忘るゝな。

(四)後からも迎へる心で失敗した時も喜んで迎へる丈けの氣宇が必要。

以上二項目に盛り込まれた指導精神が吾々の尤も學ぶべき所の指針であつて、直接監督の立場にある內務省社會局の幹部から非公式ながらも斯る力强い聲を聞かさるゝ事は、今後の更生訓練に對する一大光明でなければならぬ。殊に徒らに表面を糊塗せんが爲め、役所乃至長上に阿るな、の一言は從來の役所型を更生訓練事業を通じて打破したる金言である。從來の失業者救濟事業と云ふものは、救濟の外形で裝甲した狹隘なる殼の中で動脈の硬化しかけた社會政策家が

近代勞働者の腐敗を一様に嘆息してデッチあげた十年一日の如き退屈な物的救濟ばかりであつて、精神的に飛躍せしむべき何等の方針なく、もしも其被救濟者を精神的指導せんとし、或は其勞働者に自ら飛躍的進路を求めんとする者あれば、彼等は其翌日から最早官公吏でもなく被救濟者でもなくなつて終ふのであつた。だからこそ徒らに表面を糊塗して其の空虛を包み隱さうとして煉瓦とシツクヒのかたまりに立籠り、そして勞働者も其寡圍氣の中でヤドカリの様に何の向上心もなく自分の殼の狹苦しさにむせて咳をして居た。

然し時代は常に其進路を持つてゐると共に、勞働者も常に其進路を求めるのに汲々としてゐる、生物學の方で云ふ「向性（トロピスム）」である、ジエーク、ルーブの話に、即ち海膽の幼蟲の泳いでゐる其中に食鹽水の數滴を注ぐと、彼等は直ちに方向をかへて明るい方に泳いで行くのだそうだ、即ちそれを名づけて「向日性（ヘリオトロピスム）」と云ふのだそうである、人間の大きな集團の一角に數滴の金を注いだ時に群集の動いて行く方向は即ち金の方だ、之れを名づけて「向金性（クリストロピスム）」といふのだそうだと、現代の勞働者にも矢心救濟のための力强い數滴の指導劑を注いでやつたならば即ち其進み行く方向は、海膽の食鹽水の如く、人間集團に金を注いだ如く忽ち個々の人格的な向性を發見して進む事は必然である。

誰か向性を變更して呉れる人はゐないか。

誰か食鹽水を注いで呉れる人はゐないか。

と絶へず要望してゐたのである。其處に今回の全國十三ケ所に設立された、修練道場又は更生訓練所の持つ大きな使命と意義がある。

地方の先覺者達が「自力更生」「滿洲移民」を目的とする、農民道場訓練所を早くより創立して學ぶべき實績を擧げてゐるが、今回の都市のそれとは目的に共通點は認めるが、農村の純眞なる青年と都市の勞働者を對象して見る時其處に

訓練上の苦心の差は到底比較にならぬものが有るのではないか。

由來都市の勞働紹介所を職場とする者は思想的にも精神的にも非常に歪められて居るそして人間に尤も大切なる勤勞の精神を忘れて絶對的他力本願である、其日々々に紹介所より紹介された時は働いても働かなくとも、所定の賃銀を得られると云ふ一種の共通觀念を持つて居る、之が精神的缺陷である、思想的には往年燎原の火の如き勢で捲き起つた勞働運動の餘燼尙ほ冷めやらず、甚だしく鬪爭的反抗的思想を藏してゐる、都市に於ける社會施設の完備の結果は下層階級、特に勞働階級には極端なる他力本願の念を助長して居る點は尠くない。

前述の様な環境にある者の中より、各紹介所長が嚴選の結果銓衡入所せしめた者でも、尙多分に其の共通思想を持つて居る者の多いのは如何ともなし難い事實であつた。

吾等指導の任に當るものは先づ更生修練の第一歩として託されたる勞働者の持つ此思想此精神を如何なる强行手段に訴へても匡正しなければならぬ責務がある、入所第一日に彼等に求めたる全部は童心に歸れの五文字に盡きた、俗界を離れ神聖なる道場に於て社會の凡ゆる交渉と絶緣して一路更生に邁往精進する以上は、舊來の思想精神娛樂趣味一切を放擲して、眞の丸裸となつて心の奥底の邪惡空想を洗ひ落し、生れた儘の清淨無垢の體に還元せしめなければならぬ。

そして彼等の一番苦痛であらう所の煙草、酒と外出の絶對禁止を斷行せしめた、何が辛いと云つても酒、煙草の禁止は彼等には堪へ難い苦痛である、泡盛、ブランと安くて强い種類の酒ばかり飲んでゐた者より酒精分を除去する事は、恰も河童を陸に引摺りあげるのと同樣であるが、是れ有るがため大部分の勞働者は更生飛躍し得ないのである、勞働者と酒、其毒素を取除く事に依りて更生し得るのである、最初は非常に苦痛らしく數日を經過すると、丸で失神狀態にて

フラ〳〵する者の續出にて實に見るに忍びざる輩もあつたが、叩き直すには人情味は禁物である。心を鬼にして決行しなければならぬ。指導員一同はあらゆる場合に備へて固い決意を以て臨んだが、其點に就ては一人の違反者もなく誓約を破るものもなく順調に進んだ、亦食物の點でも最初の中は餘程苦しかつたらしい、何にしろ江戸ッ子は宵越しの金は持たぬ、其日の金は全部飲食に費ひ果してそれに對する收支相償はぬ者がある程にて、毎年行はれる地方移動勞働にも東京の勞働者の辛棒できない點は食物にあつた、にも拘はらず地方の飯場よりも尙お話にならない程の粗食、麥飯に粗茶を强いるのだから其れに馴れる迄は相當苦痛であつたに違ひない、其難關も突破して昨今の彼等はすつかり生れ更つた樣で、見るからに頑强の度を加へ、以前は刺戟の多い酒を飲み食物も金の有る時は暴飲暴食、金のない時は一日位は平氣で無食で暮したから、其結果顏の皮はたるんで青白く入所當時は亡者（精力的）の樣な者もあつたが、入所後酒を絶ち食物も粗食ながら滋養本位に定食するため、顏色も好く皮も引締り隆々たる體軀となり「健全なる精神は健康なる體內に宿る」之が勞働する者に取つては最大の更生と云はなければならぬ。

それから實務勞働方面では、最初は純失業救濟的な勞働生活より、統制强化されたる勞働に轉向した結果一部分の者には餘程苦痛を感じたらしいが、近頃では同じ事業でも道路の樣な單純なる仕事ではいけない、眞實な技術を練磨するには下水工事の樣な骨の折れる所にて修練するに非ざれば、卒業後自分達が困るからと自發的勞働强化を要請せられ、此の所其熱意に於て指導者の方が押され氣味で、最初よりの就勞現場に義理もあり、車馬賃も往復三十四錢を要し經濟的の犧牲は大きいが、其熱意に動かされて、下水工事に轉所して一意技術の向上と體力の養成にいそしんでゐる狀態にて、此點も非常に好成績で大いに自慢してよいと思ふ。

此處に一番困難な精神的訓練はどうかと云ふと、彼等が終日就勞する職場は卽ち道場の延長であり勞働より歸り種々なる國民的行事の間に織り込まれた科目に

修養講座、公民講座、宗教講座、技術講座、作文、習字、詩吟、自習、娛樂等は皆精神的訓練の重要なる役割を持つてゐる。

就中感想文に到つては、修練生各自の個性を如實に表現して訓練上の好資料を提供して吳れ、亦習字の「晴耕雨讀」の四文字には燃へ上る樣な意氣を示してゐる、尙新年俳句會には宗匠跣足の名句もある、句題　初日　初夢　門松に對して秀逸なる二、三を列記すれば

初日の出薄の波も靜かなる
初夢に故鄕の父母の笑顏かな
道場生希望に燃ゆる初日の出
初夢や喩の母は若かりし
カドマツヤアケテカナイニオメデトウ

修養講座の時間に彼等の修練終了後活躍すべき希望を問ふて「修練生よ何處へ行く」の題にて各自の進むべき途を尋ねたる所

滿洲へは希望者　二十名
其他民間會社工場　元所屬紹介所復歸

等であつた。其後で試みに

「政治家よ何處へ行く」と云ふ題を出せば「刑務所へ」と答へ、筆者の尤も尊敬する何某著「國民に訴ふ」の書物に就

いて感想を聞けば「國民は訴ふ」と云ふ天才もあつた、而しそれは強ち答案者を責める譯にも行かぬ、現代の社會狀勢が彼等の頭にも深刻に反映して居る結果ではないか、入所以來二ケ月を修養した結果は、斯る極端なる思想の片鱗をも留めて居ない。

そして毎朝勇しく正門を出で行く時聲高らかに歌ひ行進する道場歌。

(一) 旭輝く葛飾に　希望の光り身に享けて
　　竿頭仰ぐ紅白に　天地の正氣鍾りて
　　積むや修練の道場に　開くや萬朶の大和魂
(二) 筑波颯の劍風　試練の前に音もなく
　　土に親しむ熱汗も　尊き努力の珠となり
　　吾等の培ふ精神は　勤勞護國の礎ぞ
(三) 形は影に常に沿ふ　勵まばやがて酬ひられ
　　聲に答ふるこだまあり　至誠に通ずる大道あり
　　燃ゆる更生の意氣あらば　社會の荒波何かせん
(四) 曇る人生に日が暮れて　闇に求めん聲すれば
　　磨きし月日は淺く共　活路を照らす白玉の
　　光を投げんほのぼのと　帝都の空の東より
　　帝都の空の東より

其後姿を見送る時に何か胸元に込みあげて來る熱い物を感じない譯には行かない。

其れにも增して指導者を感激させた事は、新聞紙上でも報道された通り、修練生一同が北野道場長を敬慕する餘り、師弟愛の結晶として、月々支給される零細なる小遣錢の中より醵金して、第一回道場生一同が永遠に報恩の誠を致さんが爲め、道場長の肖像畫を今回新築されたる講堂に掲げ、朝夕更生の誓を堅く結んで居る等は特筆に價する事である。

以上書いた樣な概要では「更生佳話」として受け容れらるゝかどうか解らないが、五十名の生徒個々の更生狀態を一々列記する事は困難で大體入所者六十名の中から篩ひ落されたる數名を除いては、內務省及東京市が望んでゐる樣な更生の目的に進みつゝある事は斷言できる。

斯くして螢雪の功を積んで勇躍滿蒙の野に亦多難なるべき社會の活舞臺に巣立して行く、彼等の前途を祝福して送り出すべき日は刻々迫りつゝある、希望に燃る教子の前途、其れは勿論吾等に取つても忘れられない嬉しい日には違いないが、昨年九月十七日音羽護國寺の講習會解散の日、あの月光殿に於て、倉橋道場長、福島理事官、新國主任、尾形講師、等々互ひの奮闘を約して訣別の握手を交した瞬間、僅か一週間の短時日ではあつたが起居を共にした、九府縣市から派遣されたる同僚と顏も上げ得ず聲を放つて泣別れた劇的な情景を思ひ浮べては、數ケ月間手鹽に掛けた一同と多幸なるべき前途に相應はしい雄々しい別れが出來るだらうか、人情を超越して不吉な涙を見せずに別れられるだらうか、運命の支配が自分の自由になるならば其日一日丈けは女々しい願ひかも知れぬが、此嬉し涙と惜別の涙を見せずに濟む樣な配劑を受ける譯には行かぬものか、腹の底を割つて白狀すると此日一日病氣で蒲團を頭から冠つて其中で思ふ存分どつちともつかぬ涙を流したい、最後に玆に尤も著しい更生振りを見せ、其前身を知る程の人に驚異の眼をみはらせた一人がある、其れは餘人ではないペンを走らせて居る自分である、前に述べた安積講師の「人を指導するばかりでなく自分も一個の求道者であれ」の一句、其通りであつた。苟くも人を教育せんとする者は其八割迄は自らを教育せねばな

らぬ、而して人に施すべき餘裕は其二割位に過ぎないであらう、人生は死ぬ迄の勉强、僅かに中學程度にも達しない學歷、昨日迄は修練生同樣一介の登錄勞働者であつた自分、選ばれて地位を異にしたとは云ひ條、大學に專門學校に中學卒業と優れたる學歷を有する道場生を向ふに廻しての指導員、並大概の發奮や勉强では勤まる筈がない、長上同僚は全部大學出の學士樣ばかりである、過ぎ去りし跡を振返つて見ても仕方がないが自分は學問とは凡そ緣の遠い方で偶に書物を讀む時は、國定忠治か次郎長傳の股旅ものであつたが、指導員になつてはそれでは行かぬ、空覺へに生半じつかな事を持出せば辛辣なる質問攻めに逢つて退却せなければならぬ、環境に支配されて勉强する今迄の生活形態を根柢より改善して、繙く書物も修養技術各方面に涉り一時間の講義は三日位の勉强を必要とする、行ふべき言動も從來の粗暴より愼重に勉めた結果、今ではどうやら他の先生達の後塵を浴びながらも駈足の出來る樣になつた、去年の自分と今年の自分を靜に對照して、轉た隔世の感を深ふすると共に從來の境地を脫却したる、未見の吾を發見するに及び大いに意を强ふして、更生事業の陣頭に麒麟ならぬ老いたる駄馬を進めて一路邁進し得る自信を高めた事も、本更生事業の齎らした一大佳話と感謝の念を禁じ得ない。

はしがき

京都市勞働者更生訓練道場
指導員　渡邊一太郎

今日は一月十二日、朝五時半、けたゝましい振鈴の響、「さア起きよ」の聲々に元氣で場內の淸掃にとりかゝる。今冬最初の寒氣零下五度、外は霜雪の如く白く菜園の菜は項垂れ水道は凍つて用水に事を缺く。當山專用の凍つてない水道を見つけて辛うじて用を足すに冷徹手を切るの思、洗面を終り六時から講堂に集合、上半身裸體となつて濡れ手拭で摩擦すること五分間、其のまゝの姿で體操を行ふ更に五分餘。衣を着け襟を正して靜坐瞑目、一同身を潔め魂を鎭めて皇大神宮・皇居並に各自の氏神樣遙拜・更に祖先、兩親、兄弟姉妹、親族知己等に對して朝の御挨拶を遠く送る。次に瞑目合掌、

明治天皇御製朗詠し奉る。

めにみえぬかみの心に通ふこそ
　　ひとの心のまことなりけれ

續いて古人の歌

憂きことのなほ此の上に積れかし
　　かぎりある身の力ためさん

終りて一同互に「お早うございます」と朝の挨拶を交す。

六時二十分舍外整列、駈足「エイサ／＼」と掛聲勇ましく八坂神社まで往復三十町。汗に濡れて歸場、本山の開祖弘法興敎兩大師樣の前に禮拜する頃は東の空白みて食堂から流れ來る美味さうな味噌汁の香が切に空腹の一同の食欲をそゝる。

箸とらば天地御代の御惠み
　　君と親との恩に答へよ

と朗詠「頂きます」と挨拶、麥飯に汁、更生園に育つた道場自作の菜漬に滿腹、心廣く體豐に元氣內に充ちて今日一日の仕事に打ち込む精魂が胸に高鳴る。「腹が出來た、いざ行かう」七時十五分集合整列、作業現場への出發に先立ち大國

族を揭揚する、竿頭高く飜る日の丸に向つて君が代を合唱する若人の雄叫は、靜寂な空氣を破つて本山の松林に響き自ら嚴肅な神祕に打たれる。

山内指導員に引率されて、東寺の西門三哲川改修工事現場まで約三十町を徒歩、現場では八時から作業開始寒風吹き荒ぶさ中に道路の掘鑿に終日專念。午後四時三十分作業終了歸場國旗降下、夕食をとる。食卓には生きやかな鯖と大根との煮つけが盛られて空腹の我等を待つてゐる。食後約一時間、班毎に入浴一日の疲勞を流す。七時半から一時間「夕の學」には山内指導員から日本歷史豐臣秀吉の朝鮮征伐（日本精神作興歷史讀本南海雄飛記に據る）の講義があり、八時半から夜の行事を行ふ。今日一日の自己を反省夕の挨拶を交して床に就く。

以上は道場一日の日課の概略。開設以來玆に三ケ月半その間多少の波立ちはあつたが漸く落ちついて修養に邁進する樣になつた。これ一重に本施設の創設に關係せられた内務省社會局の皆樣や京都府市當局の熱誠な御援助と御指導とに依るものと衷心から感激に堪へない。特に安積、倉橋、福島三先生並に修養團の尾形先生親しく御來場、御懇篤なる御訓話を賜はり一同深く感銘致して居ります。玆にこの拙稿を投ずるに當り謝意を表し併せて指導員として訓練生一同が立派に更生し優秀なる成果を收むる樣一段の努力を致し御期待の萬一に報ひんことを期して熄まない次第である。

道場の設備

蒲團着て寢たる姿の東山の麓、東大路七條智山派大本山智積院の南門の石柱に「京都市勞働者更生訓練道場」の門札を揭げたのは昨年十月一日の事。山内空高く聳ゆる松樹の間古びたとはいへ二階建の一棟こそは我等の修養道場で屋内は一間の廊下に八疊の間十六室、内階上八室と階下一室が訓練生の居室、階下殘りの七室の内二室を一室に壁をぬいで講堂其他事務室、準備室、指導員宿直室、使丁室となつてゐる。建物は南側廣場より一段高く位置し土塀の外を電車が通行するも音響少く空氣清淨日光に惠まれ四圍閑寂の地環境極めて良好である殊に本山は社會事業の施設に非常に熱心で我等道場の爲に快く解放せられたものであり、蕃野執事は日頃訓練生の修養の上に溫いお心を傾けさせられ何かと面倒を見て下さるので一同感激してゐる。

訓練生の選拔と入場後の異動

入場訓練生は要救濟人夫として市立勞働紹介所で紹介を受けてゐた三十五歳以下の獨身者の中希望者を募り之等應募者につき勞働に堪へ得る强健者にして傳染性疾患者及性病者ならざるもの四十一名に入場を許可したが開場當日來場した者は三十四名であつた。選拔については今一歩個人的人物考査を愼重に行ひ眞に更生の要緊切なる者を選ぶべきであつたが指導員兩名が受講の爲東上中であつたのと、歸洛後開場まで僅に三日間の餘裕よりなかつたので夫れが不能に終つたことは訓練上幾多の支障を生じた過去三ケ月の經驗から見て遺憾に考へてゐる。

現在訓練生は二十八名、入場當時より六名減じてゐるが異動狀況は左の通である。

十月六日　脫出一名、規律生活に堪へず退去
十月十七日　脫出一名、意思薄弱體力併て用に堪へず無斷退去
十一月十二日　退場許可一名、病氣の爲
十一月二十日　二名退場を命ず、夜間無斷外出をなし飲酒をなし規律を紊りし爲
十一月二十八日　退場許可一名、病氣の爲

脫出及退場を命じたる四名は勿論病氣退場を許可したる二名も入場以來の成績面白からず更生の見込薄きものと一般から認められゐたるものとはいへ指導員として力足らざりしをも感じ深く慚愧に堪へない、

訓練生の身許

出生地は全國多數の府縣に亘つてゐるがその内京都府管内の者が半數、其他奈良、石川が各三名で殘りは、東は山形、西は長崎まで十府縣。學歴は極低い。卽ち尋一修了一、同三年修了五、同四年修了一、同五年修了一、尋卒九、高一修了一、高卒七、中等三年修了三と區々であるが現狀では學歴は比較的低いが獨學の結果相當高い程度のものを讀んでゐるものも四、五人ある。

年齢は最低十九歳、最高三十六歳、平均年齢二十五歳若いものに忍耐力弱く高年者は比較的眞面目である。

兵役關係を見るに入隊者六、補充兵四、其他は免除者であるが丙種免除者が十二名體格は概して不良であるといはねばならぬ。

前職を調べると職を轉々したものが非常に多い。最後に土工となつたものが十一名、それから職工が九名に板場（料理人）が三名、其他は水夫、青物商、洋服仕立職、運轉手等雜多で要救濟人夫となつたに付いては家庭的の事情に因るものもあるが其の多くは薄志弱行自己の懶惰に基因する者が多い。

彼等は入場と同時に市からカーキ色の訓練服に戰鬪帽、カツターシヤツ、褌、寢衣、卷脚胖、地下足袋、運動靴等身に着る殆ど總てを支給され、無料の宿舍に溫い蒲團一流と毛布とを貸與されて恩愛の懷に安眠を貪ることが出來るばかりか食堂には食事一切の設備に廉價とはいへ市雇入の炊事夫の手になる三度が三度溫い食事を攝ることが許される。又不肖とは言へ二人の指導員が朝夕起居を共にし朝夕の學に智德を磨くことも出來るし剩へラヂオまで取り付けられ心ゆくばかり樂しむことも許される。その上雨天でない限り仕事が與へられ眞劍に働きさへすれば一日一圓十錢乃至一圓十五錢の勞賃に惠まれる。誠に有難い極みである。にもかゝはらず時々不足を口にするものがあるので自分はその都度そ不心得を諭し聲涙共に下ることも屢々あつた。

訓練の概況

一　精神訓練　一日の行事日程は前述の通りこの日程を通じて日本精神の涵養と勞働日本の建設に新な認識を與へようとの企劃であることは今更贅言を要しない。

明治天皇の御製に

わが國は神のすゑなり神祭る
　　昔の手ぶり忘るなよゆめ

と訓し詠ませ給ふ。我々はこの御製の御趣旨を體得するため朝夕の行事を重要視するのみならず朝の駈足と作業の休日とには必ず神社に詣でて崇高な雰圍氣に觸れさせる。此の點京都は惠まれた環境にあり、道場附近には豐國神社、新日吉神社、稻荷神社、八坂神社少し離れて平安神宮等あり、又寺院にも妙法院、東福寺、清水寺、建仁寺、智恩院、本願寺等極めて數多い。

猶五ヶ月の訓練中左の參拜を計畫し實行することにしてゐる。

桃山御陵（十一月三日參拜）
皇太神宮（一月二日參拜）
橿原神宮畝傍御陵（二月十一日參拜豫定）

殊に皇太神宮の參拜は訓練生の殆どが始めてゞあつたのと、神代日本の國史講義で深く諭へて置いたので彼等の精神訓練上極めて意義深い行事であつた。彼の三千年の日本を物語る老杉亭々として繁る清淨森嚴なる神域に永へに神鎭り

ませる御神殿の御前に額づきたる時一同感激の極眼頭の熱くなるのを覺えた。學の時間は朝夕二回、朝の學は朝食後五分乃至十分、其の日の歴史、偉人の逸話、教訓、和歌、俳句等の解説等。夕の學は午後七時から約一時間、日本歴史(山内指導員)日本公民教育(渡邊指導員)土木工事の基礎知識(増田土木課員)を交替教へてゐる。

日本歴史は實業之日本社發行日本精神作興歴史讀本のうち神武建國記(三二四頁)を終り現在は南海雄飛記の講議中。公民教育は個人生活として民法の親族相續等を、社會生活として契約の自由から債權、物權、商行爲等の一般を、社會生活は國家の保障によることよりして刑法、警察等を、國民生活として國家及憲法を講じて來た。現在は帝國議會と選擧について述べつゝあり。土木の基礎知識としては、各種道路の鋪裝工事及その測定、各種混凝土の配合等實地につき教へてゐる。

以上は平常の學の時間であるが外來講師を招聘して主として道のお話を承はつた事は過去三ヶ月に十二回、府職業課長松野先生、稲田、大成兩先生、市の土木清掃社會各課の關係各員等の訓話、報德會の宗近、伏見西光寺の五島法住、府社會課の小瀬、救世軍の大原各先生等の道話等熱心に拜聽した。之等のお話は內務省から出張お訪ね賜つた諸先生の御訓話と共にともすれば弛緩せんとする一同の氣分を幾度も引き緊められ、其の都度又新なる心に奮ひ立つた事であつた。

一　勞働訓練　現場作業は昨年道場開始以來京都市下京區高倉通七條鹽小路間約三百米道路の鋪裝工事にとりかゝり殆ど訓練生のみで本年一月九日までに完成させた。この現場は道場から約一粁の道程にあり、溫情厚く經驗深き久野技手の指導と係員各位の熱誠なる御援助とにより立派に出來上つた。近く完成道路の一隅石碑を建て「更生の礎」の四文字と現場關係員の氏名に並べて訓練生の氏名をも刻み込んで記念することになつてゐる。

一月十日からは小河川改修工事三哲川の暗渠の築造にとりかゝつた。訓練期間終了の二月末までに其の大部分を作り上げようと力んでゐる。

訓練生中には土工としての修練をつんだことのないものが半數あり入場當時の作業狀態は隨分見苦しいものであつたが最近は目覺ましい上達振、振り上げる鶴嘴や掘りこぼつた土を處理するシャベルの捌にも更生の光が輝いてゐる。殊に嬉しいのは彼等が極めて堅いブロックとして作業に衝り協同助力の美風をつくり上げて呉れたことである。

一般交替人夫の作業狀況を見分するに、所謂「小廻り」をあてがはれた彼等は他に後れをとるまいとの競爭心と、寸時も早く仕事を上りたいとの心からすれば人情上止むを得ないとするも、相隣接する人夫間に於ては自己の分擔以外には一シャベルも觸れては損だといつた實にさもしい意地ぎたない利己主義がまざ〳〵と見せつけられて嫌な氣持に滿たされる。此の氣風は入場當時の訓練生の間にも隨分强く表現された。例へば能力に差等あるに賃金に高低なきは馬鹿々々しいとか、從て又能力高きは怠けなければ損だとか、一日も休まず作業に出る者は平生怠けてゐるからである、自分等は一生懸命にやつてゐるから時々休むのだとか種々不平不足を洩したものであつた。然し今日この頃では漸次さうした氣風が洗ひ落されて一同が互に助け合つて行くべきであり、他人の勤怠にかゝはらず力一杯陰陽なく働く所に眞の修養があるんだといふ傾向が力强く道場內に漲つて來た。誠に涙ぐましい情景である。

一　更生園　道場の南側一段低い所に約百坪ばかりの荒地があつて、石ころが澤山轉つてをり、雜草が心のまゝに生ひ茂つてゐた。開場と同時に一同が作業から歸つて來ては掘り起して呉れたのを畝につくりそれに種を蒔き苗を植ゑたのがこの更生園。ほうれん草、きくな、蕪、畑菜、京菜等晩蒔晩植であつたが手入がよかつたのともと〳〵土質が肥え

てゐたと見え實に立派に成長して十一月末から日々の食膳を賑はしてゐる。土くれに蒔き下した小さい種子が天地の惠みによつて發芽し生ひ茂つて行く樣は恰も道場に移し植ゑられた一同が、日一日と更生の芽生を培つて修養にいそしむと同一であり、天地自然の深き神祕と厚き恩寵の尊さとを知得するに效果極めて大なるものがあることを確信する。

一　健康狀況　身長と胸圍について調べなかつたが將來は調査したいと思ふ。體重については入場後月一回乃至二回調べてゐるが全體として相當に增加、殊に若いものにその度が著しい。これは何といつても規則的生活に因るものといへよう。玆で更生獻立について略說する。

主食物に玄米をとりたいとの念願は相當强かつたが遂に實現することが出來なかつた。そこで麥飯にしたが彼等の中には、麥飯はまづい、榮養が皆無だなどゝこぼしたものもあつたが、今では殆ど全員米飯より美味だと喜んで頂いてゐる。一人當り一日六合餘の米麥、この代二十錢、副食物は朝みそしる代二錢、晝は辨當鹽魚、干物等で代三錢、夕は生魚、獸肉等と野菜の煮物等代四錢から五錢、一日平均十錢以下。獻立は自分が擔當、殆ど隔日位に中央市場に買出しに行くが小賣店で購ふより二三割方安價に求められる。

次に罹病狀況について述べる。

入場以來一日も作業を休まず仕事に精出してゐるものが七名ある。「一事を貫くものは萬事を貫く」今一歩の辛抱だと激勵してゐる。無缺勤者は第一身體が達者であり、第二緊張した精神が必要である。この七人は以上の條件に適ひ且作業もおしなべて達者である。誠に立派な更生振だ。自分は卒業の時無缺勤者に對して何か表彰をしたいと考へてゐる。病氣といつても大した事でない。仕事の都合で疲勞して休ませて呉れいといふのが一番多い。辛抱して出よと言つても中々肯じない。地金を出さぬやうにと諭すのも度々である。次は風邪で休むものが多い。其他は一時的の負傷や腹痛などの爲のものでさう多くはない。

一　更生貯金　訓練生の稼得賃金は道路鋪裝工事は一圓十五錢、小河川改修工事は一圓十錢である。その內食費（入浴料一日二錢五厘を含む）一日四十錢二十五日分で一ヶ月を賄ふ。

さて昨年十二月末現在の貯金狀況を述ぶれば賃金一圓十五錢內四十錢の食費を控除し七十五錢の實收となり、その內から小遣をとつて殘額を貯蓄する。而して最高貯金者は六十二圓七錢、最低者が十四圓六十七錢、平均額三十七圓八十錢、全員の貯金總額は一千五十八圓三十四錢といふことになつてゐる。

猶玆に貯蓄の多寡と關係して見逃すことの出來ないのは就勞日數の多少で、前述の無缺勤者が貯金額においても他を凌いでゐるのは申すまでもない。

一　將來の希望　訓練生の約半數は工夫として市の土木下水清掃電氣等各課に使役されることを望んでゐるが之等は大體關係課の方で配慮して下さると考へる。殘り半數は工場方面の職工になりたいと望むもの、唯漠然と堅實な方面に雇はれたいと希ふもの、又稀に養豚がやつて見たいが直に獨立が出來ぬから適當な所へ世話してほしいといふもの、映畫俳優になりたいと申出るものなどその主なるものであるが中には所謂「ペン勞働」に身を定めたいと何處かの事務員を志してゐるものも三人ある。近く就職斡旋の懇談會を聞くことになつてゐるので、關係方面と協力折衝して成果を收めたいと念願してゐる。

一　訓練生の感想　毎月一回づゝ感想を書いて貰つてゐるが筆に表はされたものが直に彼等の眞情かどうか確信することの出來ないやうなのもあるが、中には日頃の行狀に照し合せて、ほんとうに心から修養にいそしむ誠が文となつて

表現されてゐるのを見ると涙がにじみ思はず合掌强く深き感銘に打たれる。左に二三を掲げて御參考に供したい。

其の一

甲　私はまことにけつこうなおしへをうけ日に日に私はかはつていくやうにおもひます。

乙　先生のおしへをうけ私は日に日に心をいれかへてをります、いつしよにまゐりましたともだちもからだはぢようぶになりいままでよりひぢようになかよくしてまじめにはたらいてをられます。私ははぢめて人生のあかるいせかいに神さまにみちびかれたきもちでをります、こう生にたどる私はどんなつらいことでもやりとうします。

丙　私はこれほどけつこうなところでごやつかいになつたことは一どもありません。先生樣にためになることやげんきづけていただきまして朝はげんきできもちよくしごとにいくのがたのしみにはたらいてをります。おさけをのみたいとおもひまして一どふろやからかへりにのもうとおもいましたが先生のぎようじしていられるすがたがめにうつりましてのまずに金はらつてかへりました、五ヶ月すみましてのちまじめにしようじきにつらいことがあつてもげんきでまじめにはたらきます。

此男は二十九歳尋一修了の教育を受けたゞけであるが班長に推擧せられ仕事もよく出來るし道場内の起居も極めて眞面目である。甲は十月乙は十一月丙は十二月の感想である。

其の二

不規則なるらいだ生活よりちつ序ある生活に入りしを喜ぶ。この機關を作られし方々に感謝し御當局の期待にそひたいと思ふ。人生意氣に感ず。入場式における社會課長殿の御訓示はどうだ。過ぎし八日倉橋理事官の御さとしはどうだ。どうあつても何とかかつこうをつけて社會に有用な者にならうと思ふ。前途は多難こゝを出てもすぐに喜んでもらへる人物にはなれない。どうか長い目で見ていただきたい。成功してあの者達にあれだけの事をしてやつた甲斐があつたと言はれたくて仕樣がない。

之は尋卒の男の所感で十月のもの、開場以來無缺勤、本をよく讀む。養豚が希望。

其の三

自分はつまらぬ事に惱み苦んでみぢくな人生の路をとぼ〳〵歩いて行きました。だん〴〵希望なく前途もなく疲れ疲れて死線まできました。其の時一寸待てと道場へ救はれ最早二月其の間心から泣いたり笑つたり怒つたり慰めたりしてよい精神の持かたに變りました。私は何時も日本國に生れた事を神に感謝してをります。

上天皇陛下　下指導して下さる上のお方にお禮と感謝の心で一ぱいです。私らは若い。一たん枯れようとしたけれど手入しだいでずん〳〵と伸びる力を持つて居ます。先生樣このあと期間どをか我等の爲に手入お願申上ます。

之は高小卒で無缺勤者、とても頑張る男。

其の四

暮れ行く昭和十一年をふり返り見れば一生忘れる事の出來ない意味深い年である。人生の最底をとぼ〳〵と歩み暗い氣持で死を選ぶこともあつた。苦しいため息をついて故郷の空を眺め自分の貧弱な意志を兩親に向つてわびた時もある。今所感を書くについてあゝ思へば有り難い神樣のお救ひ十月一日こゝが開かれその訓練生に死んだ樣な私に白矢を立てて下されたのだ。再び生れた私ーあゝ、有難や道場の設備、父上の如し渡邊先生親し母の如き山内先生增田先生を戴き嬉しや有難し何の不足がありませう。月日の過ぐるは速いものだ。三ヶ月此の一年は暮れて行くけれども一生忘れることは出來ない。益訓練を致し立派に成長して神樣の御恩にお答しよう。

之も高小卒無缺勤者で貯金額最高。

むすび

私達指導員兩名は誠に至らない者でありますが先覺者たる皆樣からの慈愛に滿ちた御指導と御鞭撻とによつて奮鬪させて頂くことを心から感謝致してをります。それと同時に訓練生が日々自主的に孜々として更生に努めて呉れます現狀

に接しては教へてやるんだ導いてやるんだといふ氣持は毛頭も起りません。寧ろ彼等から教へられ導かれ勵まされて、更生の途に雄々しく進軍する彼等の中に共に力强く息づいてゐる自分達を見出すといふのが眞實であります。

共に祈り共に堪へて强く堅くガッチリと組んだ腕と腕、魂と魂、打てばはねかへる鐵の如き强固な意思を以て「勞働日本」の建設にトップを切つて進まんこそ吾人の切なる希望であり覺悟であります。

大阪市勞働訓練所長　山　岨　一　郎

一　勞働者更生訓練所設立の經路

歐洲戰亂後の世界的不況は漸次我國にも波及し大正末期に至つて愈々其の深刻の度を加へたのであつた、かくて大正十四年政府は勞力費の二分の一を國庫より補助し失業者の最も多く蝟集せる六大都市並に同府縣に冬季失業救濟土木事業を施行せしむるに至つた。爾來昭和の年代に入つても失業者は增加の一途をたどり遂に政府は昭和四年本事業施行の時期の制限徹廢並に施行區域の擴大を圖り失業者の救濟に大いに努めた、それにも拘らず昭和四、五、六年頃には失業問題と思想問題を中心として相當憂慮すべき雰圍氣に覆はれたことは國民一般の未だ新らしき記憶であらう。然るに昭和七年を迎へてかの滿洲事變に引續いて滿洲國の建設となつて我國民に一大感動を與へこれが國民思想にも大いに影響するところがあつた、尤も滿洲國の建設により直ちに我國の失業問題並に思想問題が解消せるにあらざるもこれを一轉機として我が國民の意氣を發揚せしめたる事は蓋し顯著なりと云ひ得るであらう、爾來重工業の興隆並に輸出貿易の進展により大いに失業を緩和し思想問題も亦政府の取締共宜敷を得漸く愁眉を開くに至りたるは誠に喜びに堪へざるところである。

顧つて大正十四年以來我國に於ける失業救濟土木事業を通して要救濟失業者の心理狀態を觀察するに失業者の多くは自己を反省することなく我國に於ける失業の原因は國策の罪であり國家社會の責任であると總て國家社會にその罪を負はさうとして居るのであつた。のみならず折角國又は公共團體が失業の理由は那邊にあらうと現に失業し生活困難なる者に對しては何とかして仕事を與へてやらうと、關係機關を總動員して救濟事業も起しこれに就勞せしめ樣としても、あの仕事は厭だ、この現場は嫌ひだと仕事や現場の選り喰ひに懸命だつた。かくて就勞の機會を失したり又折角就勞しても本氣で働く者は少く救濟事業は現場へ來てぶら／＼して居れば賃金がもらへるのだ、國家は吾々失業者に「パン」を與へるのがあたり前だ、吾々は生存してゆく權利があり國家は我々を救濟する義務があるのだと、堂々と主張し且信じてゐるものも尠くなかつたのである。これ等の人達は自己を反省する事を知らず、報恩の念もなければ勤勞の精神もなく、唯、不平、不滿、呪詛の化身であつて況んや更生の氣力の如きは藥にしたくもないと云つても過言でない有樣であつた。

かるが故にある時期に於て一部の人から失業救濟事業は惰民の養成所であり「パン」の無料支給所であるとのそしりを受けたのもあながち當らないことでもなかつた。もとより失業救濟事業は失業者に仕事を與へるのみが本旨ではない、寧ろ失業者を保護し善導することにあるのであるが、數人の職員が殺氣立つた數千名の失業者を抱へ五日目に一回か一週間目に一回位の就勞より出來ない場合に「パン」のことを考へてやる以外に何が出來るか、又偶々仕事にありつけた善良な失業者でも前日から飯を食つてゐないからなるべく樂な仕事に廻して欲しいとか晝の辨當がありませんから午後は休ませて下さい等々續出し心ある紹介所員や現場監督員達は薄い財布の底をはたいて何回彼等を救つてきたか知れない。斯樣な場合、如何なる倫理を說いても、如何なる哲學を以つてしても效果はなく、所謂「衣食足つて禮節を知

る」といふ句がこんな現實社會に於てぴつたりあてはまつたことは事實だ。こんな實狀であつた昭和四年乃至昭和八年は要救濟者に何んとかして仕事を見つけてやるか、直接食料品を支給するかの外はなかつた。要するに物的救濟の外一歩も出ることが出來なかつたのである。しかし景氣の回復を期として困難な時代は過ぎ去つた。かくて昭和十年を迎へた。勞働市場に於ける就勞の機會も段々よくなつて來た。久しく社會のどん底生活に喘いでゐた失業登錄勞働者達も浮び上る機會に惠まれて來た、滿十年振りだ、永らく辛酸をなめて來た、さあこの機會に何とかして浮び上らなければならぬ。何とかして更生しなければならぬ。何とかして人間らしき人間にならねばならぬといふ念に當然燃え上つてゐなければならぬ筈であるのに、これは又どうした事か、多くの失業登錄者達には俺は萬年失業者だ。俺は萬年要救濟者で甘んじて居るのだといふ全く自暴自棄的な氣分が培はれ一つの層を成さんとしてゐる。而もこの中に年齡二十二歳から三十歳前後の比較的身體强健なる青壯年者が相當多數に交つてゐることは、誠に悲しむべき重大現象と云はねばならぬ。

上述の歷史に徵しても從來の失業救濟事業は直接と間接の差はあるけれども、畢竟要救濟者に「パン」を與へることにのみ汲々として居つたやうに思はれる。佛作つて魂を入れなかつたといふよりも寧ろ佛を作るに汲々として魂を入れる暇がなかつたのであると云ふ方が當つてゐるであらう。しかるにその魂を入れる時機が來た。しかもそれは既に實行されてゐる。卽ち昨年十月より內務省の肝入りで國庫より二分の一の經費の補助を受け福岡を含む七大都市並に同府縣が失業者更生訓練事業として要救濟登錄勞働者の更生訓練所を設立するに至つたのである。

二　內務省の失業者更生訓練の主旨

內務省はこの失業者更生訓練を一大國策として取扱はるゝや否やに就ては不幸にして筆者の知る能はざる處であるが故にその主旨の說明に鮮明を缺くことを豫め斷つておく。內務省は從來の失業者救濟事業の體驗と國家の現狀並に將來を慮り失業者の救濟は物質的のみでは駄目だ。どうしても之れに精神的救濟を加へなければならぬ。卽ち物を與へる丈けでなく、心を與へる。否寧ろ心を活かすのでなければならぬ。言ひかへれば失業者の生活救濟ではなくて、失業者の全人救濟であると斷定せられてゐる。而してこの訓練を何處に且つ如何なる方法によつて實施するかについても亦隨分苦心せられたものであることを想像するに難くない。先づ失業者の最も多く蝟集せる前揭七大府縣都市に更生訓練所を設置せしむると共にこれに從事すべき指導員を內務省主催にて實に森嚴なる講習道場に集め、眞劍なる講習を實施せられたることを以つてしても、その主旨の一端を窺ふに足るであらう。講習會の概要は次の如くであるが、その眞髓は到底筆墨を以て盡し得ないところである。

講習期間　昭和十一年九月二十日ヨリ同二十八日マデ滿八日間
同　道場　東京市小石川區音羽町護國寺內
同　職員　道場長　倉橋理事官　庶務主任　新國屬　指導員　尾形囑託　講師　著名の士每日數名宛
講習生　二十名（他ニ社會局長官以下職員多數或ハ講師トナリ或ハ講習生トナリ參加セラル）
誓　約　本期間中、禁酒、禁煙、禁外出、禁面會、禁讀書（指定書籍ヲ除ク）
道場訓
一、和を貴ぶべし
一、禮を重んずべし
一、誠に徹すべし
一、力を以て行ふべし
一、樂しむ心を養ふべし

日課

起床　四時

四時ヨリ五分床上靜坐感恩歌合唱

四時五分ヨリ二十五分　美化作業

四時半ヨリ　體操、洗面、水浴又ハ冷水摩擦

五時ヨリ三〇分　講堂ニ於テ朝ノ行事（神宮、宮城遙拜、道場長誓文朗讀）

五時半ヨリ四十分　本堂ニ於テ讀經實習（靜坐）

六時十分ヨリ二十分　國旗揭揚御製奉詠

六時三十分ヨリ三十分　朝食

七時ヨリ一時間　講堂ニ於テ二宮翁夜話輪讀（靜坐）

八時ヨリ四時間　講堂ニ於テ講師二人乃至三人ノ講演（靜坐）

正午ヨリ一時間　晝食

一時ヨリ四時間　午前八時ヨリ正午迄ニ同ジ

五時ヨリ三十分　體操國旗降下式

五時三十分ヨリ三十分　美化作業

六時ヨリ一時間　夕食、入浴

七時ヨリ二時間　坐禪、講義並ニ實習

九時ヨリ三十分　夜ノ行事（朝ニ同ジ）

十時、就寢

尙本期間の頭初に於ては一同二重橋前に於て宮城禮拜を行ひ、又第三日には東京市立江東橋勞働紹介所同宿泊所並に食堂、東京府立機械工養成所及三ケ所の農民訓練所の見學が實施せられた。本期間は僅かに八日間の短時日であつたが道場長以下講習生一同の眞劍さは勿論社會局長官以下社會局職員一同の熱烈なる激勵、後援、遂には講習生と共に自らも一員として實習せらるゝの熱心なる態度に對し、道場の空氣は一段と緊張味を加へ、ために總てが感激に終始したのである。されば愈々講習終了解散の時には聲を揚げて泣いた程であつた。

三　大阪市勞働訓練所

大阪市旭區南島町の舊市立無料宿泊所を改造し昭和十一年十月一日設立、同月八日開所した大阪市立勞働訓練所には所長一（主事）、指導員二（書記一、事務員一）、雜役三（炊事夫二、使丁一）の專任職員を置かれてゐる。

尙本市勞働訓練所設立の趣旨並に訓練精神は開所當日に於ける左記の如き坂間市長の訓示によりて明瞭である。

訓示

本日茲ニ勞働訓練所ノ開所式ヲ擧行シ、ソノ第一回ノ訓練生トシテ諸子ヲ迎フルヲ得タルハ、余ノ最モ欣快トスル處デ此ノ記念スベキ時ニ際シ、余ハ所懷ノ一端ヲ述ベテ諸子ノ自覺ト決心トヲ一層鞏固ナラシメントスルモノデアル。

本市ハ時局ニ鑑ミ、初メテ此ノ訓練所ヲ設ケテ、諸子ノ如キ有爲ナル勞働者諸君ヲ收容シ、指導職員ヲシテ起居ヲ共ニセシメ、嚴格ナル各種ノ訓練ヲ行ヒ、以テ眞摯精勵ナル中堅勤勞市民ヲ養成スルコトヲ期シテキルノデアル。卽チ本訓練所ハ單ニ諸子ニ對シテ、個々ニ技術上ノ並ニ精神上ノ訓練ヲ施スノミナラズ、進ンデ整然タル規律ノ下ニ諧和協調ノ生活ヲナサシメ、社會人トシテノ完成ヲ企圖スルモノデアル。隣ツテ本所ハ小ナリト雖モ、一個ノ國民道場トシテノ本質ヲ備フルコトヲ理想トシナケレバナラナイ。諸子ハ實ニ九千

人ノ多數勞働者中ヨリ嚴正ナル考査ヲ經テ入所ヲ許可セラレタル、燃ユルガ如キ向上心ト、强健ナル身體ノ所有者デアツテ、恰モ灼熱セル鐵ノ如キ鍛錬ノ好機ニ際會シタルノデアル。鍛ヘルノハ今デアル。練ルノハ今デアル斯クテコノ短キ期間ヲ有效ニ過スカ否カハ、諸子カ終生ノ行路ニ重大ナル影響ヲモツコトヲ忘レテハナラナイ。

諸子ハ本訓練所ノ趣旨ニ鑑ミ、能ク所長及職員ノ指導ニ服從シ、僚友ト相親シミ寸陰ヲ惜ンデ克己奮鬪修養ニ力メ最後ノ榮冠ヲ獲得シナケレバナラヌ。之レ獨リ諸子ノ一身ノ爲ノミナラズ、延イテハ國家社會ニ對スル奉公ノ赤誠ヲ完ウスル所以デアル。

諸子ノ既ニ識レルガ如ク、時局ハ内ニ外ニ多難ノ非常時デ、コノ秋ニ當ツテ諸子ニ期待スル處ハ實ニ多大デアル。余ハ諸子ガ今日ノ感激ト希望トヲ最後マデ失ハザランコトヲ希望シテ止マナイ。更ニ所長以下各職員モ、訓練ノ眞精神ヲ體シ、常ニ熱ト誠トヲモツテ、困難ヲ克服シ、率先窮行シテ、所生ノ父トナリ、兄トナリ指導ノ達成ニ邁進シテソノ使命ヲ果サンコトヲ望ム。

以上本所訓練ノ要諦ヲノベテ訓示トスル次第デアル。

昭和十一年十月八日

大阪市長　坂　間　棟　治

さてこんな處でこんな話は妥當を缺く惧れがあるが、後日御參考の一端にもなればと存じ駄筆を加へて置く。筆者は當年四十五歳、五尺二寸六分の短軀に十八貫五百匁の體重を有する云はゞ發育良好の豚型である。幸ひに病氣にかゝつたことがないが身體が重すぎてまめに動けない。金棒の尻上りはとても出來ない。鈍い駈走りでも二三町位で倒れる。机上の屁理屈は人後に落ちないが、理論的な學問もなければ體驗もない。又身體を動かすことは半人前も難かしい。こんな體軀でこんな素養では、如何に必要な勞働者の更生訓練でも、こんな難しい仕事の指導者になる資格がない。所が何の因果か九月十八日に大阪市立勞働訓練所長の内命を受けた。誠に困つた。尤も筆者は十有餘年間大阪市の勞働紹介事業に從事し日頃より勞働者の更生施設の必要を痛切に感じて居り、之れがため兩三年前より毎年新規事業としての豫算を要求して居つたのであるが、前述の如く自分でやれる自信が毛頭なかつたので、適當な人を選定して呉れるものだと信じて居つた。所が圖らずも筆者にその内命が下つたので困つた。實に當惑した。誠に申譯ないことであるが、これは御辭退申上ぐるに如かずと考へた。再三再四御辭退申上げたが一向に受付けて貰へなかつた。その時思ひ出したのが淨瑠璃で名高い長柄（ながら）の人柱であつた。俺はこの仕事に不適任であることは、誰よりも自分がよく知つて居るのだ。しかしどうしてもやらなければならぬ責を負はされてゐる。絶對絶命だ、止むを得ず引受けることに決心した。そうして今からでも遲くはない先づ自己を訓練してやろう、若し俺が實業家であるならばこんな人間を雇ふ、どんな不況が來てもこの人丈は首をきらない、この人は自分の店に自分の工場に絶對に必要だと云ふ人間に自分を作りあげやう。そうしてそれを勞働者に及ぼそう、これだ／／これから這入らうと決心した。

不安は去つた、實に朗な氣持で僚友谷本氏と共に翌十九日上京、前述した内務省主催の訓練道場に入つた。眞劍に訓練をうけた。八日間に亘り受けた訓練により一面訓練指導上必要な技能を修得し、他面體重二貫匁を輕くし、生氣潑溂として所謂一石二鳥を獲得し歸阪することが出來た。筆者等の受けた訓練をその儘直ちに勞働者に當てはめるわけにはゆかないこと勿論であるが更生訓練の必要性をこの講習によつて更に深く感銘した次第である。

前述した如く十月一日に愈々設立し職員の正式任命があり一日も早く開所せよとのことであつた。翌二日直ちに訓練生の詮衡を行つたのであるが、九千餘名の要救濟登錄勞働者の中から希望した者が僅に七十八名であつた。これは募集宣傳の期間（約一週間各勞働紹介所内に掲示並に所長より說明をなす）が短かゝつた關係上事業の趣旨が一般に徹底しなかつた點もあるかも知れないが、放縱生活に甘んじ更生の意氣に缺けて居ることの證左であると見て差支へあるまい。又じ十八名の希望者中詮衡に合格したものは四十八名であつた。不合格の總ては身體的缺陷者であり、就中大半は○・

四以下の近視眼者であつた。尚十月八日の入所式に愈々入所したものは結局四十四名であつて、四名の不參者のあつたことは誠に遺憾であり、要救濟登錄者達の健康（身體精神共に）が如何に不完全であるかを想像するに充分であらう。

更に入所後退所せる者は既に十三名に達し退所の時期及その理由は次の如くである。

十月十日　五名（内三名は貸與の被服を着用の儘脱走、内二名は家事の都合により）
同　十五日　一名（巡査試驗受驗準備のため）
同　二十日　一名（自動車運轉手受驗準備のため）
十一月二日　四名（日頃より要注意人物なりしも一日現場に於て他の者を煽動し「サボタージュ」の如き行動に出でしため退所處分にす）
同　十七日　一名（家事の都合より）
十二月十九日　一名（病氣のため）

十月八日の入所式には府學務部長、市長、助役、その他多數の參列者を迎へ奮起止まざるが如き訓示又は激勵をうけ、華々しき誓約のもとに入所式を終へた許りの翌日既に五名の退所者而も内三名の脱走者を出し、更に十一月二日四名の退所處分者を出すに至りたることに對し筆者はその責任者として、誠に申譯なきことゝ存じてゐる次第であるが、餘りにも意志薄弱な人達の多きに一驚する次第であり、更生訓練の必要を如實に物語るものであつて、その指導の如何に困難なるかを立證せるものとして參考迄に記したる次第である。

次に當所の訓練綱領及要項を記載し諸彦の指導と後援を希望する次第である。

市立勞働訓練所綱領

『至誠一貫』

（至誠一貫ハ論語ノ「我道一以貫之」ヨリトリ來ツタモノデアル。孔子ノ説ク道卽チ仁ハ中庸ノ所謂誠デアツテ「誠ハ天ノ道ナリ之ヲ誠ニスルハ人ノ道ナリ」ト説イテヰル所以デアル。明治天皇御製ニ「目に見えぬ神の心に通ふこそひとの心の誠なりけり」ト仰セラレテヰルノハ畢竟コノ意ニ外ナラナイ。

而シテ誠ハ衆德ノ帶デアリ、萬善ノ基デアツテ德ハ誠ニヨリ固ク結束サレ善ハ誠ニヨツテソノ尊サヲ保ツノデアル。又忠ハ誠ニヨツテ淸光ヲ保チ、義ハ誠ニヨツテ妙香ヲ放ツノデアル。

又皇道迚義ノ序ニハ「神道ハ一誠ナリ一誠ハ天日ノ大道ナリ、天日ハ一誠ノ本體ナリ故ニ曰ク神皇ノ道ハ卽チ天日ノ大道ニシテ、神皇ノ大德ハ卽チ天日ニ同ジキナリ」トアリ、或ハ明治天皇ノ御製ニ「白雲のよそに求むな世の人の誠の道ぞしきしまの道」ト仰サルル如ク至誠ハ神道卽チ日本精神ノ極デアツテ帝國臣民ノ守ルヘキ根本道ナノデアル。

斯樣ニ神ノ如キ天眞飾リナキ眞心ヲ以テスベテノ事ニ當ル樣導クコトガ更生訓練ノ要諦デアル）。

精神訓練要項

曜日	種目	摘要
朝		
月	訓話	國民道德ノ涵養（各方面ヨリ名士ヲ講師委囑）
夕		
火	修養講話	習字ヲ通ジテ精神ノ統一ヲ圖ル
水	同	習字（又ハ自習）
木	同	常識講話 一般常識ヲ高メ社會生活上公民トシテ遺憾ナカラシメントス（各方面ヨリ名士ヲ講師ニ委囑）
金	同	武道（又ハ自習） 尙武ノ心ヲ養ハシム
	同	宗教講話 一ノ宗派ニ偏セザル經文ノ解説ヲ中心トシテ法話ヲナスモノトス（宗教家ノ專任ノ講師ヲ委囑）

訓練日課表（技術訓練ハ作業現場ニ於テ行フ）

土日	訓話	娯樂	映畫、浪曲、漫談、音樂等ノ如キ催シ物ヲナシ、或ハ講師ニツキ詩吟、歌謠等ヲ練習スル等樂シム心ヲ養ハシム
日同	自習		感恩ノ情ヲ實行ニ移セシムル修行（朝食ヲ赤飯トス）更生後モ繼續實行スル習慣ヲ作ラシム
朔日	發心日		發心ニ對スル結果ノ反省
月末日	反省日		自己本來ノ姿ヲ見ルコトノ修行

午前	五時—五時半	起床	洗面
	五時半—六時	國旗揭揚	體操
	六時—六時半	朝食	休憩
	六時半—七時	作業場ヘ出發	作業場ニ到着（徒歩三十分ノ後）
	七時—午後五時	作業開始	休憩
午後	五時半—六時	歸所	國旗降下
	六時—六時半	夕食	作業
	六時半—七時半	入浴	自由時間
	七時半—八時半	講話	又ハ娯樂
	八時半—九時	人員點呼	夜ノ行事
		就床	

※朝ノ行事ハ（1.遙拜（神宮、皇居、出身地守護神）2.御製奉詠 3.朝禮（兩親先輩恩人、知己朋友ニ對シ朝禮））トス

夜ノ行事ハ朝ノ行事ニ準ズルモノトス

叙上の綱領、要項及日課は市長の訓示並所規程に基き立案したものであつて何とかして立派な人間を作りあげたいものであると、念願して居る次第であるが、更に筆者は六ヶ月の訓練期間を左の三期に分けて指導してゐる。しかも我國の大和魂の權化である日本刀を作り上げることを想像して居る。

即ち第一期入所後一ヶ月間は果してこの代物は日本刀たるの素質があるかないかの試錬期間である。意志薄弱なるものは自ら逃げだす、見込のないと思ふ者には退所を命じて陶汰を圖つてゐる。

第二期はその後の二ヶ月間でこの期間は鍛へて〳〵鍛へ上げる、而もその終末には所謂『燒』を入れることを忘れない。その意味で昨年十一月乃至十二月は實に猛訓練を行つた。晝間作業の外に毎夜迎春用の注連縄作りまでやらせた。更に年末年始の就勞現場休業期間を利用して行程四十里を四泊を以て伊勢神宮徒歩參拜を決行し、全員三十一名の身心に完全なる「燒」を入れたことは特筆したいものである。

殘る最後の三ヶ月間は立派な磨きと仕上の期間である。どんな强敵でもきれる而もなくてはならぬ、守である、實である。名日本刀を作りあげ各官公署、會社、工場等へ或は又自立自營へと一人も殘らず更生の途に納まらしめやうと意氣込んでゐる次第である。

かう書いてみると如何にも筆者一人がやつて居るやうに見え、又如何にも頑固一點張りのやうに聞えるかも知れないが、決してそうでない。上司の熱誠なる指導鞭撻、各方面からの多大なる後援、職員一同の涙ぐましきまでの活動に俟つ所甚大であつて、筆者は寧ろ「ロボット」にすぎないのである。そうして吾等指導職員の日頃の生活は、薄幸なる境遇に醸弄されてゐた訓練生に對し絶大の愛を捧げ良き相談相手となつて、血肉を分けた親子兄弟とちつとも變りがないのである、又朗らかな娯樂を充分とり入れて和かな氣分の助長に努めることも決して怠つて居ない、愛と力のあらんかぎりを盡してゐることを附記して置く。

一　大阪市勞働訓練所の歌（志賀社會部長作）

（一）東に生駒西に茅渟　大淀川の朝風に
深き睡りの夜は明けて　五體に滿つる我が元氣

（二）七度顚び八度起き　狂瀾怒濤乘り切つて
更生の意氣天を衝く　稜威の國の健男兒

（三）握る鋤鍬鐵槌に　廻すハンドル旋盤に
開けや吾等が奉公の　赤誠の力高鳴るを

（四）汗と膏のある限り　搾り盡して聖き日を
今日も送りぬ安らかに　さらば歸らん謠ひつゝ

（五）幸と望みに充足れる　胸の調をその儘に
心の友と虔しく　夕べ額づく神の前

二　被訓練生調

年齢別

年齢	員數
22	三
23	四
24	三
25	五
26	四
27	七
28	四
29	二
30	三
31	一
32	一
33	三
34	二
35	二
計	四四

平均年齢二八歳

學歷別

學歷	員數
尋常卒	一二
高等卒	二五
中等學校中退	二
中等學校卒業	五
合計	四四

前職別

職業	員數
瓦斯工	一
電氣工	一
釦工	一
竹細工工	一
鐵工見習	一
萬年筆製造見習	一
セルロイド職見習	一
工場雜役	三
店員	五
喫茶店（自營）	一
呉服店（〃）	一
木炭商（〃）	一
藥賣	一
商行	一
農業	五
舟夫	一
大工	二
守衛	一
馬力挽	一
仲仕	二
人夫	三
無職	九
合計	四四

三　伊勢參宮徒步旅行の概要

年末年始に於ける當所訓練生就勞現場作業休止期間を利用し更に身心の修養鍛錬を圖らんとする當所行事の一つとしての伊勢神宮參拜徒步旅行は左記日程により實施した。

第一日（昭和十一年十二月三十一日）

午前七時半壯行式擧行、社會部長訓話、所長宣言ノ後出發

（快晴ノ空モ午前四時頃ヨリ曇リ始メ出發前ヨリ小雨トナル、直チニ測候所ニ對シ天候ヲ照會セシトコロ、當日ハ小雨ノ程度ニテ後晴引續キ正月三日ハ保證スル旨ノ報ニ接シ出發）。

午後六時　試傍町宿舍ニ到着　夕食

一、コース　訓練所―今福―布施―柏原（晝食）―國分―高田―今井―試傍（約十里）

一、宿　舍　奈良縣試傍町建國會館

一、講　話　十二月三十一日午後八時ヨリ約三十分間於宿舍

一、演　題「皇國精神の顯現發揚と建國の地試傍」

一、講　師　　奈良縣會議員　小松茂作氏
　　畝傍町長

第二日（昭和十二年一月一日）

午前四時半起床　宿舍内外清掃、健康體操、朝ノ行事後橿原神宮參拜、宿舍ニ歸リ朝食

午前八時　出　發

午後六時　名張町宿舍ニ到着　夕食

一、コース　橿原神宮―神武天皇御陵―綏靖天皇御陵―八木―櫻井―初瀬―長谷寺―吉穐―萩原―三本松―安部田―名張（約九里）

一、宿　舍　三重縣名賀郡名張町天理教名張支教會宿所

第三日（一月二日）

午前五時起床　宿舍内外清掃、健康體操　朝食

午前七時半　出　發

午後五時半　大井村宿舍ニ到着　夕食

一、コース　阿保―上津―伊勢地―西青山（晝食）―伊勢茶屋―垣内―大井

一、宿　舍　三重縣一志郡大井村字井關公會所

一、講　話　一月二日午後八時ヨリ約一時間

一、演　題「物質ヲ離レテ先ヅ働ケ」

一、講　師　　三重縣會議員　松本一郎氏

一、對大井村井關支部青年團交歡座談會

同日午後九時ヨリ約一時間

一、話　題「訓練所生活を省みて」

一、勞働の尊きの體驗（訓練生）田中瑞雲

一、至誠の前に障害なし（同）清原勝二

二、「青年の覺悟」

一、體育の向上を圖れ
一、井關支部青年團とその事業　井關支部青年團有志

一、所長講演　回日午後七時ヨリ約一時間於宿舍内區會所

一、演　題「身心鍛練の必要」

一、聽講者　學校職員、青年團員、村内有志、約三十名

第四日（一月三日）

午前五時半　起床　宿舍内外清掃―體操―朝食

午前七時半　出　發

午後五時半　宇治山田市宿舍ニ到着　夕食

一、コース　大井―小川―松坂―垣鼻（信樂寺ニテ晝食）―明野―山田（約九里）

一、宿　舍　三重縣宇治山田市吹上町、明照淨濟會宿泊所

一、講　話　一月三日午後八時ヨリ約三十分　於宿舍

一、演　題「神宮と佛教に就て」

一、講　師　　淨土宗明照淨濟會長　清水法陸師

同日午後八時半ヨリ約二十分間　於宿舍

一、演　題「我等は何故に伊勢參宮を爲すべきや」

一、講　師　　宇治山田市學務社會課　　高　畑　寒　生氏

第五日（一月四日）

午前四時半起床　宿舍內外淸掃、體操、朝食

午前七時　出　發

午後八時　訓練所へ歸着

一、コース　宇治山田驛ヨリ汽車ニテ二見浦ニ向フ―二見浦ニテ日出遙拜―二見浦ヨリ汽車ニテ山田驛着―外宮參拜―倭姫神社參拜―古市町（大安旅館玄關ニテ休憩）―內宮參拜―宇治ヨリバスニテ山田驛ニ向フ、山田驛ヨリ汽車ニテ大阪ニ向フ―大阪驛前ヨリ市電ニテ天滿橋ニ向フ―京阪電車ニテ關目ニ向フ―訓練所歸着

一、講　話　一月四日午前十一時ヨリ約二十分間、於風日祈宮參道

一、演　題「皇大神宮に就て」

一、講　師　　神宮神部署神部補　　木　下　作　之　助氏

（註、御神域に於ける講話は正式に行ふを得ざるも、宇治山田市の熱誠なる御盡力により特に當所の趣旨に贊同せられて非公式に前記講話を賜りしことを附記す）

一、勞働奉仕

一月四日午前七時五分ヨリ約十分間

於省線山田驛並驛前廣場淸掃美化作業

感　想

イ、全員參加し一名の落伍者もなく完了したこと。

ロ、小雨を突いて出發の決意により一同既に完成の意氣ありたること。

ハ、第三日青山峠征服に當り大行李のリヤーカーがパンクして全員辛酸を嘗めたこと。

ニ、一同足を傷めたが所長の『元氣のよい跛行を引け』の號令に泣き笑ひしつゝ決行したこと。

ホ、平素の親密を一層堅實にしたこと。

ヘ、各宿舍、休憩所に於ける土地の人達が吾等の參宮主旨を理解し特に親切にせられたること。

ト、一同神宮に額き吾等日本國民として生を享けたる幸福を祖宗に感謝し奉り誠の道を以て之に報ゆるの祈願を込めてゐる時所長の、

低聲ではあるが力の籠つた『諸君、吾々は本日此處に何を爲しに來たのであるか、何を爲さんとするのであるか、をしつかり思ひ起して下さい』の言葉に、一同嗚咽するのみであり、最もよい行事を決行したと信じたこと。

四　失業者更生訓練事業の將來への展望

現在七大府縣並に同都市に於て施行せらるゝ、失業者の更生訓練は、何れも其の途上にあるが故に輕々しくその將來を斷定する譯にはゆかないが、上述したるが如く現在の失業者には、相當多くの個人的缺陷を發見することが出來るのであるが、本施設によりその缺陷を是正する卽ち智能、肉體、技術、道德の向上發展に資する處偉大であらうと想像するに難くない。又本施設により訓練を完了したる勞働者は充分更生すべきことを確信すると共に、本施設のあること自體により、又今後更生したる勞働者の生きたる手本により他の多くの勞働者を善導することは豫期せざる收穫であらう。

唯現在の施設は餘りにも規模の狹少なると、その地方々々に應じて最も更生し易き技術を習得せしむることに缺けて

ゐる點を甚だ遺憾とする處である。大阪市は既に昭和十年に本計畫あり、昭和十一年度に於て約十萬圓の創設費を又昭和十二年度より經常費約五萬圓を以て實施すべく目下之れが着々準備中である。

次に本問題は單に地方的、局部的に止めず政府の一大政策として、國民全般に及ぼすことにより、大いに効果あらしむるであらう。更に雇傭條件の法制化と相俟つて、之を行ふにあるならば我國の健全なる發展期して待つべきものがあらう。

大阪府阿武野更生訓練所
指導員　横山熊雄

商業都市大阪を東へ數里。丁驛を下車して更に西へ四五丁行くとA村。繼體天皇の御陵や神社佛閣の舊蹟がある。そこに!!

大阪府當局の勞働者、精神修養道場とも言ふべき更生の家がある。失業者として心の傷手と共に、荒み行く心。亦は或る方面に傾きかけた幾多のかうした心を持つ青年を精神的に更生させ堅き足取と共に社會に第一歩をふみ出さすべく擔當職員は其教育訓練に餘念がない。淺學非才の指導者教育も効あつてか正に五ケ月の教育も終らんとする、今日入所當時の悄然とした姿に引替へ嘻々として働き、果ては村人さえ此の制服制帽の彼等が一擧一動に自然敬意を表す樣に成つた。

◇

それはS青年である。彼は四國の西南M市を南へ十餘里。そこにO村と言つて四方山に包まれた一閑村がある。彼は此村で可成な農家の長男として生れたが父は彼が六歳の時、母と幼ない彼を殘してあの世の人と成つた。

Sの母が或る人の世話で西も東も知らない彼を連れてO村から二三里離れた、E家に再緣したのは父が亡く成つて約一年位後の事だつた。E家も農家で相當な暮しをしてゐたので、父を得た彼は幸福の內に小學校も可成良い成績で卒業して中學へと進んだ。年と共に元來消極的な彼は學校の友達や其他の家庭と比較して自分の家庭が餘りにも冷たいのを感じた。父が眞の親ならぬ事をよく知つた、其頃母は義理の弟を溺愛してゐた、「まるで僕の存在を母は知らぬのか?」「乃公は父が無いのだ、それに弟は幸せだ」そうした考へに依つて次第に人間道から蹈み違えた淵へ落ちて行つた。中學も三年で止め自動車の運轉手見習等する內或る種の犯罪に依つてM市の裁判所に拘引されたが、裁判長は「年も若く改悛の情が顯著なので」と寛大なる處決に依り最低の罰金刑で許された。斯くして純だつた彼の身に心に拭ひ切れないヒゞが入つた。純眞な村人達の噂は、豫想以上に大きかつた。それからの彼は大阪へと走つた。其後、自動車の運轉手に成つた。けれど、たま/\事故の爲免許證は取上げられ、會社に歸つても使つてくれず。一塊のうらぶれ者と成つたのだつた。失業者のみの知る生活苦、まして前科者に對する世間の眼は之又餘りに冷酷だつた、此時彼の腦裡をえぐるもの。生さぬ仲の自分をあれ程に可愛がつてくれた父や。兄ちやん/\と慕つてくれた義理の弟。あゝ國に居た昔が懷かしい。「國へ歸り度い」いゝや俺はどうして國へなんか歸へれるもんか? あゝ一體どう成るのだらう。かくして彼は三日目か四日目に一度しか仕事の當らない自由勞働者と成つて彼は口を求めて勞働紹介所をあちらこちらとさまよう身と成つた。自由勞働者!! それは天涯孤獨のうらぶれ者にはいゝ言葉かも知れない、しかし彼S青年の心をえぐるもの「俺は日本人だこれではいけない。」そう覺つた時、古い言葉だが「地獄で佛」と言へば一番適當かも知れない、それは大阪府が彼等に救ひの手を差延べた。かくしてA村山麓の更生の家に赤銅色の青年達が朝に夕に日の丸の國旗を拜しつゝ、萬世一系の帝國に生を享けた喜びと共に大和民族最上の誇である眞の日本精神に返つた。S青年も勿論其內の一

人だつた。一文無しだつた彼等の懐にも今は百圓近くの貯金も出來て心はすつかり春らしく成つた。特にS青年は他の群を拔いて百數十圓の貯金さへ出來、殊に言語態度は他の模範であり生徒中で最高單價の付く作業に從事してゐる。

彼が筆者の前で語つた一言を附記して置く。

「私は今更國へかへれぬと思ひました。私の母は、義理ある父に私がこんな事になりましたのでどれ丈心を傷めた事でせう。私は親不孝者でした私は何て馬鹿だつたでせう」此時彼の兩眼に自然露が宿る「此處で御厄介に成つたばかりに私は自分も立派な日本人である事を初めて知りました、立派な國に生れさせて頂いた事をどんなに感謝していゝでせう。此處を卒業させて頂いた上は社會に出て私は懸命に働き、きつと父母に孝行致します。弟を助けてきつと立派に成ります。此處で受けた御恩は、天恩です。決して忘れません」斯くて金鐵の如き精神を植ゑ付けられた彼は勤勞に依つて忠孝兩全の道に進む可く着々と一歩々々をふみしめてゐる。

堅忍不拔の精神を成せば成るの信念を以て早來る可き卒業を前に益々涵養してゐる。

「人の性は善なりと言ふ可きである」願はくば殘餘の期間健康で無事彼等青年が卒業され實社會に立たれん事を府當局職員一同と共に祈つてやまない。

「健全なる精神は健全なる身體に宿る」

一緒言

神奈川縣勞働者訓練所
指導員　津田光造

一口に失業者の更生と云つても、其の程度や段階がいろいろ有るわけで、極く大雜把に分けて考へても、精神方面の更生卽ち心構への立直り方と、經濟方面の更生卽ち經濟生活の立直り方との二つの側面がある。勿論、此の兩側面は、宛も車の兩輪の如く、一體不可分なものであるから、精神方面が更生した事は則ち經濟生活の更生であり、經濟生活の立直りは則ち精神の更生、心構への立直りを語る事になる。

此の二つの更生の側面において、孰れを先にし、孰れを重んずべきかと云へば「仁を爲すこと己れに由る。而して人に由らんや」で、勿論、心構への立直りでなければならん。心構への立直りといふ事は、本人の心機、年齡、體質、環境等によつて、又千差萬別である。

爰に心機といふ言葉を使つたが、之れは佛敎の觀心に依つたのである。佛の眼から觀ると、衆生の心機といふものは、凡そ十界に分別される。地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、人間界、天道界、聲聞界、緣覺界、菩薩界、佛陀界がそれである。地獄界が最下劣の心機に住し、佛陀界が最高等の心機に住して居るものであるは謂ふまでもない。又十界互具と謂つて、たとへ心機は今地獄界の最下劣に住して居るにしても、其の一念の中には他の九界が具足されて居るのだから、心機發動すれば、地獄界に墮ちて居た提婆でも、畜生の龍女でも、忽然の間に等正覺を成じて、佛陀界に住する事もできるのである。是れは妙法蓮華經の提婆品に示された所の、惡逆の提婆、愚痴の龍女が、法華經の大功德によつて、芽出度く成佛したといふ佳話である。

今、失業者の多くは現代社會のどん底に突き墮され、或は自ら墮落した所の悲しむべき境涯に在る者である。其の心機は必ずしも地獄、餓鬼、畜生の心機に在る者とは謂へんが其の環境は地獄餓鬼畜生修羅のそれに譬へつべきものであらう。併し、其の境遇が貧窮下賤であるからと謂つて、其の心機までを一概に低級卑劣視するのは當らん。其の心機の高級なものに至ると、佛敎の開祖釋尊からして、當國においては、西行、良寛、日蓮などの名僧等は、自ら所謂「生活

安定」の境遇を欲せずして、一介の乞食（一所不住のルンペン）となつたのである。反對に、現代の社會には、其の境遇においてこそ「生活安定」らしき堂々たる構への中に住しながら、其の心機においては、地獄、餓鬼、畜生、修羅の悲むべき等級に住する者が多い。故に失業者にして心的救濟を要するものならば、斯くの如きの得業者（又は得財者）も亦心的救濟を必要とするのである。

但し當面の事業の目的乃至範圍においては、かくの如き廣汎なる社會の救濟は許されない。許されるにしてもそれは今後の問題であり、或は當面の事業の必然的發展として豫想される事業である。當面の事業とは、現代の社會において、定業を得んと欲して得られず、定職に就かんと欲して就かれず、止むを得ず失業して、地獄、餓鬼、畜生、修羅の境涯に身を沈めて居る若者を、心的物的兩面から救ひ出し、之に永安の道を得しめんとする事である。是れは固より「赤子の中一人も其の所を得ざれば、朕が罪也」と仰せられたる大御心の發動に由るものである。

當面の事業において救濟さるべき者は、孟子の謂ふ凡民である。孟子に謂はせると、「文王を待て而して後に興る者は凡民なり。若し夫れ豪傑の士は文王無しと雖も猶ほ興る」であるが、かくの如き豪傑の士は、固より當面の事業において救濟せらるべき對象ではない。文王を待たなければ更生し得られない凡民が對象である。かくの如き凡民においては、恒産有れば恒心有り、恒産無ければ恒心無き者であるから、恒産有らしむれば恒心有らしむる事は決して難事ではない。之れを率ゐる指導者さへ文王で有り得るならば、「斯の民は　天皇の直道にして行ふ所以で」あり、極めて御し易い良民である。之れに大慈悲の光熱を加ふれば、直ちに更生の意氣に芽生えし、之れに仁風を加ふれば、直ちに偃し靡く皇民たる者である。其の更生の佳話に至つては固より枚擧に遑がない。

二　恒産有る訓練所生活

士人君子豪傑の士は、たとへ失業して恒産無しと雖も恒心有り得るのであるが、凡民をして恒心有らしむるには、先づ之れに甘露の法雨を澍ぎ、恒産有る環境を得しむるに如くはない。蓋し、凡民の失業苦の要求においては、恒産を得るより急なるものはないからである。「民の仁におけるや水火よりも甚しきものあり」とは、之れを謂ふのである。

神奈川縣勞働訓練所は、實に文字通りに、內務省及び縣當局の御仁政の賜であつて、此處に收容された登錄失業者は先づ恒産が與へられたのである。どう云ふ內容の恒産かと謂へば、先づ失業應急土木事業に依つて、日々就勞すべき定業が與へられた。次に住所不定の生活に、訓練所といふ一定の住宅が與へられた。勿論家賃は出ない。電燈料、水道料、浴場料も出ない。それに寢具一切から、制服制帽制履まで貸與される。本人は每日現場へ出て就勞しさへすれば、それで一圓二十錢の賃銀が給與され、その中で三十五錢の食費を各自が出し合つて、炊事の賄ひは自炊であり自營自治であるから、一文の搾取もない。赤字を出せば各自の損、黑字を出せば各自の得である。別に日に二十五錢の小遣が、賃銀の中から渡される事になつて居るが、それも各自の心掛け次第で貯金にして積立てる事が出來る。食費と小遣とを賃銀から差引いた六十錢の金は更生貯金として、各自の名義で天引で積立てられる。故に之れで生活は安定し、此の住み惡い社會において、此の訓練所の生活だけは、地上における樂園である。昨年の十月末日から入所した訓練生は、今日（昭和十二年一月末日）迄に、滿三ヶ月間で平均四十圓から積立つて居る。中には前からの貯金も合せて五十圓、六十圓乃至七十圓に達して居る者もある。尤も其の間、二十圓、三十圓と引き出した者もある。けれども其の用途たるや、一々之を語れば、凡そ世の涙の種であるものが多い。家貧にして孝子出づといふは實に本訓練所の中に於ては、比々として此の類である。失業者には當然の前借の拂ひもある。寒空になれば、質屋の出し物もある。自分の身仕度もある。それを父兄友人等から仰いで居たのが、自らの勞働によつて自給する。公明正大の光りに輝くばかりではなく、此度は

反つて、恩返しに身寄りの貧困を扶助する事さへ出來たといふ幸福極まりなき榮光に耀くのである。報恩感謝の生活は、本訓練所においては、最早觀念の遊戯ではない。日々訓練生が體驗しつゝある所の事實である。お正月には二圓、三圓位酒を飲んだ者も有るが、之れも活き物である以上は咎め立てもなるまい。この新年元旦から、鶴岡八幡宮に誓つて、「昨年のための勞働から、來年のための勞働へ」「己れの爲の勤勞から、全體の爲の勤勞へ」の經濟生活更生の大願を立てたが、此の誓願は日々に成就されつゝある。「恒産有る者は恒心有り」といふ意味で、訓練生は皆恒心を失はず、報恩感謝の勤勞にいそしみつゝある。

三　訓練生の手記（松原秀君其他）

▽健全な精神力の恐しさ

砂搗き作業　連日の烈しい小間割り仕事で、身體が針で刺される程痛く、從つて歩行すらも困難を感ずる位、とても就勞などは覺束ないと思つたけれども、今日は精神力の力で闘ひ拔く決心を以て勇躍開始した。が、身體の障りには如何ともする事が出來ず、斷念しようとした刹那、ふと「勤勞誓願」中の「天將に大任を是の人に降さんとするや、必ず先づ其の心志を苦しめ、其の筋骨を勞し云々」を思ひ出し、幸ひこの名言によつて難るか否か、運命を天に任せて、體力と精神力の續く限り、頑張つて見ようと云ふ勇猛心と試練心が起り、遮二無二猛烈に名言を幾度となく繰返し〳〵、とう〳〵作業を全うした。其の時の悦びは今でも夢の樣に覺えて居る。健全な精神力の恐ろしさを始めて體驗した。

危險作業トロ押し　稲村ケ崎の突端、上を見れば崩れんとする數十丈の懸崖、見下せば荒狂ふ怒濤、この間に立つて何回となく崖石運搬の作業こそ、實に死を賭しての覺悟を要する難業だ。

思ひ起す、この地は新田義貞が勤皇の若人を引具して、北條一族を鏖滅せんとした足跡の俤を留むる。それに感奮して、とみに「勤勞以て大御心に報ひまつるべし」の「訓練七則」の强固な勇猛心を振動させた。至誠神に通じてか、一人の負傷者もなく、盛大なる開所式に參列するの光榮に浴し得た事を、先生と共に悦んだ。

たしかにこれは、敬神力と健全なる精神力との結合が然らしめたもの故、常に心魂に鞭打ち、信力を强盛ならしむべきだと思つた。ある朝、先生は一同に向つて、「諸君の生命は天より授かつたのだ。天に返せ。生れて來ないと思へばよい。今日はこれを忘れず、不平を云はず、勤勞に勤しめ」の訓示だつた。

其の時は、最も危險性の多いトロ押し作業だつたので、生徒間には火の燃ゆるが如き不平の極に達し、剩へ退所者さへも續出する有樣だつた。だから反感は積るばかりだつた。

しかし、先生はロではあゝ云ふものゝ、次の朝はこうだ。生徒がまだ寢靜まつて居る四時頃起床して、あの寒空に、冷水を幾度となく被つて、どうか生徒には一寸の傷も負はせぬ樣、神佛に祈願を籠め（現在も同じ）、身を以て生徒の先に立ち、聞くだに戰慄するトロ押し作業に獅子奮迅の勢で敢行され、目は窪み、頰は落ち、見る蔭もなき哀れな姿と化した。

この風體を見詰めた生徒達は、初めて先生の意中を推察し、感激の高なりを覺え、よしあの崖石に打碎かれ、身命を捨つるとも、報恩の爲、更生の爲、不撓の精神を以て勤勞報國に當るべしと考へ、こゝに不平は斷絶し、先生の教訓が一つ〳〵血となり、肉となつて、いよ〳〵更生の志氣が燃え上つた。

（筆者曰く）本訓練所は「己れに克つて禮に復るの修行をする道場であるから、どんな事があつても、不平を云はないだけの人間になれば、それで目的は達せられるのである。併し、これは最初、訓練生に取つていかに無理な註文であつたかといふ事は、昨年十一月二日（入所後五日目）に書いた太田健夫君の日誌の斷片を見れば、思ひ半ばに過ぐるであらう。

▽現場監督に侮辱される口惜しさ

籔内君は毎朝の如く明朗な氣持で訓練生一同と作業現場へ就勞した。現場での人員區所に際して、掛りの監督から、「前日同人はトロ押し作業に從事したるものなれば、本日も該作業に從事せよ」と命ぜられた。然るに、生憎同人は少しく足を怪我し、トロ押しの如き駈歩の作業には堪へ難いから、別の作業に當てられたいと、頭を低くして歎願した時、いかにも同人は仕事を忌み嫌ひ、殊更に假病を裝ひ、トロ押しを斷るが如くに誤解され、居合せた二三名の監督から、異口同音に「仕事が嫌なら訓練所の生徒だらうが、就勞を斷つてしまへ」とか、「縣の社會課に訴へる」とか、「飯の食ひ上げをさせてやる」とか、半脅喝的な言辭を弄し、聞くに堪へぬ罵言をあびせかけたばかりでなく、いかにも輕蔑と侮辱そのものゝ態度をして、當人籔内君のみならず、所生一同の希望に燃えた朝の快活さを微塵に碎いてしまふのだつた。當人は勿論のこと、所生一同も反感と侮辱感とに、むら〳〵と起る心の波を、訓練生なるが故に無理に押し沈めて、極めて從順に作業に就いたものゝ、當人籔内君は所生全般に不快を與へた責任感と、侮蔑された口惜しさとに、血に燃える若人の故に、如何とも自制し難く、それが爲めに怪我でもしてはと、單に休業の旨を掛りの監督に屆け出で、歸所休勞した。

（筆者曰く） 訓練生に取つては、雛場のトロ押しよりも、斯うした監獄部屋人夫そのものゝ如き扱ひを受けなければならない所の精神的苦痛が堪らないと云ふ者が多かつた。それに對して吾々の指導方針はどうであつたかと云へば、大死一番の覺悟を以て當れ、どんな事があつても一切不平を云ふ事はならんと云ふのだから、凡民には少々調子が高過ぎた。不平が起るのに身に受けた大恩を感じて居ないからだ。知恩報恩、禮を重んずべし。仁を爲すこと己れに由る。人に由らんや。勤勞の歌（所歌）を歌へ。と云つた所で、最初の中は何の事やら、さつぱり通じない者が多い。籔内にも通じなかつたので、とう〳〵彼れは退所してしまつた。といふわけで、不平を云はない辛棒無我の修行に堪へかねて、無斷退所、申出退所と、退所者は續出した。その中で松原秀君の如き秀逸者が辛うじて踏み留り、難關を押し切る事が出來たのである。そしてその難關を押し切つて、彼岸へ出る事の出來た今は、果して光明遍照の樂園淨土が眼前に莊嚴されてある事が、泌々と體驗され、報恩の生活に隨喜しつゝあるのである。で、今では、訓練生二十七名の中で、不平を云ふ者は一人も居なくなつた。いかにも皇民（おほみたから）の名に相應しい勤勞者として、日々新道路開拓の勤勞作業に勤しみつゝある。この頃の訓練生の日誌（高橋義雄君誌）には、次の樣な事が認めてある。

▽『訓練生は最近全然泣き言を云はない樣になつた』

今朝も誰一人の不參もなく、元氣で現場へ赴いた。今日も現場においての元氣は絶好だつた。西の空が茜色に彩られた頃、朱盆の樣な太陽が無言のまゝに宇宙の神祕と偉大さとを祕めて西に傾く頃、今日の作業をいづれも元氣で終つて疲れた脚をひきづりながら歸所につく。恰度、功成り名遂げ、自己の責務の完結に、無言の滿足を味つて歸る樣な快感——唯勤勞報國者我等のみが知る快感、感激。

今日現場である現場監督の言ふた言葉である、「訓練生は最近全然泣き言を云はない樣になつた」と。

（筆者曰く） 近頃では現場の崖石運搬のトロ押し作業にも、危險を感じる者がなくなつた。作業中、崖崩れに出逢ふ事は決して一再にして止らないのだが、訓練生の中には、未だ曾て岩に當つて怪我をした者は一人もない。間髪を容れない危急の場合に、何時も難を免れて居る。その度毎、訓練生は鶴岡八幡宮御守護の御神威を感じ、遙かに八幡宮に對して、いとも嚴肅に、脫帽敬禮をするのである。

一　はしがき

神戸市の失業者更生訓練道場は俸給生活者に對するもの（神戸市俸給生活者訓練所）および勞働者に對するもの（神

神戸市俸給生活者、勞働者訓練所所長　川　島　民

戸市勞働者訓練所）の二施設に區別し、俸給生活者訓練所は昨年十一月十日、かしこくも國民精神作興に關する詔書の下されたる日を以て開始し、豫定より四十日を遲延したのであつた。

又勞働者訓練所は更に遲れて本年一月十五日に至りて漸く開始の運びとなつたのである。何故か樣に遲延したかといふに、俸給生活者訓練所にありては適當なる指導員が迅速に得られなかつたのに加へて、訓練生の生活の資源たるべき小額給料生活者失業應急事業の被授職者約七十名中、訓練志願有資格者は僅に七名に過ぎず、從て定員の過半數は食費を自辨して訓練を志願する所謂自費生を募集せざるを得なかつたことが其の主なる原因である。

又勞働者訓練所の開始が甚しく遲延したゝめ、本省當局から嚴重なお叱りを受け恐縮したのであつたが、この開始遲延の原因は十一年度一般勞働者失業應急事業中、訓練生を就勞せしむべき豫定事業の着手遲延に加ふるに、着手後の作業の進捗を計りがたき止むを得ざる事情――それは此の種工事の通有事象たる用地買收、或は建造物又は農作品の撤去交渉が一進一退の難關に逢着し、爲に一部工事の着手を見るも積極的作業を行ひ得なかつたゝめで、眞に遺憾の極みである。

本誌に於て如斯開始遲延の事情を喋々するが如きは、辯解の筆致を弄するものとのそしりを受くるや計り難いが、貴重なる誌面を借りて之に言及する所以のものは、敢て辯解を試みんが爲ではなく、世上一切の事業が圓滑なる進行を遂げしめんとするには、その關聯する諸機關の圓滑なる運行を必要とすること、恰かも大にしては國政の如く、小にたとへれば人體のそれの如く、一部分の機能に障碍を生ずることが、延ひて全體の機能に影響を及ぼすに至るものであることの實例に逢着して、再思三省の要あることを告白するに他ならないのである。

二　訓練所の屋舍とその位地

A　俸給生活者訓練所　俸給生活者訓練所の正確な地名を云へば、神戸市兵庫區須佐野通一丁目眞光寺境内養德院――これが俸給生活者の訓練道場である。眞光寺は時宗一遍上人入寂の淨刹であつて、寺域六、六〇〇餘坪を有し、その一部にある建築後正に三百餘年を經たりといふ一寺院である。幸ひ眞光寺住職は失業者更生訓練施設の社會的重要性について、宗教家の立場に於て深き認識と同情をもつて特別の便宜を與へられたため、これを借受け道場としたのである。

此の附近一圓は晝夜往來織るが如き商店街ではあるが、その昔平相國福原遷都の計畫をたてたが潮流のため方に畫餅に歸せんとするとき、人柱三十人を沈むれば成就するといふ占言を信じて、往還の旅人を捕へて之に沈めんとせる慘事を聞いた讃岐の地頭田井某の長子松王は、三十人に代りて之を助けんとの大願を起して人柱となつたといふ有名な地、現在の兵庫區内の前述の街に在りて、所謂人柱問題の主人公清盛の古跡、清盛塚の北方約一丁に位し、前述の如き寺域廣大、風致絶佳、靜寂の境域であつて、實務訓練道場たる職業紹介所まで徒歩にて約三十分を要するに過ぎず、環境に於て亦實務訓練道場との距離に於て、巨費を投じて新築することの許されない現狀に於ては、『止むを得ざる好適地』だとの自畫自讃を諒とされんことを希ふ次第である。

B　勞働者訓練所　勞働者訓練所の設置場所は訓練生を就勞せしむべき對象事業との關係に付考慮を要する點に於ては俸給生活者訓練所と同樣であるが、その對象事業たる土木工事は全市に亘つて施行されるが、その使役人員少數にして、且多少の技術的勞働能力を要する市街地道路舗裝工事などにあらざる、大量の不熟練勞働者使用可能の工事なることを要し、從てその條件に合致することを必要としたゝめ、行政區域より云へば神戸市内に屬するも、市街の中心地より徒歩にて約二時間、もし唯一の交通機關たる市バスによるとすれば往復三十六錢を要する接續村落に於ける高峰起伏す

る山間の道路擴築工事（工事地區名――妙法寺――多井畑、妙法寺――車、妙法寺――丸山）を訓練生數個の勞働訓練工事と定め、この工事地域内なる妙法寺地區内に於て幸ひ多數を容るゝ借家を得て、之を勞働者訓練所に充てたのであるが右の政策的に見たる地理的價値以外の價値を云ふなれば、この村落は東神戸に於ける六甲山に相對して西の巨山鷹取山の西端北面の山麓に位し、戸數約百戸中約八〇％は舊農にして、都市接續村落なるも風俗、習慣等純然たる地方農村にひとしく、又地區内に妙法寺、萩の寺の名刹及奈須の與市の舊跡等あり、風景絶佳の地である。

三　俸給生活者訓練生の詮衡及收容人員並教育程度其他

前述の通り訓練志願有資格者數が失業應急事業の就業者約七〇人中僅に七名に過ぎざるため、定員二〇名に達せしむるまでの一三名は、これを一般より募集するの止むなきに至り、仍て職業紹介所俸給者部求職者中より自費生を募集したるに一七名の志願者中手續をなさゞる者二名、稍々精神に異狀ありと推測さるゝ者一名、計三名を除きたる一四名の自費生を得て安堵の胸を撫で下したのだあつた。しかし之等の自費志願者は父又は母の片親を有する者、又は兄のみを有する者多く、その家庭の事情――經濟的能力の優れたるものではなく、何れも訓練終了後の就職の光明を目ざして一ケ月約十二圓の費用を子弟のために投ぜんとする、涙ぐましき肉親愛からであつた。

それが延ひて志願者本人の責任觀念を強からしめ、確固たる決意を以て入所せんとする樣子は銓衡に當つた私の眼に明瞭に觀取され、吾々の責任の重且大なるを痛感せざるを得なかつたのであつた。從てその銓衡の態度も自から少しく度を超えた眞劍味も加はり、志願者の胸底深く追求せんとしたことさへあつたのである。卽ちその一例を擧ぐれば次の通りで、これは昨春某大學法科を卒業し就職難に惱みて入所志願に來れる某青年との問答である。

問　貴下は何故訓練所に這入りたいのですか。

答　修養したいからです。

問　訓練所は嚴格な指導方針によつて指導するのです。第一に禁慾生活を斷行させることは勿論、自由の行動は一切許さぬので貴下の樣に大學を出た方は馬鹿らしくて堪へられないでせう。

答　やつて見なければ斷言できませんが堪へ得ると思ひます。

問　左樣な薄弱な決意なれば入所せぬ方がよい。入所した以上斷乎として初志を貫徹することが誓へるなれば兎も角、でなければ市も迷惑であり貴下も亦無益でせう。

答　斷じて指導に背かず訓練に堪へることを誓ひます。

問　では此の宣誓をして下さい。

と所定の宣誓書左記

宣　誓

正業ニ就キ以テ國民タルノ本分ヲ盡サントスルモ實質ニ缺クル處アルタメ之ヲ果シ得ザルハ甚慚愧ノ至リニシテ、今回失業者更生訓練施設タル神戸市俸給者訓練所ニ入所御許可相受ケタルハ誠ニ感激ニ不堪、仍テ一切ノ敎化指導ニ背カズ必ズ優良ナル國民トシテ更生スベキコトヲ謹ミテ神靈ノ御前ニ宣誓ス

昭和　年　月　日

神戸市社會課長殿　　被訓練者

を提示するに熟視、再考、躊躇するため更に

問　正業に就きて以て國民たるの本分を盡さんとするも實質に缺くる處あるため之を果し得ざる……と云々が不服なの

でせう。

答　……。

問　貴下のクラスで既に就職された者と未だに就職のできない者の割合が解りますか。

答　約三分の一が就職しました。

問　では貴下はその三分の二に屬し就職難に惱みつゝあるのは何故だと考へますか。

答　私達の就職難は社會的原因です。

問　就職難乃至失業が所謂資本主義社會の必然的所産であるといふ見方から云へば、就職難乃至失業は社會的原因であるといふことは當然の考へ方であるが、左樣な社會の是非善惡は兎も角として現在の社會に生きてゆかねばならぬ——殊に現實の幸福を追ふ慾望を斷ち切れぬ人間として生きてゆくに必要な考へ方はどうですか。

答　職業にありつき社會的に又は經濟的に優越的地位を獲得するの外はありません。

問　現在の社會が生存競爭の社會であり優勝劣敗の社會であるといふことをどう考へますか。

答　それは否定しません。

問　貴下の否定しない所謂優勝劣敗の今日の社會に多數の失業者がある反面職業上の安定を得て幸福な生活を營み、國民としての本分を果してゐる多數の者のあること、又營利の基礎の上に立つと否との別なく資質の優れた者が歡迎され、重用され、兎角劣級者が用ひられない現象は何故ですか。

答　所謂優勝劣敗の社會なるが故です。

問　では貴下の就職難は社會的原因であることもその一であるとしても、失敬ながら實質に缺くる處ある爲に三分の二組に入つて就職難に惱んでゐるのではありませんか。

答　解りました……社會を正視できず、私の就職難は社會の罪だとのみ思ひ詰めてゐたのですが、矢張私に缺くる處があるからです。宣誓しませう。

以上の樣な試問はこれを學問的に見るなれば多くの非難を受くるであらうが、此施設それ自體が安積先生の所謂『不合理の合理』の上に存在する以上、非學問的な『不徹底の徹底』も亦やむを得ないと信ずるのである。しかし以上の樣な質問は知識階級中でも最高の學園を巢立ち就職難に喘いで入所志願をするに至つた者に對して行つた試問の一例に過ぎない。他の志願者に對してはそれ〴〵適當と信ずる程度の試問を行ひ入所せしめた者は二一名であつて、教育程度その他に付之を示せば次の通りである。

イ　教育程度調

教育程度	卒業					中途退學			合計
人員	高等小學	中等農學	中等商業	中學	大學法科	計	中等鐵道	中等商業	專門學校	計	
	一	一	一	一	一	一六	一	一	三	五	二一

備考　中途退學者——鐵道學校二年、商業學校五年、日大藝術科二年、同專門部一年、關大專門部二年。

ロ　年齡調

年齡別	二〇歲以下			二五歲以下			三〇歲以下			三五歲以下			合計
人員	一九	計		二一	二二	二三	二四	二五	計	二六	二七	二九	計	三一	三三	三五	計		
	一	一	一	三	四	二	一	一	二	一	三	六	一	一	一	三	二一

ハ 原籍地調

府縣別	兵庫	德島	廣島	鳥・取	鹿兒島	長野	埼玉	秋田	合計
人員	九	三	一	一	四	一	一	一	二一

ニ 續柄調

續柄別	戸主	長男	次男	五男	弟	從弟	孫	合計
人員	四	四	六	一	四	一	一	二一

ホ 前職調

前職別	事務員	常傭人夫	農業	卒業後未就職	合計
人員	一二	一	二	六	二一

備考 事務員内譯――官公署四、商店二、工場一、倉庫業一、運送業一、病院一、書生一、臨時一。

ヘ 失業及未就職期間調

期間別	三ヶ月以下	六ヶ月以下	九ヶ月以下	一年半以上二年	二年半以上三年	三年半以上四年	四年半以上五年	六年以上六年半	合計
人員	五	二	七	一	二	一	二	一	二一

備考 俸給生活者失業應急事業就業期間は失業及未就職期間として扱ふ。

右表の内特に注意を要する事は失業及未就職期間が一年半以上に達する者計七名、卽ち收容人員の三分の一に相當することにて、之等の長期失業乃至未就職者が訓練施設の創設によつて職業人とし、完全なる國民としての資質を獲得する機會を與へられたことが國家的及社會的に重要なる意義を有するものであると信ずるのである。

四 勞働者訓練生の銓衡及初期收容人員並教育程度其他

一方勞働者訓練生の銓衡に當つては志願者各自の教養程度及職業より見て試問の範圍、方法並に用語が知識階級に比して簡單の樣に考へることは失敗の原因となると思はれるのである。何故なれば彼等は知識階級に比し、單純であり、雜漠である丈け訓練施設に對する認識程度も淺薄であり、而もその放浪性が兎もすれば自暴自棄的行動に移變し易いからである。從て彼等の試問に當つては特に單なる目前の生活苦脫出の意圖による入所志願にあらざるや否やを究明する必要がある。卽ち現在の自己の境遇が自己の性格の缺陷が原因であることを自覺し、從て入所志願は修養を先行條件とし、身心を鍛錬して社會の要求に應じ得る人間となりて後正業に就かんとする更生の意氣に燃えつゝある熱烈、眞摯なる者なるや否やを考察するの必要あり、故にその試問に當つては『訓練所に入れば先づ飯にあり付けるから這入ろうなどゝの考へからなれば入れることはできない』と嚴然たる收容方針を示し、又その各個の有つ性癖が集團生活に支障の有無を究むる爲に『人間には無くて七癖といふが、一體幾つ位癖をもつてゐるか訓練所へ這入れば直ぐに分ることではあるが玆で云つて見て呉れ……』『今日までルンペンの樣な境遇にゐなければならなかつたのは何故か……』『親の命日は何日か、命日にはおがんだことがあるか……』などの試問を發するのに答へて『尻が落付かない癖がある……』『仕事のことで主人や目上からガミ〳〵云はれエー何うでもなれと嗔嘩をし失業したことが度々ある……』『仕事をやり始めると熱心に續けるが、休日とか何か氣に食はぬことがあると、それから怠け續ける癖がある……』『こんなに落ぶれたのは酒の爲です。酒を忘れる樣になり度いです……』等々、以上は僅かに二、三の例に過ないが入所を許した者の總ては自己の性格の缺點を自覺し、哀れなる自己を見詰めて自覺し、斷じて更生に向つて邁進すると云ふ既に精神的に更生の第一

歩に入り得た者であることは、銓衡の任に當つた私の歡喜の涙を禁じ得なかつたのであつた。而て之等可憐なる訓練志願勞働者の初期入所人員は二三名であつて、教育程度その他に付きこれを示せば左表の通りである。

イ 教育程度調

教育程度	卒業			中途退學			合計
	尋小校	高小校	計	商業	中學	公民校	計
人員	一三	六	一九	一	二	一	四
							二三

備考 中途退學者——商業學校一年一名、中學校三年一名、二年一名、公民學校一年一名。

ロ 年齢調

年齢別	二五歳以下			三〇歳以下			三五歳以下			合計
	二二	二三	計	二七	二九	三〇	三一	三三	三四	三五	計	
人員	二	一	三	六	一	一	八	一	二	二	三	四	一二	二三

ハ 原籍地調

府縣別	兵庫	大阪	德島	香川	高知	愛媛	東京	岩手	鹿兒島	熊本	合計
人員	一一	一	一	一	二	一	一	一	二	二	二三

ニ 續柄調

續柄別	戸主	長男	次男	三男	四男	弟	孫	甥	合計
人員	四	三	四	二	一	六	一	二	二三

ホ 前職調

職別	事務員	船員	自動車運轉手	青物商	菓子商	印刷業	賣藥商	行商	古物商	市電車掌	馬車挽	職工	農業	日傭人夫	竿竹商	合計
人員	一	一	二	一	二	二	二	一	一	一	一	一	三	五	一	二三

ヘ 失業期間調

期間別	三ヶ月以下	六ヶ月以下	九ヶ月以下	一年以上三年以下	三年以上	合計
人員	三	二	三	一三	二	二三

五 指導方針及訓練成績並就職狀況

失業者更生訓練道場の目的が『人間を造ることにある』とは衆口一致の言葉である。『人間を造る』とは其の直接の目標である失業乃至就職難から離脱させるに必要な各個の人間的價値の補正、充實——換言すれば各個のもつ魂に光輝を放つべき磨をかけ、眞の人間として錬へ直すことにある。從て同胞たる訓練生に、我國民として固有、獨特の精神を注入し、充實せしめて完全なる個人とし、職業人とし、社會人とし、國民として社會に送り出すべき重大な役割をもつものであることは云ふまでもない。然しながら宇宙が森羅萬象であり、宇宙の中にある社會も亦複雜多岐であり、社會を形成する人間も各外貌を異にすると同じく、その精神的內容も種々なる傾向をもつ。其の各個人を、同型の鑄型に投じて矯正せんとすることの困難なる事實であることは何人も首肯することである。從て訓練生の素質により、場合により强壓をも要し、かなりの無理を敢行せねばならないのである。

本施設に對する各都市の經營方法を聞くに、直營あり或は委託によりその目的を達成せんとするあり、而もその指導方針に至りては儒教により或は佛教により若くは基督教を以てする等各都市任意の指導方針を採つてはゐるが、然しそこに一貫せる指導原理は、我が神國日本民族の血管を流るゝ『日本魂』の洗練、强化にあることは云ふまでもない。本市に於ける訓練道場も此の根本精神に立脚してゐることは勿論であるが、その指導の手格方法については國民的指導階級としての自覺と教養、手腕を有つ專任指導員に全幅の信頼をかけて成功を期してゐる次第である。

試みに專任指導員の奉ずる指導方針の一端を示せば次の通りである。

一　指導方針　前代の驚異すべき國民的緊張と躍進との反動による惰風及前代文化の急進、速成のため生じたる頽廢的風潮のために之に處すべき內省と忠恕との創造的精神廢れ、一切を唯物的にのみ批判し去らんとし、私慾旺にして公義衰へんとする如き在來の因循の風より排脫せしめ、輕佻詭激なる傾向を匡し、我國傳統的生々發展の國民精神に徹せしむるを目的とし、理論に偏倚せしめず、時相に拘泥せしめず、常に公義に遵はしめ、力めて人に下り、人を愛し、人に結び、禮を重じ、然も不動、不退轉の氣魂を涵養せむとす。

二　精神的訓練と慣習鍛錬とを精神訓練に一歸せしむること

イ、精神訓練

祖宗、皇室崇拜を絕對とし、此絕對的信仰心の徹底のために神道、儒教、佛教の教義、文化を以て培養方法たらしめ國體觀念を徹底的に把握せしむ。

ロ、慣習訓練

右の精神により嚴肅なる行事を行ひ、座臥常住嚴重なる指導によりて臨機卽應の慣習訓練をなす。

ハ、常識、技能(實務)の涵養

特に社會各方面の指導的地位にあるエキスパートに囑して課外講座を設け、實務訓練によりて常識及實務の基本的教養を施す。

概略如上の方針によりて訓練せる結果については、勞働者訓練生に於ては月餘に過ぎざるため、その成績を發表する時期に至らざるも、俸給生活者に在りては著しく良好の成績を收め、一月三十一日現在の二〇名につき簡明にその進級狀況を示すなれば次の通りである。

訓練成績

區別	甲級	乙級	丙級	合計
入所當時	五人	六人	九人	二〇人
現在	一六	四	一	二〇

以上の通りであつて、訓練終了期の切迫と共に緊張の度愈加はり恰かも打たば火を發するの熱烈さを加へてゐるのである。

又訓練途上に於ける就職狀況を示せば左記の通りである。

三　就職狀況　訓練途上に於ける就職者は旣に昨冬中に二名の就職者を見たのであるが、それは訓練所入所前各所に就職運動をなせる結實であつて、本人は雇傭關係の成立望なしと思惟して訓練志願に及びたるに、入所後測らずも採用の歡喜を得たるものにて、他の四名は本春に入りて職業紹介所俸給者部の斡旋により決定せるものである。而てその就職先、職務、給料その他に付之を示せば次の通りである。(但二月一日現在)

就職先	人員	職務	給料	就職月日
神戸聯隊司令部	一人	庶務係	月四五・〇〇円	一月十一日
邦友商會	一	販賣係	月四〇・〇〇	同十二日
川崎造船	一	倉庫准員	日五・〇〇 月日二・四〇	二月一日
同	一	造船工場事務員	月日五〇・〇〇 二・〇〇 五・〇〇	同

右四名の就職者は訓練生としての本人及本市に於ても一般就職者と異り、特別の責任を感ずるため訓練終了期日迄は訓練所に在宿し、夜間及早朝の行事並に實務講習を課すこと未就職訓練生と同様の狀態に置き修養に精進せしめつゝあるのである。

六　勞働者訓練生の感激

失業者更生訓練施設開始に當つて特筆すべきことは勞働者訓練生の入所時に於ける感激の狀景である。夕食を終りて訓練生各別に就き入所の感想を聽くに、その總てが『豫想外の感激に打たれた』ことを告白するのであつた。彼等が異口同音に云ふところは『訓練所とは斯まで整つたところとは思はなかつた。堂々たる宿舍、新らしき寢具、制服、溫き食事……これ等を見ても當局の方々が吾々の爲に如何に御配慮されてゐるかゞ窺知され、感涙の他ありません。此の御配慮に對しても眞人間にならねば相濟みませぬ……』と云ひ、甚しき誤解をもてるは『訓練所は監獄の樣な處かと思つてゐました……然るに此の優遇は唯だ涙なしではゐられません……』とさへ云ふ者があつたのであるが、此感激は寧ろ當然と思はれるのであつた。それは彼等が入所當日迄、職を得んとして得られず、從て衣、食、住總て名實共に浮浪者にひとしき生活に喘でゐた者であり、試みに入所前の宿所を見るに左記の如く

訓練生前住調（第一期入所者）

前住所	東部共同宿泊料	東光寮（無料宿泊所）	西部共同宿泊所	西輝寮（無料宿泊所）	其他	合計
人員	八	五	一	三	六	二三

であつて、其他の中困窮せる母の下に起居せる者一名ある外他は居住の安定をさへ得難き者であり、二日乃至三日に一日の勞働によりてその食をさへ滿足に攝取せざりし者であり、常に更生の志望に焦慮せるも轉落せる身の自力更生の能力なく日夜悶々の裡に過し來つた者なるため、その希望の第一歩に入り、而も豫想外の優遇を受け、急激なる環境の變化に遇ひて精神的に衝激を來したる結果本然の人間性を取戻し得たゝめであると信じ轉た同情と歡喜の涙を禁じ得なかつたのであつた。

七　訓練施設の將來

ルンペンに更生訓練それは木に倚つて魚を求むるにひとしい……などゝ冷評的觀察をもつて此の施設の無謀なるを公言する者ありと聽くが、なるほどそれは全然不當の批評だとは云へぬ。何故なれば世間人ありと雖も眞の人間らしい者少きと同樣、多數の失業者乃至落伍者的境遇に呻吟せる者の中、更生可能の者は極めて少數に過ぎない實情から見て敢て酷評だとは云へぬからである。然しながら假令少數なりと雖も更生可能の者の存在する以上――その指導、訓育をなすことによつて完全なる人間となり得る者のある以上之を更生せしむることは社會的に見、又國家的に考ふるも將又人間として反省するなれば當然なさねばならぬ共存の義務であり、連帶の責務であると信ずる次第であつて、寧ろ現在の如き大規模の施設を許さゞる實情を嘆ぜざるを得ないのである。

彼の歐洲大戰を轉期として世界の狀勢は著しく變化し、就中その社會狀勢の激變の渦中に於て失業問題は最も重大性をもち、英國の如きは失業保險制度の實施によつて莫大なる國力を消耗し經濟的破局をさへ危ぶまれたのであつた。我國に於ても此失業問題のために昭和の初頭に於て積極的對策を要するに至つて、所謂失業應急事業が起興され、今なほ繼續施行せざるを得ない實狀にあり、從て之に要する國庫の負擔も巨額を算するのであるが、直接その事業を擔當する地方自治體の經費は更に國庫負擔の數倍に相當するであらう。

然るに此の失業應急事業に於ては一定の期間一定の賃銀を與へて僅に失業中の生活費を得さしむる、その名の如く應急的救濟策に過ぎず、從て失業者をして完全に更生せしむるに足る徹底的方策ではない、それ故に更生訓練施設は失業應急事業と並行してその規模に於ても更に大にし愈々積極的に行ふこそ現下の我國情に鑑み必要缺くべからざるものと信ずるのである。（以上「職業紹介」第五卷第三號所載）

勞働者更生訓練所設置前後の狀況と將來の展望

福岡縣勞働訓練所指導員　後藤龜四郎

內務省に於ては昨年の懸案として研究中なりし失業勞働者の更生訓練を創設せしむべく先づ六大都市並に福岡縣卽ち大府縣に指定して一齊に開設せしめられたり本施設に就ては大體の規準を示すべく九月二十日より八日間關係府縣より指導員二十名を招集し東京市小石川區護國寺月光殿に於て社會局倉橋理事官を道場長とし斯界に造詣深き多數の權威者も講師に聘し講習會を開催せらる。

小生特に本縣の推薦に依り他の一名と共に上京參加し該講習を規準として將來の希望と達成とを意中に畫き歸縣せり此講習期間倉橋場長、尼形講師、新國社會局屬は吾等二十名と寢食を共にされ殊に倉橋理事官は本講習を完全に終了すべき念願より嗜好の煙草まで禁ぜられたるを聽くに及び小生率先して之れに倣ひたり加ふるに社會局長官閣下始め部長、職業課長其の他高等官の方々開講當初より終了まで多數出席指導せられ熱意溢るゝ其狀況を思へば之れに報ゆるには犧牲的精神を以て斯道に專念すべきであると痛感したり。

是より曩福岡縣職業課に於ては吾等上京中十月一日より開所すべく花澤課長は課員を督勵して開所に遺漏なからしむべく晝夜兼行盡瘁せられしが開設場所たる八幡市營無料宿泊所の階上（縣が借入たるもの）準備整はざるため遲延を重ね漸く十月十五日開所するに至りたり當時職業課は事務局より縣移管早々殊に職員は殆んど總更迭の狀態なりしを以て諸事多忙なりしを想像せられたり。

扨十月十五日愈々福岡縣勞働訓練所なる名稱の下に開設し北九州五市卽ち八幡、戸畑、若松、小倉、門司の各職業紹介所より推薦せる合計三十五名の訓練生を入所せしめ襟の左に「福岡縣」右に「勞働訓練所」背面に「勞働訓練」の銘入バンド付法被にカーキ色ズボン靑訓流のカーキ色帽子に「更訓練」の徽章を付した帽子と制服着用の勇姿は恰も更生の第一歩を踏出したる表徵を强くし各位勇氣百倍したる感あり此の制服を纏ひ隊伍堂々行進午前十時縣社枝光八幡宮に於て知事代理辻學務部長、花澤職業課長、其他來賓多數參列の上嚴肅なる神職の修拔に始まり型の如く入所宣誓式を了へ正午より訓練所に於て幸先を祈るべく來賓訓練生一同簡單なる赤飯晝饗を共にし來賓の祝詞を頂き入所第一日の行事を無事終了し夕食後は翌日よりの仕事に支障なからしむべく準備を要するを以て自由外出を許したるが全員三十五名中三名は入所前の豫期に反したるものか家族の病氣其他に藉口して無斷退所せり然し此自由外出に依り三十二名は定刻午

後八時に全部歸所したる點より考ふれば基礎を形成する上に於ては却て好都合なりしを思はしめたり。

訓練生晝間作業土木事業は縣より既に交渉濟なりしを以て左の通り所屬を定む。

第一班一番より十五番迄八幡市失業應急土木工事　實人員　十四名。

第二班十六番より二十五番迄同市下水道新設工事　實人員　十　名。

第三班二十六番より三十五番迄同市道路修繕工事　實人員　九　名。

（イ）前記一番より二十番迄の内十七名は晝間作業終了後夜間縣立小倉工業學校に委託し仕上旋盤の技術を受講せしむ（講習は午後六時十分より同九時三十分迄三時間）

（ロ）技術受講せざる十五名を一般と稱し晝間作業のみ。

以上（イ）（ロ）悉く毎日午前五時起床點檢寢具整頓洗面用便後國旗揭揚遙拜食事等の行事を了へ午前六時現場に向け出發午前七時土工に從事し午後四時乃至五時歸所入浴國旗降下美化作業食事を行ひ午後八時より夜間行事として精神修養に關する講演講話座談會として入所前不規律なる生活樣式を更生せしめ雨天等晝間作業休止の場合は以上の外娯樂時間等を多分に織込み拘束に傾かず放縱に涉らざる程度の餘裕を與へ意氣伸長せしむ。

集合其の他の信號は太鼓を用ゆ。

夜間行事終了は午後九時を以て定刻とし技術班は午後十時より約二十分乃至三十分を限度とし定刻後は更生日誌を記載せしめたる後自由に就寢せしむ。

訓練所の規定としては一日の食費三十錢として强制貯金を日額十錢以上とし十二月末最高貯金一人四十圓に達するものあるも之等は稀にして病氣其他の事由に依り極めて僅少なるものあるを遺憾とす。

訓練生曰く土工從事中土砂崩潰等に依り同一場所に稼働中の非訓練生の町民に往々死傷者を出すことあるも訓練生に限り一回だに遭難せざるは朝夕神宮並に皇室に對する遙拜の御加護ならむと敬神の念益々深きを感ず。

本所入所生の異動は當初三十六名（補缺一名を含む）中不合理的退所五名、病氣四名、秩序紊亂行爲二名、計十一名にして十二月末現在人員は二十五名なり。

以上の如くにして失業青年を收容し將來を達觀し更生の目的を容易ならしむるには

一、夜間の技術講習を爲さしむは過度の疲勞に陷り故障を生ずる場合あり且精神修養の機會を減じ尙單期間の受講を以て就職の有力條件たるかの如く誤認し一方非講習者に羨望せらる。

但し全員技術受講者たらしむるに於ては可。

二、現在の狀況より觀察すれば訓練生は悉く恒久的の就職可能なるも年齡を二十五歲以下とせざれば會社工場の採用標準に合致せざるを以て考慮を要す。

三、現在訓練生（將來も同樣ならむ）は不規律なる生活を辿りたる者多く故に貯蓄心に缺け居るを以て訓練終了就職後の準備として强制貯金一日二十錢以上を勵行せしめ一ヶ月分の日給期間最少限度三十圓を要す。

但し訓練所入所中の賃銀は一日一圓十錢乃至二十錢の收入あるを以て食費三十錢貯金二十錢を控除するも尙六七十錢の殘餘あれば之れが實行敢て難事にあらず。

四、訓練所は獨立家屋なるを要し專任理事又は訓練生中當番順に依り食事調達せしむるを以て理想とす。

以上は訓練所に對する全般的の考察にして之れを基準とせば理想の實現も蓋し容易なるにあらざるか。

第一期更生訓練を終りて

福田畏保

（「職業紹介」第五卷第二號所載）

◇

去る二月二十八日第一期の訓練所修了式を擧行したる當福岡縣勞働訓練所は、私指導員の一員として自ら信ずるの道に向つて終始努力したつもりでしたが、其の五ヶ月間の實績を回顧して、今當局の御期待に副ひ得たるか否か、冷汗三斗の感なきを得ません。

此處に第一期の實績を顧みつゝ理想訓練の出來なかつた事を殘念に思つて居ます。然したゞこゝに第一期を修了するに當つて指導員も訓練生も顧みて感慨無量お互がたゞ感謝の言葉に終始しました。見えざる心と心の琴線ががつちりと觸れ合ふの氣持でした。こゝに私は一期の事績を回顧しつゝ私の感想を書かして頂きます。

◇

入所者は累計三十六名（內一名は一ヶ月後の補充）この內終を完したる者二十四名中途退所者十二名。この中途退所者の內容を見まするときに、病氣の爲めの者四名、不合理的退所者五名、秩序紊亂行爲者三名となつて居ります。

この病氣退所者の病名は二名が入所前の花柳病再發に依る勞働不能の爲め、他の二名は輕度の肋膜炎再發に依る勞働不能の爲でありました。

次に不合理的退所者五名の內容は、入所當日自由外出許可中無斷退所せる者三名他の二名は意志薄弱なる爲め中途退所せる者（內一名は退所後自らの意志薄弱と其不心得に對して私等指導員の許に謝罪と改悛の手紙を送附し來り間接の指導を仰いで參りました）。

右の樣な次第で約三割三分の中途退所者を出したる事となりましたが、先づ第一回の試みとして入所希望者と選擇者側も不慣の結果で止むを得なかつた事と思ひます。第二回以後に於ては相當の考慮を以つて選擇上の注意もし、入所希望者は又第一期修了者今日の就職其他の實績に鑑みて、相者の覺悟と用意を以つて來る事と思ひますから其の異動も第一期の如く甚しきものとはならぬと信じます。

◇

更に修了者二十四名の就職先は、

小倉工廠	三名	東洋製鑵	五名	安川電機	二名
國產工業	二名	日本足袋	二名	能本町工場	一名
滿洲移民	一名	土木管區	一名	警察官	一名
百貨店員	一名	訓練所入所希望	一名	近日決定	一名
未定	二名				

未定の內一名は訓練成績不良他の一名は先天的病氣を有せる者、以上の通り當訓練所に於ては、其就職先を出來得る限り民間有力會社に就職せしめ彼等をして各工場の熟練工として、工場內職工の中堅たらしめんと計畫しましたる結果この方面に於ては相當の成績を收め得たるものと信じて居ります。

此處に訓練所入所一名とありますのは、抑も本施設の趣旨には副ひ兼ねるとは思ひましたが、本人に於て熱烈に次期

入所を歎願申出ましたので、目下第二期入所を内諾して居る譯であります。各方面の御援助と御奔走に依りて、相當の生活安定を得たる彼等は、向後の努力如何に依りては、或る程度の進展を約束されたる事とて私等の手許に送られる手紙の内容に依りましても、緊張と光明とを以つて、其更生の狀況を認め得らるゝのであります。次に其内一二を御紹介申上げます。

前略其後先生には益々御壯健にて御暮しの事と御遠察申します、私もお蔭樣にて大元氣で日々を過して居ります。省みますれば在所中五ヶ月間は、親身も及ばざる御厚情に賴り、日夜私共の爲めに御奮鬪を惜しまず御盡力下さいました事は筆に書き表はすべきを知らずたゞ毎日を感謝とお禮にて一杯です。

非常なる御盡力に依りまして、私は今や將來への第一歩自己の第一歩が訪づれて來たのだと悅んで働いて居ります。五ヶ月前の私とは別なる人間の樣な氣持が致します。明るい氣持で希望の一點を攫み得た樣に感じられます。後略

又他の一文には

前略先生と寢食を共にし朝に夕に潔き禱の生活を續け陰に陽に御鞭達と御激勵を辱うし御訓育被下れし段、只管に感謝と御厚志に酬ひん者と惠まぬ我身に惠まれし現在の境遇を深く感銘し、五ヶ月間の聖き戰の連鎖として、亦生涯の記念すべき更生のスタートとして晨に黎明を迎え夕に無事の身を省み、身を忘れ家を去り只一筋に社會の爲め御國の爲と吾等の更生の爲めに、獻身的御奮鬪被下れし先生の御恩に對して、御宏恩に答へん者と職務報國の大旗を揭げ盡誠なる生活戰線を展開し勉勵致して居ります。後略

尙ほ之に續いて

炎ゆる樣な熱と意氣身魂より迸り出る眞愛の叫び冷徹心を攫み、精心を透して皇國の尊嚴と、信仰の力を養成し國體の骨となり、柱となつて又則ち眼目となる有爲の人物を造らんと粉碎骨身奉公の誠を盡す。偉なる哉聖戰之に適るなし云々。後略

右の如き手紙に接します時に、顧みて五ヶ月の努力が無意味なものでなかつた事を喜ばしく思ひます。救はれたる者の喜もさる事乍ら、不肖の身を以つて救ひ得たる私等の心は云ひ知れぬ喜の中に躍動せずには居られません。當所に入所せし當時彼等の多くは自己認識に缺け、たゞ依賴心のみ强く、そして不平と不滿の中に生きて居たこの點に就き、時にふれ折に觸れ個々面接を以つて彼等に個別的に其將來への動向を示してやつた事が相當に强い刺戟となつた樣に思はれます。

◇

當訓練所に於ては全員を三班に分離して各々異りたる現場に作業せしめましたが、出發時刻、歸所時刻に各差異を生じ、其の日々の訓練にも統一を缺き且現場に於ける勞力の多寡等は夜間に於ける精神訓練にも相當の支障を生じたる事は殘念でした、出來得べくんば訓練生全部同一の作業現場に同一作業に從事し他の勞働者との混同せしめられざる事を望ましいと思ひます。

又當訓練所に於ては全員の約半數を小倉工業學校の勞働者技術講習（夜間講習）に委託したが其結果は決して上々のものではなかつたと思はれました。第一に學校迄の距離が電車に依つても尙一時間以上を要し雲間の勞働より歸ればたゞちに講習に出掛けなければならず講習を終りて歸るのも大抵十時十一時となり翌朝五時の起床に對して常に睡眠不足を來たし延いては歸所後の精神訓練に對する時間にも手心を必要とせなければならぬ結果となり、この訓練の目的たる精神的なる更生にも無理が出來る事になり、且つ訓練生間に有りても普通勞働を課せる者が技術受講者を羨望するが如き空氣も暗に感ぜられ指導者側に在りても相當其間に苦勞した次第であります。

然し訓練生に對して技を授ける事其事は彼等の將來に對して必要な事であります、もし許されるものならば訓練所内に相當の準備を以つてこの機關を附設し、精神訓練と相呼應しつゝ其個性に適したるものを修得せしめて行つたならば

この訓練も一層の效果を擧げ得るものであると思ひます。

たゞこゝに於て餘程の注意と指導を誤らない樣に致さなければ技のみを目的として、其修得せるものを就職の武器として使用せんとするものなきを得ないと云ふ事であります。次に私はこの訓練の期間ですが之は私の經驗では四ヶ月間で充分ではないかと思はれます、或は之は當地方のみに考へ得られ全般的には駄目であるかも知れませんが、そして私はこの四ヶ月を次の樣に訓練したらと思ひます。又この第一期も主としてこの主義を以て見た次第です。第一月目は主として團體訓練をなします、この期間には相當嚴重なる半軍隊的に命令と服從を强要し團體的統一訓練を行はしめる、卽ち己を殺して衆に生くる事を敎へるそして落伍者は遠慮なく落伍せしめるの方針を取り、團體生活に於ける自己の立場を明白に認識せしめる。

第二月目に於て個人敎育に其主體を置く、第一月目に於て大體の個性に對しての見透しをつけたるものを以つて個々面接を多くし彼等の個々の內に突き込んで家庭的訓練に主體を置く。

第三月目には一月目と二月目とに於て得たる結果を持つてこの訓練期間中の主力をそゝぐべき月とする。

第四月目に於ては自治的訓練に其の主體を置き一切の行事其他も一々指導員の手を借りず、生活一切を自治的生活を以て行はしめる各人共に分擔せられたる責任者とする。

大體以上の如き方針を取りました。

◇

この失業者の更生訓練と云ふものも決して左程難事ではないと云ふ事をこの第一期を回顧して知りました、たゞこの訓練の時期と其期間とは其訓練所の設置せられたる地方に於て相當研究し考慮さるべきで全國統一的なものでは如何かとも考へられます。

軍需工業日々に旺盛なる當地と京都、名古屋地方の如き、其失業者の質に於ても條件に於ても相當相距るものがあるのではありますまいか。

尙又この訓練所が精神訓練よりも一歩を進め何か彼等の個性を生かし、腕を磨くの技を與へるものを其所內に附置し彼等の將來に備へてやる事も必要な事だと思ひます。たゞ之が當所第一期の經驗の如く外部に委託すると云ふ事は彼等の精神更生第一主義から見て好結果ではありませんから、必ず訓練所內に附設のものでなければならないと思ひます。

以上單に思ひ出すまゝを筆にまかして書き綴りました、幾多の誤認や何かがある事と思ひますが、第一期を終りての一感想文として御寬恕を御願ひ申し上げます。（「職業紹介」第五卷第五號所載）

四　東京府失業勞働者更生訓練施設概要

東京府昭和九年度失業應急事業多摩川洪水敷（左岸）埋均工事の附帶施設としての失業勞働者更生訓練は昭和九年十二月十一日（但し勞働護國會は十年三月十七日）より開始せられ翌昭和十年五月十五日終了した。其の間本施設に登錄收容せられた者は累計三三一名で、其の內中途退所者二一九名あり差引終了者は一一二名である。而して之等の勞働者は市內無料宿泊所宿泊者、屋外居住者冬季臨時收容施設（テント又は簡易バラック）等の宿泊者中健康にして比較的年少なる獨身青壯年要救濟失業者の中より選拔して今回新に登錄された者であり其の從事せる作業は前記の府失業應急事業卽ち多摩川左岸洪水敷に於ける砂利盜掘跡地約三萬坪の埋均工事である。

府は本失業應急事業の施行をして併せて右失業勞働者に對し更生訓練を行ふことゝし知事を會長とする東京府救護委員會をして之が宿泊及教化訓練施設を救世軍、上宮教會、修養團及勞働護國會の四社會事業團體に委託施行せしめた。

今之が概要を擧ぐれば左の如し。

一、事業の趣旨

現行失業勞働者の救濟事業は豫め職業紹介所に登錄せられた失業者を各種救濟土木事業に循環的に使用する方法で其の就勞割合五日に一回又は六日に一回最も良好の場合に於て二日又は三日に一回の割合となるに過ぎず故に今一日一圓三十錢の勞銀月六回の就勞として計算するときは月收七、八圓位最良の場合と雖も二十圓に達せず如斯救濟方法にては眞に救濟の目的を達し得ず而も使用せらるゝ勞働者は責任感を缺く憾み無きにあらず、東京府に於ては玆に鑑る處あり失業者救濟上に一生面を開くべく新規なる試みとして先づ青壯年失業者の更生訓練を目的に本事業を計畫實施せるものである。

二、工事の種類

世田谷區、大森區に跨る多摩川洪水敷に於ける砂利盗掘跡三萬坪の埋均工事であつて凡そ土木工事としては最も簡易作業なる爲未經驗の不熟練勞働者に最適の工事で事業は事業費一萬五千圓で內勞力費一萬三千九百圓勞働者使用豫定延人員一四、一二六人の計畫である。現場は多摩川の清流を距てゝ武藏野ヶ原の彼方富嶽を望みつゝ清澄なる大空の下、土に親しむを得、飽く迄健康的にして明朗の氣分を以て勞働し得る場所である。而して之等勞働者は現場附近近きは一、二丁遠くも五、六丁の場所に設けられたる委託團體經營の宿舍より每朝制服を着け隊伍を組み時には喇叭を吹奏して現場に通ふ。

三、救濟對象

市內無料宿泊所宿泊者、浮浪者、其他知識階級轉落者たる獨身の男子で勞働能力ある青壯年要救濟失業者を一定の宿舍に收容し每日就勞せしむ。賃銀は一日九十錢にして十五人に一人宛班長を設け、班長のみ一圓二十錢とす。食費一日三十錢程度の外は可及的貯金を勵行せしむ。故に工事完了迄には一人五十四圓を最高とし各人相當の貯金を得て工事終了後は更生貯金として充分活用せしめ得た。

四、登　錄

本事業に使用する要救濟失業者は東京市無料宿泊所並各委託團體に於て推薦した候補者中から東京府職業紹介所詮衡の任に當り、合格せるものに付勞働手帳を交付し各宿舍に收容する仕組である。

五、宿舍及教化訓練

宿舍の經營並收容者の教化訓練事業は東京府救護委員會より救世軍、上宮教會、修養團、勞働護國會の四團體に委託す。各團體は天幕張又は借家を以て宿舍に當て各自より食費實費を徵するの外全部無料を以て教化訓練に當る。訓練要項左の如し。

(イ) 精神訓練　右經營團體は救世軍五十五名の外は各三十名宛收容し責任を以て之が訓練に當る特に教化訓練に重きを置き一定日課(後記參照)を課するは勿論適宜講師を派して精神講話を行ひ又更生精神を注入して規律ある生活を勵行せしむ。

(ロ) 勞働訓練　一定の勞働時間現場に於ける作業に依り勤勞を樂しむ習性の涵養に努め健康の增進を圖る。

(ハ) 更生訓練　忍苦節約の生活に依り强制貯金を行ひ之を更生資金として終了後就職其の他他日勇飛の資たらしむ。

(二) 尙醫療其他必要なる施設は團體に於て考慮した。

各團體の宿舍左の如し。

○救世軍

名稱	救世軍勞働ホーム
位置	大森區田園調布一ノ一、四一九
敷地坪數	約五〇坪
建坪	三五坪(收容室)
便所其他建物	便所二棟二坪
建物樣式	木造瓦葺一棟、トタン葺一棟
收容定員	五十五名
宿泊室疊數	五八・五疊(一人當一・一疊弱)
宿舍設定方法	借家(家賃月十三圓)

○上宮教會

名稱	上宮教會多摩川寒天百日訓練會
位置	大森區田園調布四ノ一〇四
敷地坪數	一〇〇坪
建坪	一七坪(收容室)
便所其他建物	一五坪五勺

建物樣式	木造二階建
收容定員	三十名
宿泊室疊數	三七疊(一人當一・二疊强)
宿舍設定方法	借家(家賃月二十圓)

○勞働護國會

名稱	勞働護國會護國寮
位置	川崎市小杉五六六
敷地坪數	三六坪
建坪	二六坪
便所其他建物	一坪
建物樣式	木造二階建トタン葺
收容定員	三十名
宿泊室疊數	三八疊(一人當一・三疊弱)
宿舍設定方法	借家(家賃月三十三圓)

○修養團

名稱	修養團向上宿舍
位置	世田谷區等々力町一ノ二、六九九
敷地坪數	一一〇坪

建　坪　天幕二重張二〇坪（宿舍）
便所其他建物　一八坪
建物樣式　天幕張、一部バラック、板塀を廻らす
收容定員　三十名
宿泊室疊數　二二疊（一人當〇・七三疊强）
（備　考）　地代謝禮二十圓

六、宿舍日課

○救世軍　午前　五・〇〇時分　起床
五・三〇　聖書に基く訓話
五・三五　朝食
六・一五　現場に出發
午后　五・〇〇　歸所
五・〇〇—七・〇〇　入浴（毎日）
五・三〇　夕食　自由時間
八・〇〇　就床
備考　毎週月、木二回夜精神講話を行ふ
○上宮教會　午前　五・三〇　起床、人員點檢、洗面、內外掃除

六・〇〇　國旗揭揚、體操、靜座、禮拜、讀經、朝食
六・一五　作業場出發
午後　五・〇〇　歸舍、國旗降下
五・一〇　夕食、入浴、講話、娛樂
七・〇〇　靜座、禮拜、讀經
七・三〇　娛樂
八・三〇　ラッパの合圖で消燈
○修養團　午前　五・三〇　起床、洗面
六・〇〇　國旗揭揚式、服裝點檢、朝食
六・一五　整列、作業現場へ出發
午後　五・〇〇　歸舍、國旗降下式
五・一五　夕食、入浴、自由（時々講話又は娛樂）
八・〇〇　行事、就寢
○勞働護國會　午前　五・〇〇　起床
五・三〇　明治神宮遙拜、宮城遙拜、靜座
五・三五　朝食
六・三〇　現場に出發
午後　五・〇〇　歸所
五・〇〇—七・〇〇　入浴（毎日）

五・三〇分　夕食
七・〇〇　明治神宮遙拜、宮城遙拜、靜座
七・五〇—八・〇〇　自由散策
八・〇〇　就床

七、收容者の狀況

本施設に收容せる者は累計三三一名、內中途退所者二一九名、終了者一一二名で其の團體別內譯左の如し。

團體名	收容者總數	中途退所者數	終了者數	收容者總數に對する終了者割合	備考
救世軍	一一七人	七五人	四二人	三五・九%	
上宮教會	八九	六七	二二	二四・七	
修養團	九一	六四	二七	二九・七	
勞働護國會	三四	一三	二一	六一・八	
計	三三一	二一九	一一二	三三・八	

八、事業終了後の處置

(イ)農民訓練所入所　(ロ)機械工養成所入所　(ハ)家具工養成所入所　(ニ)更生貯金に依る自立誘導　(ホ)知識階級救濟事業採用　(ヘ)滿蒙移民の斡旋　(ト)職業紹介所の就職斡旋に努む

其の狀況左の如し。

尙更生心の挫折せざる樣少くとも一箇年間は其の動靜、生活成績を監視輔導することゝす。

終了者經過狀況

(昭和十年五月調)

經過團體別	救世軍	上宮教會	修養團	勞働護國會	計	割合
歸國	四人	三人	一人	四人	一二人	一〇・七%
南洋へ出稼	—	—	—	—	一	〇・九
北海道へ出稼	—	一	—	—	一	〇・九
農民訓練所入所	四	二	—	—	七	六・三
芝浦水道人夫	—	—	—	七	七	六・三
荒川區役所人夫	—	—	—	二	二	一・七
內務省護岸工事人夫	一二	七	—	五	二四	二一・四
東橫人夫	六	二	七	—	六	五・四
東京府工事人夫	—	—	—	—	二	一・七
靜岡縣水力發電所工事人夫	—	一	七	—	七	六・三
社會館人夫	—	—	—	—	一	〇・九
勞働館人夫	三	—	一	—	三	二・七
ひなた寮人夫	—	—	二	—	二	一・七
上田組人夫	一	—	—	—	一	〇・九
土工	一	—	—	—	一	〇・九
大工	一	—	—	—	一	〇・九

九、經費

經過＼團體別	救世軍	上宮教會	修養團	勞働護國會	計	割合
職工	一人	人	人	人	一人	〇・九%
製材工	一				一	〇・九
飲食業			一	一	二	一・七
おでん屋		一			一	〇・九
店員	一				一	〇・九
ミシン店	一				一	〇・九
行商	一				一	〇・九
外交員	一				一	〇・九
多摩川温室村			二	一	三	二・七
工場配達係					一	〇・九
ばたや			一		一	〇・九
護國會・止宿		一		一	一	〇・九
救世軍自助館止宿	三				三	二・七
就職依頼中	一	四	一一		一六	一四・三
合計	四二	二二	二七	二一	一一二	一〇〇・〇

本施設所要經費は左表の通四團體分合計四、八六七圓八七錢で之に對し救護委員會より交付せる金額は三、五四五圓に付差引委託團體負擔額は一、三二二圓八七錢である。

團體名	建設費	初度調辨費	經常費	計	救護委員會交付金	差引團體負擔額
救世軍	二三〇・二円	三七〇・五七円	九二八・〇六円	一、四三八・七五円	一、三三〇・〇〇円	一〇八・七五円
上宮教會	一一・八三	三八九・六一	六一五・九二	一、〇一七・三五	九〇〇・〇〇	一一七・三五
修養團	五七四・七〇	二一〇・七八	五四〇・一六	一、三三五・六四	一、〇〇〇・〇〇	三三五・六四
勞働護國會	—	四九九・五四	五九六・五九	一、〇九六・一三	二二五・〇〇	八七一・一三
計	七二六・六四	一、四七〇・五〇	二、六八〇・七三	四、八六七・八七	三、五四五・〇〇	一、三二二・八七

一〇、事業の效果

本事業の效果に就ては種々列擧し得べきも其の主なるものとして府は大體次の如く報告して居る。

(一) 作業能力を發揮せること

元來土木工事に經驗のない失業浮浪者階級なる爲め當初工事者側に於ては其の作業能力に付甚しく不安の念あつたが實際施行の結果は從來の市內紹介所勞働者に比し決して遜色無いのみか却て能率を擧ぐること著しきものがあつた、且仕事に影日向無く良く監督の命に服するが故に所期以上に工事を完全且つ丁寧に施行することを得た。

(二) 精神修養を積めること

各委託團體各々特色ある獨自の方法に依り早朝より就寢迄凡て規律ある日課の下に精神的訓練を勵行せるを以て

彼等勞働者の氣持に緊張と希望を與へたは勿論、其の精神は見違へる許り向上したことを認められた。

(三) 貯金を勵行せること

所得賃銀の一部は豫め誓約の下に半强制的に毎月貯金せしめたる結果無一物の彼等も遂に一定額の資金を得て或は更生の資として活用し、又は身の廻り品を整へて就職し、若くは懐しの鄉里へ歸還することを得た。

(四) 勤勞の習慣を得たること

働くに職無く居るに處無かつた彼等も一度宿舍に收容された後は連日安んじて多摩川畔に力の限り勞働を樂しむことを得て、健康の增進と共に勤勞の習慣を得たことは洵に彼等の人生にとり尊き體驗なりと思料せられた。

(五) 團體生活を樂めること

委託團體の周到なる配慮と慈愛深き取扱とにより多數雜居し乍らも毎日愉快に生活することを得、心身の鍛錬は固より朋友互に相助け相勵まし合ふことに因り人情美の存在と明朗なる社會の實在を體得させ得た。

昭和十年度冬季に於ても前年度施設の有效性に鑑み前年度同樣左記四團體宿舍に一團體二五名宛一〇〇名を委託し實施せしめたる處指導員の獻身的努力と訓練生の精勵は前年度同樣好成績を收めた。尚本就勞事業は十年度失業應急事業東京市世田ケ谷區等々力町及蒲田區雜色町地先多摩川洪水敷埋均工事にして事業費一三、八六〇圓、勞力費一二、〇〇〇圓の事業である。

委託團體	宿舍場所	經費	備考
救世軍	川崎市久根崎三一	一、二〇〇円	經費は全額救護委員會負擔
修養團	東京市蒲田區六鄉町一五四	一、一〇〇	
上宮教會	同　大森區田園調布町一〇四	一、一五〇	
勞働護國團	同　蒲田區六鄉町一	九七五	
計		四、四二五	

五　東京府農民訓練所概要

東京府に於ては昭和九年六月より管下在住の屋外居住者並失業者に對する從來の宿泊救護、授產施設等の消極的救護策より更に一歩を進めて積極的の更生策として之等不遇者の內身體强健、志操堅固なる者を嚴選し一定期間屋舍に收容し農業技術及精神訓練を與へたる後滿洲農業移民又は內地獨立農業者として更生せしむることを目的に府知事を會長とする東京府救護委員會の一事業として東京市蒲田區矢口町地先等の多摩川沿岸に寮舍を建て、農民訓練所（當初は勞働訓練所と稱する豫定なりし）を開設し其の經營を從來より失業勞働者及屋外居住者の救濟に協力し來りたる救世軍、修養團及上宮教會の三社會事業團體に委託し多摩川洪水敷約四六、〇〇〇坪を利用し訓練を實施せる處其の成績優良なりしを以て爾後益々組織の强化徹底を圖りつゝ訓練を繼續し昭和十三年三月迄に既に七回に亘り合計三一五名の終了生を渡滿せしめ現在他の農業移民と協力し北滿の僻地に於て希望と歡喜に滿ちつゝ未開地の開墾作業に孜々として努力すると共に兼ねて國防に從事し着々として更生の途を辿りつゝあり。

尙本訓練所は昭和八年度に於て計畫せるものなるも開設に準備を要し九年四月寮舍の建設に着手し六月に至り訓練を開始せるものである。

訓練所概要を擧ぐれば左の如し。

一、目　的　管内失業勞働者にして勞働に堪へ得る身體强健にして志操堅固なる者を收容して農業的及精神的訓練を與へ將來滿洲移住又は內地獨立農民として更生せしむることを目的と爲す。

二、組　織　東京府救護委員會の統括指導に依り庶務事項は東京府社會課、經理事項は東京府會計課に於て分掌す、而して農民訓練所に於ける實際經營は本會の委託に依り財團法人修養團、財團法人在日本救世軍財團、社團法人上宮教會の三社會事業團體其の衝に當る。

三、事業着手　昭和九年六月十二日

四、入所資格、募集方法及定員

東京府管內に居住する滿二十歲以上三十歲未滿の身體强健なる失業勞働者にして意志堅固なる者を選拔し身體檢査及口頭試驗の上入所を許可す、定員は一團體三十名宛三團體計九十名とす。

五、訓練期間　六ヶ月。

（東京府）

—多摩川河畔の農場—

六、農　場　東京市蒲田區矢口町、下河原町、下丸子町及大森區調布千鳥町地內多摩川河川（洪水）敷約四萬六千坪を三團體に於て分轄の上開墾耕作す、

七、寮　舍

(1) 修養團附屬宿舍　蒲田區矢口町七九七

敷　地　一四〇坪

建　物　洋風木造二階建

坪　數　本館　階下四五坪　階上四一坪二合
納屋　六坪

建築費　三、四五七圓

(2) 上宮教會附屬宿舍　蒲田區矢口町七九七

敷　地　一四〇坪

建　物　洋風木造二階建

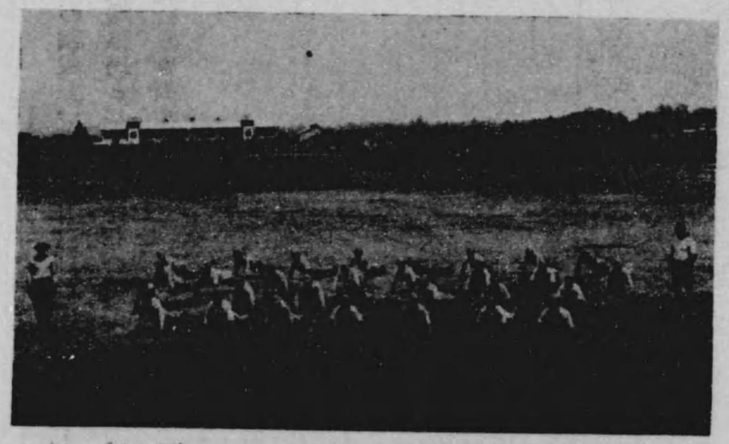
坪　數　本館　七二坪
納屋　四坪

建築費　三、一六八圓

(3) 救世軍附屬宿舍　大森區調布嶺町二ノ一、五二三

敷　地　二〇〇坪六合

建　物　和風木造平家建



（上　同）

—農民訓練所日課の體操—

坪　數　本館　四〇坪二合五勺　便所二坪
納屋　七坪

建築費　二、四六五圓

八、處遇方法　入所を許可せられたる者は訓練員とし給食を爲すの外一定の制服並一人一ケ月三圓の手當を支給し嚴格なる規律のもとに約半ケ年訓練し成績優秀なる者は滿洲農業移民として渡滿せしむ。

九、日　課　午前五時起床、午後九時就床、一日を通じ左記指定日課表に基き訓練を爲す

午前　五・〇〇時分　起床、點呼、靜座、國旗揭揚式、體操
六・〇〇　朝食、休憩、道具手入
七・〇〇　作業
正　午　晝食
午後　〇・三〇　作業
三・〇〇　休憩
三・二〇　作業
六・〇〇　終業、道具整理
六・三〇　夕食、休憩、入浴、精神講話、農業講話、讀書、自由、點呼
九・〇〇　就寢

雨天の際は主として讀書、修養を爲さしむること。

一日、十五日及祝祭日は休養とすること。

尙雨天及農閑期の爲適當に副業を考案すること。

一〇、終了生渡滿入植狀況

終了生は昭和十年四月三九名を始めとし昭和十三年三月迄に別表の通農業移民として既に七回に亘り合計三一五名を渡滿せしめたるも中に戰病死、轉職者等あり三月現在の現存者は二三八名である。

東京府農民訓練所滿洲農業移民入植狀況　（昭和十三年三月現在）

期別	渡滿年月	入植地	修養團	上宮教會	救世軍	合計
第一期生	昭和十年四月	哈達河移民團	一〇人（四）	一〇人（一）	九人（六）	三九人（二一）
第二期生	昭和十年十月	朝陽屯移民團	一四（五）	九（五）	三（一）	四五（二一）
第三期生	昭和十一年四月	黑臺移民團	九（五）	二（一）	一五（六）	二六（一三）
		永安屯移民團	一（一）	三（五）	一（一）	二一（一五）
		小計	九（五）	三（七）	一五（六）	四七（二八）
第四期生	昭和十一年十月	西二道崗移民團	一（一）	一（一）	一六（一〇）	一六（一〇）
		黑咀子移民團	一〇（四）	三（八）	一（一）	四一（三三）
		東海移民團	一（一）	一（一）	一（一）	一（一）
		小計	二一（五）	三（八）	一六（一〇）	六八（五三）
第五期生	昭和十二年七月	第一次訓練所外五ケ所委託	一四（四）	一〇（九）	一七（一〇）	五一（五〇）
第六期生	昭和十二年十月	向陽山訓練所	八（八）	一四（四）	一（一）	三三（三三）
第七期生	昭和十三年三月	湯原第五區移民團	九（九）	一四（一四）	一（一）	三三（三三）

期別	渡滿年月	入植地	修養團	上宮教會	救世軍	合計
合計			八五人（六〇）	二二人（八八）	一九人（九〇）	三二五人（二三八）

備考　一、左側括弧内數字は現存者を示す。
　　二、終了生には身體其の他の事情に依り渡滿せざる者若干名あり。
　　三、渡滿者には渡滿前約一ヶ月間茨城縣の日本國民高等學校に委囑移民としての豫備訓練を施した。

一一、經費

救護委員會より交付するものにして昭和十一年度迄の經費は左の通りである。

年度	修養團	上宮教會	救世軍	計
昭和八、九年度	七、五〇〇円	七、五〇〇円	七、三〇〇円	二二、三〇〇円
同　十年度	五、一〇〇	五、四〇〇	五、一〇〇	一五、六〇〇
同　十一年度	五、四五〇	五、六〇〇	六、五六〇	一七、六一〇
計	一八、〇五〇	一八、五〇〇	一八、九六〇	五五、五一〇

備考　本經費の外終了生の渡滿入植關係費として左の費用を支出す。

昭和十　年度	一四、四八九・九六円
同　十一年度	六、九六〇・四〇
計	二一、四五〇・三六

六　東京府知識階級青年失業者教化訓練施設概要

近時知識階級の青年にして失業又は未就職期間相當長期に渉る結果心身共に其の常態を失ひ遂に屋外居住者に轉落する者亦尠からざる實狀に鑑み東京府は之等青年中身體强健思想堅固なる適格者を銓衡の上小額給料生活者失業應急事業に就業せしむる一方新規の試みとして之を一定の宿舍に收容し嚴格なる規律の下に心身を鍛錬し又職業生活に必要なる實際知識技能を授け其の素質向上を圖らしむることゝし府救護委員會事業の一として昭和九、十兩年度に於て左の要領に依り「百日結集道場」又は「百日訓練道場」を開設實施し多大の効果を收めた。

(一)　增上寺百日結集道場（昭和九年度）

一、目　的　知識階級の青年として就業の意志と能力とを持ち乍ら就職機會を得ざるものを一定の職業に就かしめ且つ一定期間一定の宿舍に收容し嚴格なる規律の下に心身を鍛錬して職業に對する勤勞奉仕の觀念を養成し併せて職業生活に須要なる實際的知識技能を授け將來獨立生計者として更生自立せしむるを以て目的とす。

二、名　稱　東京府救護委員會委託「增上寺百日結集道場」

三、設立並事業開始年月日　昭和九年十二月二十二日。

四、組　織　東京府知事を會長とする東京府救護委員會の統轄指導に依り淨土宗增上寺直接教化訓練の衝に當る。
　　增上寺は適當なる指導員一名を常任せしめ隨時指導講師を招聘して身心の鍛錬並に職業に關する實際的技能を習得せしむ。訓練生は五人毎に一人の班長を置き嚴格なる規律の下に自治的生活を爲す。

五、期　間　自昭和九年十二月二十二日至昭和十年三月三十一日(一百日間)。

六、道場場所　芝區芝公園地一二號一佛心院内(市電增上寺前下車)。

七、定　員　二〇名。

八、資　格　管内に居住せる中等學校卒業以上の凡そ二十歳より二十五歳までの就職の意志と能力あり乍ら就職の機會を得ざる獨身の男子。

九、銓衡方法並處遇　前項資格を具備せる者に付東京府社會課に於て銓衡の上適當と認めたる者を「東京府小額給料生活者授職事業」の「授職員」として關係官廳に臨時就業せしめて若干の日給を支給し且つ道場に入場せしむ、道場に在りては訓練生として朝夕教化訓練す、訓練生は蒲團、机、身の廻り品を自辨し食費其他道場費若干額(一日約四十錢位)を負擔するものとす。

一〇、教化訓練方針

一、精神方面　精神講話、講習會、講演會、禮拜、靜坐。

二、身體方面　體操、運動、通勤は徒歩を原則とす。

三、其　他　美化作業、音樂、茶話會、節約主義。

四、學　科　習字、珠算、執務心得、謄寫等の實習。

一一、日課

時刻	行事
午前 六・三〇	起床、洗面、掃除、整頓、點呼(整列)。
七・〇〇	靜座、禮拜(三歸文、四弘誓願、總回向文、三唱禮、朗誦)國旗揭揚式。體操。
七・四〇	朝食(食作法)。
八・〇〇	出勤(徒歩、辨當持參)。
午後 五・〇〇	歸場(徒歩)。
五・三〇	夕食(食作法)。
六・三〇	教化訓練、技能實習。
八・〇〇	備考　月、木、修養講話。火、金、珠算習字。水、執務就職心得。土、時事問題講座。日、自由。 自由、入浴(隔日)。
八・五〇	靜座、禮拜、點呼。
九・〇〇	就寢。

一二、終了後の措置　各官廳に本採用又は民間會社に就職斡旋す。

一三、經費(交付額)　四〇〇圓

(二)　國民精神涵養百日訓練道場　(昭和十年度)

一、目　的　東京府管内在住知識階級の青年に對し國民精神涵養と人格の陶冶訓練により確固たる日本臣民道の信念を確立し就職の機會を與へ、職業を通じて祖國の進運に貢獻せしめんとするを以て目的とす。

二、名　稱　本會委託「國民精神涵養百日訓練道場」

三、道場場所　中野區新井町三九一　野方學院構内。

四、施行期間　自昭和十年十二月二十二日　至同十一年三月三十一日百日間。

五、定　員　二十名。

六、資　格　管内に居住せる中等學校卒業以上の凡そ二十歳より二十五歳迄の失業又は未就職の男子。

七、訓練方法　東京府小額給料生活者の授職事業授職者を百日間宿泊せしめ教化訓練をなす。

八、日　課　道場内に於ける日課は後記日課表に準じ朝夕常在指導員の指導に依り五人毎に一人の班長を置き自治訓練を爲し適宜指導講師を招聘し教化訓練並職業に關する實際的技能を習得せしむ。

九、主要學科　精神講話、講習會、習字、珠算、執務心得、謄寫事務、視察、見學、講演會、(見學豫定、鎌倉史蹟、中央市場、刑務所、松陰神社、小塚原刑場跡、取引所)。

一〇、費　用　訓練生は蒲團其他身の廻品並食費として一人一日四十錢乃至五十錢を自辨するものとす。

一一、日課表

	時刻	行事
午前	五・三〇分 六・〇〇	起床、洗面、整頓、美化作業。
	六・三〇	國旗揭揚、國民體操。
	七・〇〇	靜座(遙拜—神宮遙拜、皇居遙拜、出身地守護神遙拜、奉詠—御製、朗誦—道の光、朝禮—兩親先覺恩人知己並に相互朝禮)。
	七・三〇	朝食。
	八・〇〇	出勤。
午後	五・三〇	歸場、夕食、休憩。
	六・〇〇	學科、讀書。
	七・〇〇	自由時間(入浴)。
	八・〇〇	夜の行事、靜座、朗誦、遙拜(朝に準ず)。
	九・〇〇	就寢。

一二、經費(交付額)　五〇〇圓

七　名古屋市勞働者自彊會概要

失業勞働者をして徒らに失業救濟施設にのみ依存せしめず進んで之等に教化訓練を施して獨立自營の氣風を涵養し一般常傭勞働者として更生せしめ要救濟狀態より脫却せしむる一方策として名古屋市は昭和十年十月一日より「名古屋市勞働者自彊會」訓練施設を開設し十二月二十八日多大の成果を收めて三ヶ月の訓練を終了した。其の概要左の如し。

一　本會設立の趣旨

失業勞働者をして徒らに失業應急施設のみに依存せしめ消極的なる失業救濟に終始するは現下の社會狀態よりして妥當なる策ではない寧ろ之等失業勞働者に對し進んで教化訓練を施し彼等をして獨立自營の氣風を涵養せしめ一般常傭勞働者として更生せしめ要救濟狀態より脫却せしむることこそ眞に救濟の目的を達するものなるは論を俟たない所である。本市に於ては夙に本施設の必要を痛感しその具體的計畫を研究中の處成案を得たので昭和十年十月一日より訓練を開始するに至つた。

二、訓練施設及方法の概要